



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

令和元年度 公共ホール現代ダンス活性化事業 報告書

一般財団法人地域創造

はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、人材育成、情報提供、調査研究、財政支援などの事業に取り組んでいます。

平成 17 年度から始まった「公共ホール現代ダンス活性化事業」は、公共ホールの利活用や地域の活性化を図ることを目的として実施するもので、全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストを地域の公共ホールに派遣し、ホールとの共同企画により地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び公募のワークショップ）や公演を実施するものです。平成 29 年度より事業を 3 つのプログラム（A プログラム（地域交流プログラム）、B プログラム（市民参加作品創作プログラム）、C プログラム（公演プログラム））に分け、実施するホールが今後のダンス事業のビジョンに基づいてプログラムを選択し、翌年度以降他のプログラムを継続的に実施することが可能になりました。

この事業は、コーディネーター（コンテンポラリーダンスの公演や地域交流プログラムの企画に詳しい専門家）による企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っており、この事業をとおして公共ホールのスタッフの企画制作能力を高める機会としていただくことも狙いの一つとしています。

この報告書は、全国 18 か所（A プログラム 7 か所、B プログラム 3 か所、C プログラム 8 か所）の各地での取り組みを取りまとめたものです。この中には、実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画制作のノウハウや事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

コンテンポラリーダンスがアーティストの数だけダンスがあると言われるように、この事業も地域の実情の違いなどから、事業を実施したホールによって事業へのアプローチが全く異なるなど、地域の数だけモデルがある事業だと言えます。

この報告書が、地域の公共ホールで自主事業を担当されている方の参考となり、一人でも多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力をお伝えすることができれば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に取り組んでいただいた実施団体、事業の実施にあたりサポートいただいたコーディネーター、事業の趣旨にご賛同いただき派遣をご快諾いただいたアーティスト、その他多くの関係者の皆さま方のご協力により、事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

目次

事業概要

令和元年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要	2
平成31年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要	6
事業の流れ	8

実施内容紹介（実施日程順）・コーディネーターレポート

【Aプログラム】

宮古市民文化会館（岩手県宮古市）	10
荘銀タクト鶴岡（山形県鶴岡市）	16
神戸アートビレッジセンター（兵庫県神戸市）	22
野々市市情報交流館カメラ（石川県野々市市）	28
三次市民ホール きりり（広島県三次市）	34
白河文化交流館コミネス（福島県白河市）	40
土佐清水市立市民文化会館くろしおホール（高知県土佐清水市）	46

【Bプログラム】

半田市福祉文化会館 雁宿ホール（愛知県半田市）	54
ながす未来館（熊本県長洲町）	62
くにたち市民芸術小ホール（東京都国立市）	70

【Cプログラム】

北九州芸術劇場（福岡県北九州市）	80
（公財）西宮市文化振興財団（兵庫県西宮市）	86
川根本町文化会館（静岡県川根本町）	92
サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター（長野県上田市）	98
豊岡市民プラザ（兵庫県豊岡市）	104
あわぎんホール 徳島県郷土文化会館（徳島県）	110
（一財）こまき市民文化財団（愛知県小牧市）	112
宗像ユリックス（福岡県宗像市）	114

事業資料

公募ワークショップチラシ／当日パンフレット	118
平成31年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱	130
コーディネータープロフィール	135

事業概要

令和元年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要

1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

2 実施内容

(1) 実施団体（都道府県順）

市町村名	実施団体名	主会場（実施ホール名）
【Aプログラム（地域交流プログラム）】		
岩手県宮古市	NPO 法人いわてアートサポートセンター	宮古市民文化会館
山形県鶴岡市	鶴岡市	荘銀タクト鶴岡
福島県白河市	NPO 法人カルチャーネットワーク	白河文化交流館コミネス
石川県野々市市	(公財) 野々市市情報文化振興財団	野々市市情報交流館カメリア
兵庫県神戸市	(公財) 神戸市民文化振興財団	神戸アートビレッジセンター
広島県三次市	(株) 暮らしサポートみよし	三次市民ホール きりり
高知県土佐清水市	土佐清水商工会議所	土佐清水市立市民文化会館 くろしおホール
【Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）】		
東京都国立市	(公財) くにたち文化・スポーツ振興財団	くにたち市民芸術小ホール
愛知県半田市	半田市	半田市福祉文化会館 雁宿ホール
熊本県長洲町	(株) 舞台風	ながす未来館
【Cプログラム（公演プログラム）】		
長野県上田市	上田市	サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター
静岡県川根本町	川根本町	川根本町文化会館
愛知県小牧市※	(一財) こまき市民文化財団	小牧市市民会館
兵庫県西宮市	(公財) 西宮市文化振興財団	西宮市フレンテホール
兵庫県豊岡市	NPO 法人コミュニティアートセンタープラッツ	豊岡市民プラザ
徳島県※	(公財) 徳島県文化振興財団	あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）
福岡県北九州市	(公財) 北九州市芸術文化振興財団	北九州芸術劇場
福岡県宗像市※	(公財) 宗像ユリックス	宗像ユリックス

* 対象は地方公共団体、公益法人、指定管理者

※新型コロナウイルス（COVID-19）の感染が拡大している状況を受け事業中止

(2) 開催時期

令和元年7月～令和2年3月

(3) 事業内容

登録アーティストを地域に派遣し、地域の公共ホールと共催で以下のいずれかのプログラムを実施。実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョンに基づいて選択し実施。

① Aプログラム（地域交流プログラム）

学校や福祉施設等でのアウトリーチ及び公募によるワークショップ（4～5回）

*アウトリーチ（3回以上） *公募のワークショップ（1回以上）

② Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）

市民参加で創作した作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）

③ Cプログラム（公演プログラム）

登録アーティストのレパートリー作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）

(4) 研修会

①全体研修会

日時：平成30年7月30日（月）～8月1日（水）

場所：東京芸術劇場 *地域創造フェスティバル2018と同時開催

内容：事業の実施に必要な基礎的な考え方、企画・制作の進め方等についてのノウハウの提供及び登録アーティストによるプレゼンテーション

②現地見（個別研修）

事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、登録アーティスト及びコーディネーター等を現地に事前に派遣

(5) 費用負担

地域創造と実施団体が負担する主な経費区分

1) 地域創造が負担する経費

①登録アーティスト等派遣経費

派遣対象者の出演料等、現地移動費を除く交通費、宿泊費、日当、損害保険料

※派遣対象者

【Aプログラム】 登録アーティスト、アシスタント（ソロの場合1名）

【Bプログラム】 登録アーティスト、クリエイションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）

【Cプログラム】 登録アーティスト、共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）

②公演負担金（Bプログラム及びCプログラム）

実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、対象経費の2/3以内で50万円を上限に実施団体に対して負担

2) 実施団体が負担する主な経費（実施するプログラムで異なる）

上記1)以外の現地移動費、会場使用料、舞台製作費（舞台・照明・音響などに係る経費）、広報宣伝費など諸経費

(6) 事業実施に対する支援

①全体研修会の開催

②コーディネーターの派遣

(7) 主催・共催等

主催：開催地の地方公共団体等 共催：一般財団法人地域創造

3 令和元年度コーディネーター

大澤 苑美（八戸市新美術館建設推進室 主事兼学芸員）

小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

神前 沙織（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network チーフ・コーディネーター、プランナー）

坂田 雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター / 株式会社 reto プロデューサー）

中富 勝裕（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

中西 麻友（NPO 法人芸術家と子どもたち 事務局長）

宮久保真紀（Dance New Air チーフプロデューサー）

（2020年4月現在）

4 2018・2019年度登録アーティスト（五十音順、ソロ・デュオ順）



©bozzo

●北尾巨

幼少より舞台芸術に携わり、クラシックバレエからストリートダンスまで多様なジャンルを経験。2009年ダンスカンパニー [Baobab] を旗揚げ、全作品の振付・構成・演出を担う。これまで12回の単独公演に加え若手ダンスフェスティバルを主催、国内外のフェスティバルに参加。個人として多数の演劇作品、TVCM・映画・ドラマに振付。ダンサー・俳優として近藤良平、中屋敷法仁、山本卓卓などの作品に出演、4カ国20都市以上で舞台に立つ。横浜ダンスコレクション2018コンペティションI ベストダンサー賞、ほか多数受賞。尚美学園大学、桜美林大学非常勤講師。



©Tepei Hori

●鈴木ユキオ

世界40都市を超える地域で活動を展開し、しなやかで繊細に、且つ空間からはみだすような強靱な身体・ダンスは、多くの観客を魅了している。2008年「トヨタコレオグラフィーアワード」での「次代を担う振付家賞（グランプリ）」など受賞多数。国内外のダンスフェスティバルへの参加やモデルやミュージックビデオの出演などのほか、小学生出演ダンス作品の振付・演出や、障害のある方へのワークショップなど、身体と感覚を自由に開放し、個性や感性を刺激する表現を生み出す活動を幅広く展開している。http://www.suzu3.com



©松本和幸

●田畑真希

タバマ企画主宰。3歳からクラシックバレエを始める。高校生の頃、トゥシューズを履いて踊ることに疑問を感じ、さらなる表現を迫るため桐朋学園短期大学演劇科に入学。演技、日舞、狂言、アクロバット等様々な表現を学ぶ。紆余曲折を経て再びダンスの世界へ。2007年より振付家としての活動を始める。滑稽なまでに紡ぐ作風には定評があり、国内外で精力的に活動中。7カ国17都市にて作品を上演し好評を得る。近年は様々な世代を対象としたワークショップを展開し、性別、年齢、経験などの差異を超えて、誰もが楽しみながら出来る身体表現の促進を目指す。横浜ダンスコレクション R2009にて「未来に羽ばたく横浜賞」「マスダンザ賞」をダブル受賞。



●田村一行

1998年大駱駝艦入艦、磨赤兒に師事。以降、大駱駝艦全作品に出演。2002年、『雑踏のリベルタン』を発表。同作品により第34回舞踊批評家協会新人賞受賞。2008年、文化庁新進芸術家海外留学制度によりフランスへ留学。地域の文化や風土を題材とした作品の創作にも意欲的に挑み、独自の作品を発表し続けている。小野寺修二、宮本亜門、白井晃、渡辺えり、笠井勲、ジョセフ・ナジの舞台など客演も多数。また、子供から高齢者まで幅広い対象者への舞踏ワークショップ・インリーチを各地で展開し、好評を得ている。



© 小林智之

●長井里奈

舞台芸術集団「山猫団」主宰・演出家。「伊藤キム+輝く未来」、「まことクラブ」にてダンサーとして国内外の様々な劇場のみならず、ライブハウス、商店街、美術館、廃墟などありとあらゆる場所でパフォーマンスをしてきた経験を生かし、ソロアーティストとしても活動中。少女からアバズレまで、ライオンからロボットまで、ダンスから一人芝居まで、体を使ってできる事ならなんでも取り入れる。日本各地でワークショップなどの普及活動も積極的に行う。



© 金子愛帆

●中村蓉

早稲田大学在学時コンテンポラリーダンスを始める。ルーマニア・シビウ国際演劇祭、東アジア文化都市式典（韓国光州・横浜）など国内外で作品を上演。二期会オペラ『ジュリオ・チェーザレ』ロックバンド sumika「MAGIC」などMVの振付も担当。郷ひろみ「笑顔にカンパイ！」アプリル・ラヴィーン「Hello Kitty」MVにも出演。〈歌謡曲スイッチ〉と題し、八代亜紀「雨の慕情」など名曲の歌詞に登場する人物になり切って踊るダンスワークショップを各地で展開中。第1回セッションベスト賞（2012）、横浜ダンスコレクション EX 審査員賞・シビウ国際演劇祭賞（2013）、第5回エルスール財団コンテンポラリーダンス部門新人賞（2016）など受賞。



©FUZZY

●東野祥子

ANTIBODIES Collective 振付家・ダンサー。10歳からダンスをはじめ。2000～2014年「Dance Company BABY-Q」を主宰。国内外の劇場やフェスティバルにて舞台作品を数々発表。ミュージシャンと即興セッションを多方面で展開する。トヨタコレオグラフィアワード、横浜ソロ×デュオ〈Competition〉+などで大賞を受賞。2015年、京都に活動拠点を移し、「ANTIBODIES Collective」を音楽家のカジワラトシオと結成。多ジャンルのアーティストとともに大掛かりな舞台作品制作やパフォーマンス、インスタレーションなど全国並びに海外にて他数実践している。またダンサー育成のWSや学校へのアウトリーチなども精力的に展開し、地域の活性化に根ざした活動を実践している。



© 平野愛

●セレノグラフィカ [隅地菜歩 + 阿比留修一]

1997年隅地菜歩と阿比留修一によって結成し、関西を拠点に活動を展開。デュエットの創作を基軸に方法論の確立と解体を続行、現在に至る。カンパニーカラーとして、多様な解釈を誘発する不思議で愉快な作風、緻密でどこかコミカルな身体操作が挙げられる。隅地のTOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD2005「次代を担う振付家賞」受賞後はリヨン、パリ、ロンドン、釜山、パースなどでも作品を上演。また07年以降は全国各地で市民参加作品を多数創作する他、教育機関へのアウトリーチも積極的に行い定評を得る。近年は大学での講義も含め、シンポジウムへの登壇など、ダンスの多様な発信にエネルギーを注いでいる。
<http://selenographica.net/>

平成 31 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要

1 期 日

平成 30 年 7 月 30 日（月）～ 8 月 1 日（水）

＊地域創造フェスティバル 2018 と同時開催

2 会 場

東京芸術劇場

3 目 的

- ・事業の趣旨・役割を理解する。
- ・コンテンポラリーダンスのワークショップを体験し理解を深める。
- ・ダン活の企画づくりをするために必要な基礎知識を習得する。
- ・ディスカッション等を通じ、それぞれのホールがダン活を実施する際のミッションを明確にする。
- ・登録アーティストによるプレゼンテーションなどを通して出演アーティストの情報を得る。
- ・事前にホール内で考えた企画原案をもとに、コーディネーターと相談しながら企画を具体化する。

4 プログラム内容

7 月 30 日（月）

時間	会場：リハーサルルーム L
14:00 ～ 15:30	セッション①「ワークショップ」 講 師：アーティスト 楠原竜也、村越麻理子（アシスタント）
着替え・休憩	
16:00 ～ 16:30	セッション②「事業概要説明」
休憩	
16:40 ～ 19:30 (途中休憩あり)	セッション③「ダン活で取り組みたいこと&ディスカッション」 講 師：コーディネーター 坂田雄平（進行）、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、中富勝裕、中西麻友、 宮久保真紀

7月31日（火）

時間	会場：シンフォニースペース、シアターイースト
10:00～11:30	セッション④「ダン活セミナー～ダンスと地域をつなぐ面白さ、ダンスの可能性に迫る」＊ 講師：コーディネーター 大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中富勝裕、中西麻友、宮久保真紀
休憩	
11:40～12:30	セッション⑤「ディスカッション②」 講師：コーディネーター 宮久保真紀（進行）、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中富勝裕、中西麻友
昼休憩・着替え	
13:30～15:10	セッション⑥「アーティストプレゼンテーション」＊ （登録アーティスト4組4名）
休憩	
15:20～17:00	セッション⑥「アーティストプレゼンテーション」＊ （登録アーティスト4組5名）
移動（着替え）・休憩	
17:20～19:20	セッション⑦「フィードバック」 講師：コーディネーター 中富勝裕（進行）、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中西麻友、宮久保真紀
移動	
19:30～21:00	交流会（情報交換会）

8月1日（水）

時間	会場：シンフォニースペース
10:30～12:30	セッション⑧「フィードバック～企画発表」 講師：コーディネーター 中西麻友（進行）、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中富勝裕、宮久保真紀
昼休憩	
13:30～15:00	セッション⑧「企画発表」 講師：コーディネーター 中西麻友（進行）、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中富勝裕、宮久保真紀
15:00～15:15	事務連絡

*のセッションは、地域創造フェスティバル 2018 のプログラムとして公開

事業の流れ（9月実施のケース）

時期	(一財) 地域創造	コーディネーター	実施団体	アーティスト
平成30年度 7/30～8/1	全体研修会（アーティストプレゼンテーション）			
8/17 締切	実施計画案の確認		実施計画案作成・提出	
	(仮) 日程調整		(仮) 日程調整	
9月下旬	コーディネーター会議 (事業日程、アーティスト、担当コーディネーター決定)			
平成31年度 4月上旬	決定通知発送		各種準備 (内容詰め、宿泊手配、制作スケジュール打合せ等)	
4月下旬～	コーディネーター アーティストの派遣	個別研修（現地下見） (1回)		
7月上旬	計画書の内容確認		実施計画書作成	
	契約書作成		実施計画書提出 (事業実施2か月前)	
	契約締結		契約締結	
			広報、各種調整 (全体スケジュール、フェカル、当日スタッフ体制等の調整)	
9月	事業実施			
10月	出演料等支払			出演料等請求
			実績報告書等提出 (事業終了後1か月以内)	
令和2年度 6月	事業報告書発行			

実 施 内 容 紹 介

(実施日程順)

コーディネーターレポート

Aプログラム

(地域交流プログラム)

実施団体	特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター		
実施ホール	宮古市民文化会館		
実施期間	令和元年8月28日(水)～8月31日(土)		
アーティスト等	アーティスト：北尾巨	アシスタント：米田沙織	
コーディネーター	大澤苑美		
<p>■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）</p> <p>① 8月29日 10:00～10:45、小山田保育所、年長クラス、15名、保育所内ホール</p> <p>② 8月30日 9:50～10:30、宮古泉幼稚園、ばら組、23名、園内ホール</p> <p>③ 8月30日 10:35～11:15、宮古泉幼稚園、ゆり組、23名、園内ホール</p> <p>④ 8月30日 14:00～16:00、県立大学宮古短期大学部、ダンスサークル、3名、宮古市民文化会館大ホール</p> <p>《ダン活枠外》8月30日 11:20～12:00、宮古泉幼稚園、あさがお組、23名、園内ホール</p> <p>■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）</p> <p>① 8月31日 14:00～16:00、中学生～30代、無料、12名、宮古市民文化会館大ホール</p>			

スケジュール

	下見	
	7/25(木)	7/26(金)
9:00		
10:00		小山田保育所 下見
11:00		WSテクニカル 打合せ
12:00		
13:00	宮古着	宮古短期大学部 下見
14:00	打合せ	宣伝動画撮影
15:00		↓
16:00	宮古泉幼稚園 下見	宮古発
17:00	打合せ	
18:00		
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
8/28(水)	8/29(木)	8/30(金)	8/31(土)
	小山田保育所 アウトリーチ	宮古泉幼稚園 アウトリーチ	準備
	移動	↓	↓
	昼食	昼食	
	市内視察		
	教育長表敬訪問	宮古短期大学部 アウトリーチ	公募WS
宮古着		↓	↓
打合せ			
↓	打合せ		
			宮古発
交流会			

アウトリーチ

当館ではこの事業で幼稚園・保育所の子どもたちと、市内にある短期大学のダンスサークルに対してアウトリーチを実施した。選定の理由としては、どちらも再オープン以降アウトリーチ先として実施しなかったことがなかったため、新しいコミュニケーションツールとして、コンテンポラリーダンスを活用できないかと考えた。

①小山田保育所

年長を対象に実施。普段の生活の中でもダンスを取り入れており、どの子どもダンスへの興味や好感度が高い子どもたちであった。また先生方から今後の振付の参考になるような内容の希望があり、日常生活の動きを元にしたダンスは大変好評であった。先生方も実施前後での子どもたちの表情の変化を読み取ったようで、次回があればまた来ていただきたいとお言葉いただいた。

②宮古泉幼稚園

保育所同様、年長を対象に実施。ダンスは運動会で踊る程度で、アーティストが来てのダンス教室は先生方も初体験だった。ダン活枠で2コマ、会館自主事業で1コマの計3コマを行ない、すべてのワークを撮影していた幼稚園側のカメラマンは、子どもたちの表情の変化に驚いていた。最初は何をするのか不安そうだった子が多かったが、次第に表情がほぐれ、積極的にワークに取り組んでいた。

③県立大学宮古短期大学部

初めてダンスサークルへ向けて実施。1時間近くにわたるストレッチを行ったあと、普段映像を見ながら振りを覚えているということで、自分たちで振りを作ることに挑戦した。普段の振りとは異なる動きに戸惑いを見せていたが、日常の動きを起点としたダンスは新しい気づきだったという感想をもらった。



小山田保育所



宮古泉幼稚園



宮古泉幼稚園



県立大学宮古短期大学部

公募型ワークショップ

当館は平成 26 年の再オープン以降、ダンス事業の実施がなかったため、今回のダン活で初めての一般向け公募ワークショップとなった。コンテンポラリーダンスの普及を軸に、新しい自分と対面する、という意味を込め、「DANCE de UPDATE」と名付け、公募ワークショップでの特別な舞台体験と、次年度のプログラムにつながるようなワークを実施した。

特別な舞台体験では、実際に大ホールの舞台上がり、ストレッチから始まったウォーミングアップのゲームで音楽と照明を使ったワークを行った。恐る恐るといった様子で始まったゲームであったが、次第に参加者同士の緊張もほぐれていったようであった。また、後半にかけてはコンテンポラリーダンスの体験として、日常生活の動作を取り入れたダンスに挑戦した。北尾さんからの動きの指示を受けて同じ振りを真似していったが、所々で自分なりの動きを考え、取り入れながら一つのダンスを作っていた。最後は振り付けたダンスを通して終了となった。

参加者の募集は通常の広報に加え、市内の学校や学校関係者を始めとした各所方面に声をかけたがなかなか集まらず大変苦戦した。それでも 14 歳から 38 歳と 2 月に公演を控える市民劇参加者がほぼ参加するような状態となり、周知の工夫が必要だと感じたが、ワーク終了後に記載してもらったアンケートでは新しいダンス体験に感銘を受けた参加者も多く、ダンスの広がりを作るといった点では成功だったと思う。



プログラム詳細

8月31日（土） 公募WS（中学生～30代）

●体ほぐし

お互いに自己紹介をした後、簡単な説明を行い早速ワークを開始。まずは1時間近くにわたり、ペアになってお互いの背筋を伸ばしたり、普段使わない腰の筋肉をほぐしたりとじっくり体をほぐしていく。

●ハイタッチゲーム

ペアになってからジャンプをしながらハイタッチをしてみる。何度かペアで試した後、音に合わせて歩き回りながら北尾さんの合図に合わせてハイタッチをする。その後、足でのタッチ動作を加え動きに変化をつけ、頭と体をほぐすゲームを行った。

●振付ワーク①

30秒ぐらいの振付を一緒に体験してみる。ゆっくりした動作に見えたが、曲がかかり実際に試してみると思ったよりも早い曲で、参加者の戸惑いも見えたが、繰り返していくと、曲に乗って楽しんでいるようだった。

●振付ワーク②

朝起きてからの動作を一連のダンスにしていく。寝ている動作からカーテンを開ける、扉を開ける、風を受ける、静かに動く、スリッパで滑ってみる、ガラスにぶつかって倒れる、手を洗う、歯を磨くといった動作を繋げていった。これがダンスになるのか、といった反応をする参加者が多かったが、曲がかかっているからは音に合わせて弾んでいる姿が見て取れた。

会場が大ホールということもあり、ハイタッチゲームからは照明効果を使用しながら舞台上でのダンスを体験してもらった。フィードバックでは参加者からは何気ない動作が繋がっていくとダンスになっていくことの驚きの声が多く上がった。



●この事業への応募動機

当館は平成 26 年の再オープン後、演劇や音楽のアウトリーチやワークショップの実施はあったが、ダンス分野での実施は全くなく、平成 30 年度に初めて幼稚園・小学校を対象にしたアウトリーチを、また市民対象のワークショップを開催した。初年度ということもあり参加は少なかったが、ダンスアウトリーチやワークショップの良さを実感した。ダンスへの理解や普及を目的に、ホールへの来館数が少ない若年層へ向けた事業を展開したい思いがあり、地域交流プログラムを選択する条件とマッチしていたことから応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

今回のターゲットを若年層としたのは、これまでの会館事業でのアンケートから、40 代以下のホールへの来館数が極端に少ないからである。これまで実施のなかったダンス事業から、会館事業への理解を深めるほか、実際に挑戦し感じたことを実生活でも取り組んでもらいたい思いがあり、ターゲットとした。

また今回のアーティストとの出会いから新しい自分を発見することを今回の事業を通じて感じてもらいたい思いがあり、「UPDATE」という言葉を前面に出したほか、ワークショップの宣伝動画を製作し、投稿サイトなどで周知した。

●企画実施にあたり苦労した点

企画当初は 1～3 年目の市職員に向けたダンスアウトリーチを想定していたが、年度変更による担当者の変更やスケジュールの調整難が直前まで続き、結局実施することができず、未就学児向けのアウトリーチへと変更となったことが一番の苦労であった。ダンスへの馴染みの無さからワークショップの募集も思うように集まらず難航した。チラシの配布のみではなく、気軽に体を動かしてみたい方がいる施設の担当の方へ事業説明をしながら参加を促したり、参加の声を依頼した。また、大学生に向けたアウトリーチでは、夏休み中であったことや私自身の説明不足から、人が集まらず少人数での実施になってしまい、実施先でのアプローチの工夫が必要だと感じた。

●事業の成果と課題

幼稚園、保育所では、日々の遊びをクラス毎に先生自身で考えねばならず、今回急な声かけにも関わらず、実施後の子どもたちの表情の変化に大変喜ばれた。次回も是非にとお声がけ頂き、今後の事業展開が期待できると感じた。ワークショップでは、初めてホームページからの申込みを導入した。ホームページからの申込みの参加率も 100%であったことから、今後の事業でも活用して行きたい。また、ワークの内容も日常生活の動作を元にしたものであったため、参加者の多くが身近な動きがダンスになる不思議さと面白さを体験できた様子であった。

今後の課題は事業を担当の私が一人で事業を抱え込んでしまったという点にある。担当のみで考えるのではなく、館内職員でどういう事業にするかや広報計画などを相談する場を設けるなどし、事業の方向性をきちんと整理すればよかったと後悔している。

●今後の事業展開や展望

当地方ではまだダンスは身近ではないので、ダンスの魅力や楽しさをさらに広げて行きたい。今後予定している B・C プログラムでは、一過性の事業で終わらせるのではなく、今までとは違った切り口で楽しめるダンスプログラムを展開し、ダンスの魅力を発信して行きたい。

●この地域のダン活の特徴

宮古市でのダン活は「若い人にもっとホールに来て欲しい」という、担当者・大原さんの思いをもとに、プログラムの組み立てをスタートすることとなった。全てが思うようにはいかなかったが、企画段階、交渉、打ち合わせ、広報…それぞれの過程で、どうしたら若い人にアプローチできるかを、いろいろな角度で、アーティストからのアイデアももらいながら考えることは有意義だったと思う。

例えば、若い人に見てもらえるようにと「プロモーション映像」を作るトライをした。下見の日を使い、宮古のまちに出て、北尾さんに踊ってもらい30秒ほどの映像を作成。また、地元の短大のダンスサークルに声をかけ、彼女たちの活動をヒアリングした上で、彼女たちに足りない「振りを作る」ことを体験してもらえたらと内容を考えた。さらに、一般ワークショップでは、若い人にもキャッチしてもらえるようにと作ったチラシを見て、盛岡など市外から（時間をかけて宮古まで足を運んで）参加してくださった方がおり、市内だけでなく、市外の若い人も集客ターゲットになることが実感できた。

この試行錯誤で得たものは、今後、方法論をルーティン化し、ストックすることで、引き続き若い人へとアプローチできる回路になるはずなので、ぜひ継続してもらいたい。

さらに、今回は、後々B・Cプロにもつながればといくつかの試みを行った。ひとつはテクニカルスタッフが常駐しているということを生かし、北尾さんの提案で、一般ワークショップに「照明」の演出を入れた。ちょっとしたワークの発表も照明が入ることで、ダンスの体験が「今度は本物の舞台を見たい」につながる可能性を期待した。また、宮古市民文化会館は指定管理者の運営であるが、活動継続の理解拡大や協働になればと、市職員に向けて、ワークショップやアウトリーチの見学や表敬を提案したところ、教育長さんの表敬訪問が叶った。

●課題とこれからに向けて

アウトリーチの打ち合わせ等の「説明」において、より丁寧にコミュニケーションができると、事前の理解が深まると感じた。受け入れ側の、コンテンポラリーダンスやアーティストに不慣れなことから抱く「何をやらされるのだろう？」の不安を、事前に少しでも取り除くことが、内容の充実と、ホールへの信頼作りにとっても大事である。

そのための用意としては、一つは、基本的なこととして、事業の目的、主催、概要、アーティストの名前・プロフィール等を記した「企画書」を用意すること。企画書をまとめることで、その後、プレスリリースに転用したり、自治体の文化関係課や市長等への事業説明にも活用することができる。それを元に、ホールがこの企画を実施することになった理由や思い、打ち合わせ事項などを説明すると、双方に安心が生まれる。

二つ目は、映像資料をうまく活用すること。今回、下見の時にPR用動画を作ったが、アウトリーチ先への説明資料としても役立つことが可能だ。また、アーティストが持っている過去のワークショップ動画なども、下見の時に見せることで、一目瞭然で理解してもらうこともできる。（ちなみに、1日目のアウトリーチがテレビ放送されたが、翌日のアウトリーチの先生が見て「あのようなことをやるんですね」とお話しくださった。映像は百聞に如かず、である。）

そして、今回築いた各方面との縁は、Bプロ、Cプロ、他のホール事業にもつながる「財産」としてもらえればと思う。チラシを渡しにいく際に雑談をする、発表を見にいくなど、繰り返されるコミュニケーションの中で、その輪が広がって蓄積になり、ホールやまちに変化を生む。

今回、滞在スケジュールに比較的余裕があり、来年度以降のダン活の続け方やダンスの捉え方、創作の悩み、ホールのこれからなどを、皆で話す時間が多く、有意義だった。来年度以降も、宮古市民文化会館のダンスのチャレンジが、まちの若い人をはじめ、市民のチャレンジにもなりますように。

荘銀タクト鶴岡 実施データ

Aプログラム

実施団体	鶴岡市		
実施ホール	荘銀タクト鶴岡		
実施期間	令和元年9月4日(水)～9月7日(土)		
アーティスト等	アーティスト：セレノグラフィカ(隅地茉歩+阿比留修一)		アシスタント：-
コーディネーター	中西麻友		
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 9月5日(木) 9:30～11:20、鶴岡市立広瀬小学校、1・2年生、56名、体育館</p> <p>② 9月5日(木) 13:50～15:25、鶴岡市立渡前小学校、3～6年生、63名、体育館</p> <p>③ 9月6日(金) 10:35～12:10、鶴岡市立榎引西小学校、3年生、25名、体育館</p> <p>④ 9月6日(金) 13:45～15:20、鶴岡市立榎引西小学校、5・6年生、65名、体育館</p> <p>■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 9月7日(土) 10:00～12:00、小学生以上、500円(高校生以上)、18名、大ホール舞台上</p>			

スケジュール

	下見	
	5/7(火)	5/8(水)
9:00		渡前小学校
10:00		↓
11:00		広瀬小学校
12:00		↓
13:00	鶴岡着	榎引西小学校
14:00	打合せ	↓
15:00	ホール見学	市内見学
16:00	インリーチ	鶴岡発
17:00	↓	
18:00	フィードバック	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
9/4(水)	9/5(木)	9/6(金)	9/7(土)
	アウトリーチ① 広瀬小学校		
	↓	アウトリーチ③ 榎引西小学校	公募WS
		↓	↓
	フィードバック 給食交流	給食交流	
鶴岡着	アウトリーチ② 渡前小学校		全体振り返り
打合せ	↓	アウトリーチ④ 榎引西小学校	↓
↓	↓	↓	
稽古	フィードバック	フィードバック	鶴岡発
↓	↓	↓	
	稽古	稽古	
	↓	↓	

アウトリーチ

市内小学校3校へのアウトリーチを実施。

選定に当たっては、趣旨である「次世代を担う若い層への新しい事業」ということで小学生を対象とし、実施からおおよそ1年前の校長会にて事業説明と宣伝を行った。その時点では、本市での実施例もなく、アウトリーチ、コンテンポラリーダンスという言葉自体馴染みがなかったせいか、初め大きな手応えを感じることはできなかった。しかし、ホールへ足を運んでいただくきっかけ作りの効果も狙い、本市中心部に位置する当ホールからは少し離れた郊外の学校に的を絞り、改めて声を掛け、丁寧な説明を重ねた結果、想像以上に多くの学年に実施希望を頂き、最終的には参加する学年を限定することとなった。

アウトリーチ開始時から導入のパフォーマンスまで、セレノグラフィカのお二人は一切声を発さないスタイル。少し戸惑いながら、差し伸べられた手に触れたり、動きを真似てみたり…ダイレクトな反応が見ている側としてはハラハラドキドキ。言葉がない分、セレノグラフィカの二人の動きにより集中し、その動きに対する純粋な反応と対話しているのが非常に印象深い。まさに、言葉でないコミュニケーションが成立していた。この初めのコミュニケーションから一転、子供たちの大きな掛け声と共にセレノグラフィカのお二人が、今日を全力で楽しみたい気持ちを子供たちにアピールされていた。そこから、みんなで一斉に歩くという単純動作に生まれる体の会話。そして、簡単な振りをマスターして人間イス取りダンスゲーム！！音と掛け声に合わせて誰かとペアを組む。ペアが変わる。ペアが増える。まさにゲームを楽しむように歓声を上げながらダンスを楽しんでいた。1コマの終わりはセレノグラフィカのお二人が体育館の端から端まで駆け回る動きを児童が全力で真似する時間。子供たちは日常の全てから解き放たれるかのように最高の笑顔で走る。お別れにお二人から大切なものを受け取った子供たちは、それを自分のものにしようとしている姿に感動した。先生方からも普段の授業に取り入れたい場面が多々あったとの感想をもらった。継続的なアウトリーチに向けてイメージが湧いた。



広瀬小学校



渡前小学校



渡前小学校



榎引西小学校

公募型ワークショップ

参加者：8～11歳▶6名 20～30歳▶2名 30～40歳▶4名 40～50歳▶6名 計18名

当ホール初となるダンスワークショップ。参加者からはこのようなワークショップを待ちわびていたという声も頂き、期待も高かったように思う。応募理由は実に様々で、人とコミュニケーションを取りたい人、身体を動かすことが好きで、お友達と応募してくれた女の子、ダンスの先生、ヨガの先生、それぞれが何かを吸収したいという意気込みのようなものを感じられる、熱のあるワークショップとなった。担当者としてうれしかったのは、「チラシを見て応募した」との声。そして、初開催の完全公募で、定員を上回る応募があった事。チラシやポスターのキャッチとビジュアル構成にこだわった成果を実感した。

ワークショップ開始。初めにセレノグラフィカのお二人のパフォーマンスを見て、終わった直後に、参加者からパフォーマンスへの感想をもらった。人生の輪廻を表現しているかのようなじっくりとした表現に皆見入っていた。それが、セレノグラフィカのお二人の自己紹介だったのでは…と感じている。

直後に感想をもらう事で、参加者自身が今日のワークショップへ対する向かい方を整頓しているように見えた。「タクトでふわっとダンス」とあるように、はじめて出会った参加者たちがふわっと優しく触れ合うようなハイタッチに始まり、向かい合った相手の動きとゆっくりシンクロさせる動きなどで終始やさしい時間が流れていた。

参加者のアンケートには、人生の中で大事な体験ができた、またやってみたい、など、前向きな感想が多くあった。



プログラム詳細

9月7日(土) 公募WS(小学生以上)

●パフォーマンス

参加者は張出舞台からお二人のパフォーマンスを鑑賞。

パフォーマンスは、人の一生を走馬灯のように、けれどもゆったりと表現されていて、参加者からは、「間近で見ることができて感動した」「涙がでた」「人生が交差した」などの感想があった。感想は、アーティストが着替えをする間に書いていただき、回収した。

●導入・出会い

全員が輪になってネームに書いた名前をテンポよく声に出していく。お題が変わって、好きなすしネタを言いながら好きなポーズも入れていく。リズムに乗りながらなので、出会ったばかりの参加者も自然と笑顔になって、解れていく。

●出会い頭にハイタッチ

舞台上を自由に歩きながら目が合った人とハイタッチ。出会った人と腕でタッチ。ハイタッチの寸止め。両手ハイタッチ。両手ハイタッチの寸止め。

●陣取りゲーム

誰かの後ろを陣取る。いつのまにか一つの大きな輪になっている！今度は誰かの前を陣取る。自分の前を取られないように必死。大人の方でも童心に帰ったような動きが印象的。

●音に合わせて歩く。音が止まったら体もストップ。

音が止まったら指示に合わせて動く。(〇〇にタッチ！)

●ミラー

ペアで向かい合い、相手と自分の動きをシンクロさせる。どちらが主導になるかは流れに任せて。お互いの動きを同じタイミングで、同じ時間にただ動く。そのことだけに意識が集中。じっくり会話をしている感覚。向かい合わせから前後に。後ろにいる人が前の人の動きを真似る。振り返ったら交代。

●4つのキーワード

いったりきたり・ビリビリする足・2つのマル・遠くへ投げる。という4つの動きを自分なりに表現する。個の動きの中にストーリーが在り、個々のはずなのにこの場にいる一つの空間が出来上がっていて、なんとも不思議な体験だった。その場にいた人だけ作り上げる一生に一度の出会いと空間が心地よいものだった。

●発表・鑑賞

2つのグループに分かれて発表。鑑賞側は張出舞台から鑑賞。照明、音楽に合わせて、参加者は一瞬に演者となり、今日出来たばかりの作品を思い思いに披露した。

●アンケート、感想発表

時間がある方でセレノグラフィカのお二人への質問の時間とし、幕を閉じた。



●この事業への応募動機

当館は改築を経て、昨年4月に鶴岡市新文化会館としてグランドオープンを迎えたところである。旧会館では貸館中心であったが、これからは様々な事業の展開を目指しており、特にアウトリーチ事業は今後の事業計画の柱の一つとして捉えている。地域創造のダン活事業を実施することで、アウトリーチ事業のノウハウや、経験を積んでいく好機としたいと考えた。そして、本市において、コンテンポラリーダンスなどのジャンルに触れることは、新しい事業の実現を叶える第一歩であるとの思いから応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

本市の地域性を考えたときに、まず思いついたことが二点ある。一点目に、本市では自分を表現することが苦手な人が多いように感じられる。子供たちを含め、特に若い層にそのような傾向が顕著であるようだ。二点目は、若年層の流出により懸念される、少子高齢化及び人口減少である。以上の二点の払拭を求め、若者が楽しめる、ワクワクする事業展開を企画したいと考えた。ダン活を通じて、地域や人々との交流の場を創出し、若者の元気が溢れるような事業イメージである。

また、これまでの本市事業ではなかった、ダンス分野へのアプローチとしての役割も大きなポイントである。

●企画実施にあたり苦労した点

アウトリーチについては前年度校長会の際に一斉にお声がけし、さらに詳細説明のため、学校に出向き、プレゼンを行った。アウトリーチ、コンテンポラリーダンスという単語に馴染みがないせいか、事業内容のイメージを伝えるのに苦労したが、丁寧な説明が実を結び、企画の趣旨に賛同いただいた結果、実施する希望の学年を限定する対応となった。

ワークショップについては、チラシ、ポスターのビジュアル校正を重ねた結果、完全公募で応募期間中に定員を超え、セレノグラフィカさんの好意により、増枠しての受け入れとなった。感触としては、当ホールはじめての事業ということもあり、広告物へのキャッチコピーやデザインが申込み大きく左右した気がしている。

●事業の成果と課題

今回のアウトリーチ実施校、ワークショップ参加者からは次回があればまた参加したいという声を多く頂戴した。館の意向としては、次年度以降もアウトリーチ、ワークショップ事業を広く展開し、事業の普及に努めたいところである。今回の実施校からの希望も含め、新たに実施希望校があれば実現できるよう柔軟に対応していきたい。

●今後の事業展開や展望

初のアウトリーチ、ワークショップの開催となったが、また実施してほしい、参加したい、という前向きな感想を多く頂戴したことより、今回のこの記念すべき第1回目のダン活の体験者にとっては、それぞれが良い時間を過ごしたことが伺える。次回開催のスケジュール案を早めにお伝えするなど、継続的な事業であることをこちらから積極的にアピールし、意識付けに注力したい。

アウトリーチ実施校の先生方からはセレノグラフィカのお二人の自然な導入と、注意の惹き方、集中力の使い方といった点で、授業の抑揚の付け方に取り入れたいなど、指導方法にも参考になったという言葉もあった。

今後のダン活の輪が、学校に留まらず広く波及できるよう、コミュニケーション力の育成を考えている様々な施設、場所への開拓を続けていきたい。

●この地域のダン活の特徴

荘銀タクト鶴岡では、ダン活がコンテンポラリーダンスやアウトリーチを実施する初めての事業だった。ダンスやワークショップに対する市民の馴染みがないことが懸念点だったが、ホールの熱意とアーティストの真摯なアプローチにより、今後へつながる出会いが実ったダン活だったと思う。

アウトリーチ先の募集では苦労されていたが、下見時にインリーチを行い、実施対象校の先生がワークショップを体験できたことは、その後の事業を進める大きな力になった。学校での打合せでは、子どもたちの反応などをイメージし、各校の状況や先生の想いを共有しながら対象学年を検討した。学校ごとに希望学年は異なり、単学級や異学年合同など、様々な組み方で実施した。学年やクラスカラー、学校の雰囲気によってワークショップが違ったものになることを、先生やホールスタッフが実感できたことも、今後の参考になることと思う。

ワークショップの構成は、どの学校もほぼ同じだったが、アーティストは常に何がその時の子どもたちにとって最善かを考え、臨機応変に少しずつ内容を変えていた。事前の打合せで子どもたちは自己表現が苦手という話もあったが、どの学校の子どもたちも興味を持って身体全体で楽しんでいることが伝わり、彼らの身体の中にはダンスの可能性が満ちていることが感じられた。終わった後には「来年もくるの？」と期待を込めた質問が投げかけられ、先生からも、このような体験が子どもたちに必要であることや、次は学年別で行う方が良いかもしれないなど、前向きな気づきや改善点を含む感想を聞くことができた。

公募ワークショップでは、「ふわっとダンス」というキーワードの元、インリーチで経験したワークを活かしたホールスタッフの写真が入った、ダンスへの抵抗感が薄まるようなチラシが完成した。自然と応募者は定員を越え、小学生から20、30、40代と、日頃ホールを訪れていないと思われる年齢層の方々も集まり、予想に反して嬉しい驚きだった。また、滞在中、舞台を使った打合せが丁寧にできたので、舞台スタッフの方々との連携を深め、舞台を使ったワークショップの可能性を試す機会にもなった。作品の一部をショーイングしたいという要望にも全力で応えてくれ、ワークショップの冒頭には、本公演さながらの照明・音響、張り出し舞台で間近にダンスを鑑賞できる贅沢な時間が実現した。参加者の感想シートには、言葉のないダンスでも「物語性を感じた」「分かりやすかった」と書かれており、充実した時間だったことが伺えた。ワークショップでは、次第に参加者の心と身体がほぐされて、初めて出会った人同士が自然と関わり合って表現することを楽しんでいった。最後には、照明も入れて雰囲気をつくり、参加者同士で見合う時間を設けたところ、自ずとそれぞれの身体の魅力が立ち現れてきて、次年度Bプロへの期待も膨らんだ。

●課題とこれからに向けて

アウトリーチや公募ワークショップで出会った市民の方々は、初めて出会うコンテンポラリーダンスにも素直に身体をひらき、臆することなく楽しんでくれていた。ホールスタッフの方々は入れ替わり現場に足を運び、自分の目で見て感じることを大切にしながら、これからを考えている姿勢が印象的だった。アーティストも、参加者たちのポテンシャルの高さに感心していたが、ダン活を通して次なる可能性を感じ、そのイメージを描くことができたことが大きな収穫だったと思う。フィードバックで、「舞台に立った経験を忘れずにいてくれれば、またその人たちがホールに戻って来てくれる」というようなお話があったが、出会いから次のことが生まれていくという循環が良い形で始まったと思う。ダンスの可能性や魅力を、知らない人に言葉で伝えるのは至難の技であり、困難に直面することもあるかもしれないが、今回のダン活でそれぞれが得た言葉や感覚、体験と、コンテンポラリーダンスが市民に必要とされているという実感を糧に、鶴岡市でダンスという新たな表現が根付き、タクトから豊かな文化芸術が発信されるように日々の実践を継続されることを期待している。

神戸アートビレッジセンター 実施データ

Aプログラム

実施団体	公益財団法人神戸市民文化振興財団		
実施ホール	神戸アートビレッジセンター		
実施期間	令和元年 10月30日(水)～11月2日(土)		
アーティスト等	アーティスト：長井江里奈	アシスタント：鈴木綾香	
コーディネーター	中富勝裕		
<p>■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）</p> <p>① 10月30日(水) 13:00～14:50、神戸市立湊川中学校、3年1・2組、59名、講堂</p> <p>② 10月31日(木) 13:00～14:50、神戸市立湊川中学校、3年3・4組、60名、講堂</p> <p>■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）</p> <p>① 10月30日(水) 18:30～21:00、高校生以上、無料、15名、リハーサル室2 《ダン活枠外》※クリエーションを重ねて最終日に発表</p> <p>○ 10月31日(木)～11月1日(金) 18:30～21:00、高校生以上、無料、15名、リハーサル室2</p> <p>○ 11月2日(土) 13:30～ 発表公演 @新開地商店街界限</p>			

スケジュール

	下見	
	8/28(水)	8/29(木)
9:00		
10:00		打合せ
11:00		↓
12:00		昼食
13:00	KAVC 着	打合せ
14:00	打合せ	↓
15:00	商店街下見	↓
16:00	↓	湊川中学校 下見
17:00	打合せ	打合せ
18:00	↓	↓
19:00	交流会	移動
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
10/30(水)	10/31(木)	11/1(金)	11/2(土)
		集合 打合せ	集合
集合・移動	集合・移動	↓	準備
準備	準備	昼食	↓
湊川中 アウトリーチ①	湊川中 アウトリーチ②	打合せ	発表公演
↓	↓	↓	↓
振り返り	振り返り		交流会
			↓
			全体振り返り
公募 WS	クリエーション① (ダン活枠外)	クリエーション② (ダン活枠外)	移動
↓	↓	↓	

アウトリーチ

【アウトリーチ先の選定】 神戸アートビレッジセンターの文化事業の方針の一つとして、「学校訪問やまちなか事業等アウトリーチ活動に力を入れる」があり、美術事業で小学校へのアウトリーチは実施していたが、中学校では実施経験がなかった。兵庫県の中学生を対象にした「トライやるウィーク」という職場体験活動の生徒を当館が受け入れている経緯もあり、近隣中学校を含めいくつかの中学校とは交流がある状況だった。先生に中学校でのダンスへの取り組みについて聞いてみたところ、神戸市では、50年以上前から創作ダンスを授業に取り入れており「神戸市立中学校ダンス研究発表会」というものがあり、ダンスへの関心が高いことが窺い知れた。そこで、当館より徒歩15分ほどの場所にある近隣の中学校「神戸市立湊川中学校」に話を持ちかけてみたところ、興味を示していただき体育の授業で実施することになった。担当の先生方とお話する中で、「今の中学2年生が全体を通して元気でノリが良い生徒が多い」ことから、来年3年生になる生徒を対象にすることを勧められ、3年生を対象とする運びとなった。

【取組内容】 中学3年生の全生徒を対象とすることが学校側の必須事項としてあった。当初は1クラス1コマ50分のワークショップを予定していたが、1回の所要時間が短いため、生徒にとって満足のいくワークができないのではないかと懸念から先生方と話し合い、2クラス合同で1回が100分での実施となった。長井さんの案で、すぐに名前を呼べるよう、呼んでもらいたいニックネームを書いたシールをよく見えるところに貼ってもらった。北園さんのピアノ伴奏を入れてのワークを予定していたので、普段授業で使用している体育館ではなく、ピアノがある講堂で実施した。

【参加者の様子等】 先生のお墨付き通り、元気でノリの良い生徒さんが多く、全体的にとっても明るい印象を受けた。最初の振り付けを覚える際は恥ずかしがる様子も見受けられたが、次第に真剣に熱中して振り付けを覚えている生徒が多かった。先生方もとても意欲的にワークにも参加してくださり、長井さんの突然の絡みにもノリ良く答えてくれた。恥ずかしがるのは、男の子が多かったように思うが、その中にキラリと光るものを感じる生徒もおり、アーティストの個性を引き出す力を目の当たりにしたように思う。



湊川中学校



湊川中学校



湊川中学校



湊川中学校

公募型ワークショップ

昨年の秋に実施したダン活Bプログラムに引き続き、高校生以上の方を対象に行ったダンス経験不問の公募ワークショップ。神戸アートビレッジセンター（KAVC）が掲げている「新開地の魅力を活かし、様々な世代や出身の人々が交歓できるまち」の実現に向けて、今年度も「KAVC がまちと一緒に踊る」がコンセプト。

ダン活Aプログラムの枠内としては公募ワークショップは1日間だけだが、枠外としてワークショップを2日間追加し、1日目を体験講座、2・3日目を練習日、最終日をワークショップのショーイングとして、新開地のまちで披露する、というプログラムとした。「新開地のまちに非常に似つかわしい」と昨年、地域の方々に大変喜んでいただき大盛況だった「第一回 新開地カブキノ大興行」の再来と、KAVCと共に新開地のまちを盛り上げてくれる「新開地舞踊歌劇団」の存続と拡大を目論んだ。昨年の公募ワークショップ・市民参加型公演に参加していただいた方を「新開地舞踊歌劇団・1期生」とし、今年度は「2期生」を募集した。昨年と同様に、募集チラシなどの表記は「ワークショップ」という言葉は使わずに「体験講座」などを使い、ビジュアルは昨年のデザインを踏襲したものとした。昨年より作りたかった「新開地舞踊歌劇団」の手ぬぐいも当館にあるシルクスクリーン工房で実現した。今回の「2期生」募集と共に、昨年の参加者「1期生」の方々に早速お声がけしたところ「昨年が大変楽しかったので、ぜひ今年も参加します！」と、ほぼ全員の方に今年もご参加いただけることとなり、驚きつつも嬉しい結果となった。「1期生」が12名、「2期生」として新たに3名、計15名、年齢の幅は19歳～84歳と、今年も年齢は幅広く集まった。ワークショップ内容としては、自己紹介から昨年踊った「キネンジロー」の振り付けを覚えることから始まり、長井さんの考案したパフォーマンスを新開地のまちで披露するべく練習した。パフォーマンスのガイド役として、KAVCとはとても縁が深い「新開地まちづくりNPO」の広報スタッフで実際に「ザ・シンカイツアー」のガイドをしている西島陽子さんに出演いただいたことも、KAVCとしてはとても感慨深いものがあった。ダン活を通して、まちとつながっているということを感じた。練習日が3日間と大変短かったにも関わらず、しっかりと振り付けやパフォーマンスを覚えて、最終日の発表公演をしっかりと演じ切った「新開地舞踊歌劇団」、次なる事業がさらに素晴らしいものになる予感がした。今後ともぜひ「新開地舞踊歌劇団」の方々に活躍していただきたいと思う。



プログラム詳細

10月30日(水)・31日(木) 神戸市立湊川中学校

●自己紹介・パフォーマンス

始業のチャイムと共に先生に引率されながら講堂内に、きれいに整列した生徒たちが入ってきた。先生から授業内容の説明があった後、北園さんの掛け声とピアノ伴奏と共に長井さんと鈴木さんがダンスパフォーマンスを披露し、自己紹介。北園さんのピアノに合わせて、生徒の間をダンスをしながら通ったり、生徒をピアノ伴奏に誘ったりと生徒を巻き込んだパフォーマンスには笑いが起こり、緊張した空気も一気に和んだ。生徒もアーティストたちの動きに、興味津々の様子。

●まずはダンスの振り付けを真似る・覚える

長井さんと鈴木さんの動きをお手本にパートごとに振り付けを真似ながら覚えていく。スムーズに覚える人、少し恥ずかしそうにしている人、ぎこちなくも一生懸命に覚える人、キレのある動きをする人、と2クラスともなると大人数なこともあり、様々な様子が垣間見えた。長井さんに指名され、何人かの生徒が壇上へ。恥ずかしそうにしながらも、皆嬉しそう。

●チーム対抗「ダンスバトル」

クラスごとに男女2チームずつに分かれて、覚えたダンスをもとにアレンジして披露するチーム対抗「ダンスバトル」の開始。チームごとに楽しそうに話し合いながら覚えたてのダンスを練習し、自分たちなりのダンスを披露した。長井さんのジャッジで優勝チームを選ぶ。

●時間が止まるダンス「ゼロ」

盛り上がったダンスバトルの後、対照的な「ゼロ」のダンスへと移行する。ピアノの伴奏に合わせて自由に動き、ピアノが止まると動きも止める、というダンス。ピタッと止まるのがなかなか出来ず、シーンとした中笑ってしまう人も最初は多かったが、次第に皆真剣な顔に。

●振り返り

「動」と「静」のダンス。普段のダンスの授業にはない自由度の高いダンスを最後には皆楽しみながら挑んでいた。踊りにも色々な種類があるのを感じてもらえたようだ。「自分は自分。できること、できないことがあっても良い。それが個性」という長井さんの言葉と、今回のワークショップは日々成長していく生徒たちの心に響いたのではないかと思う。



●この事業への応募動機

神戸アートビレージセンター（KAVC）が所在している新開地はかつて神戸随一と言われていた興行街でした。当館が設立された目的として「新開地地域の活性化」が一つとしてあげられますが、地域住民との距離はまだまだ遠いように感じています。昨年度にダン活 B プログラムを実施させていただきましたが、「KAVC が外に出てきた！待っていたよ！」と地域の方々に言っていただき、市民参加型公演も大変喜んでいただきました。「コンテンポラリーダンス」をツールとし、アーティストの方々の力を借りて「まち」ともつつながっていききたい、という思いから昨年に引き続きダン活 A プログラムに応募させていただきました。

●事業のねらいと企画のポイント

文化事業の方針として「学校訪問やまちなか事業等アウトリーチ活動に力を入れる」が一つとしてあり、KAVC は中学校へのアウトリーチ経験がなく、普段なかなか足を踏み入れることができない中学校でぜひこの機会に実施したいと思いました。実は地域で KAVC がどんな施設なのかの認知度が低いこと、また年配の方のご利用が比較的多いということもあり、もっと若年層のご利用者様を増やしたいという思いがありました。新開地は立地上、若い年代の子がなかなか足を踏み入れるにくい場所ということもあり、こちらから出向くことでアピールできればと思いました。

また、昨年実施し、地域の方々に大好評を得たダン活 B プログラムの公演「新開地カブキモノ大興行」と、公募ワークショップで結成された「新開地舞踊歌劇団」の継続も考え、継続していくことでまちとのつながりをもっと深めていきたいと思いました。

●企画実施にあたり苦労した点

アウトリーチについて、当初は中学校と地域住民に向けて考えていましたが、回数の関係で地域住民へのアウトリーチは実施することが出来なかったのも、もっと来ていただきたかったのですが、呼び込みが弱かったのか、あまり参加者を集めることが出来なかったのが残念でした。

今回、ダン活枠外で公募ワークショップを 3 回（発表公演含む）を追加させていただきましたが、あまりにもタイトなスケジュールだったことで、アーティストや参加者に負担をかけてしまったこと、新開地商店街の方々の希望を全て盛り込んだ発表公演に出来なかったことが反省点としてありました。全体の指揮を取る、という点で自分自身の力不足を痛感しました。

●事業の成果と課題

今回、中学校アウトリーチを実施出来たことが大変大きな収穫となりました。他者の経験談として、中学生は多感な時期である、ということから、なかなか難しいと聞いていたので、恐る恐るところが最初はありました。ですが、湊川中学校の先生方のご理解の深さと対象となった生徒さんのノリの良さに、その考えは覆されました。先生方や生徒さんに「楽しかった！またワークショップを受けてみたい！」と言っていただけたことがとても嬉しかったです。今回つながったご縁を大切にしていきたいです。また、公募ワークショップにおいては、昨年の参加者さんがほぼ全員参加してくださったこと、また新しい 2 期生の方々が、短期間にも関わらず一緒にまちに飛び出してくれたこともまた、来年度に向けての希望の光となりました。

●今後の事業展開や展望

来年度はダン活 C プログラムを実施予定であり、ダン活は 3 年目となります。集大成となる「第 3 回 新開地カブキモノ大興行」は、3 年目も「KAVC がまちに飛び出していくこと／まちと踊る」という想いを継続していきたいです。今年の発表公演を見たまちのおじちゃんが「来年、新開地舞踊歌劇団に入りたい！」と言ってくれ来年はますます「まち」の人たちが楽しく笑顔で混ざり合う場面に出会いたいと思います。3 年目を終えた時に、KAVC を近くに感じてもらえるようになればと思います。

●この地域のダン活の特徴

神戸アートビレッジセンター（KAVC）は、「新開地の魅力を活かし、様々な世代や出身の人々が交歓できるまち」の実現に向けて、今年度も新開地での KAVC の役割や取り込み、意思を伝えるため、街へ飛び出してダン活を展開した。今年度は昨年度に続き、アーティストは長井江里奈を迎え、A プロの実施と合わせて番外編のパフォーマンスを新開地の商店街で披露した。

アウトリーチでは、KAVC から徒歩 15 分程度に位置する中学校で実施した。学区が違うだけで、KAVC との接点がない生徒が大半という学校において、実施できたことは KAVC にとっても大きな収穫であった。また多感な年頃である中学校のアウトリーチで、かつ人数も多いということで不安な要素もあったが、新しい出会いに前向きな生徒の気持ちと、積極的にワークにも参加し、生徒の主体性を重視する先生の協力が、このアウトリーチの成功にもつながった。そして、何より生徒一人一人の表情を見逃さず、声をかけ、生徒が作る表現に間違いがないことをしっかり伝え、個性を引き出す長井江里奈のワークは、生徒を惹きつける大きな魅力であると感じた。恥ずかしいという気持ちから少しずつ変化する生徒の表情がワークの楽しさを表すと同時に自信を獲得した気持ちを表していた。

ダン活の公募ワークショップは、高校生以上を対象として募集。募集チラシは「まち」に馴染む昨年のデザインを踏襲して、掲出する言葉も「ワークショップ」を「体験講座」をするなど、受け手をしっかりと意識して作成した。昨年度の「新開地舞踊歌劇団」として参加した1期生も再会を心待ちにしていたようにほぼ全員参加という、皆さんの熱量には驚かされた。今回、初めて参加した3名が2期生として迎えられ、その1期生の熱量や雰囲気にも圧倒されないか懸念もあったが、ワークショップで共有する時間が経つとそんな不安がなくなった。19歳から89歳までの15名が参加したワークショップの1日目は体験講座、2日、3日目はダン活枠外として実施される屋外でのパフォーマンスに向けたクリエイションとした。振付を思い出し、参加者同士でも確認するなどコミュニケーションが取られる場面もあり、またフォーメーションを構成する場面では、参加者も意見を出し合うなどすでに舞台にたつという気持ちの準備を感じた。

このパフォーマンスは、劇場から飛び出すだけではなく、最終的に劇場に呼び込むことを目的に、カブク練り歩き最終地点は商店街を通過して、KAVC に設定した。練り歩きをガイドすべく、新開地境界を熟知している新開地まちづくり NPO の広報スタッフをこの新開地歌劇舞踊団のガイド役として迎えた。普段から「ザ・シンカイツアー」のツアーガイドを行っており、今回のパフォーマンスのガイドを快く引き受けてくれた。長井江里奈、山園優、鈴木綾香のアーティスト3名、新開地歌劇舞踊団15名に同 NPO 広報の西島さんをガイド役として加えて、新開地駅の交差点から KAVC を目指して、パフォーマンスを開始。ツアーガイドの新開地紹介とともに練り歩く舞踊団は、パチンコ店や居酒屋、レコード屋などがある商店街を抜け、ポートピア神戸（場外舟券売り場）の前では道ゆく人も引き連れ、交通整理の警備員も引き込み、約40分掛け、KAVC に到着。KAVC 前と屋内の1F フリースペースを使ってのパフォーマンスは、日常と変わらぬ風景を劇場に変えた。

街と劇場の接点を作るべく、そこにいるものすべてを巻き込んでいく長井江里奈の演出力は十分に発揮されていた。またこのダン活の実施にあたり、まずはトライする KAVC スタッフの皆さんの姿勢と、やるべき目標がしっかりとスタッフ間で共有されていることは事業実施において、非常に重要である。

●課題とこれからに向けて

KAVC が目標とすることなど、ダン活を通して新開地の各所から理解を得てきていると思うが、来年度の C プロに向けて、各商店一件一件から理解を得るような細かい声かけ、準備も必要ではないかと感じた。また KAVC の上部は住居部もある建物ということも念頭に入れていただき、参加、協力の呼びかけを丁寧にやっていただくことと合わせて、今年度のアウトリーチを行なった中学校のように近くとも学区が異なる学校へのアプローチが、来年度の C プロ、さらには今後の KAVC の事業の展開に繋がるもの事を心がけて、新しいチャレンジをして欲しい。

野々市市情報交流館カメラリア 実施データ

Aプログラム

実施団体	公益財団法人野々市市情報文化振興財団		
実施ホール	野々市市情報交流館カメラリア		
実施期間	令和元年 11月 13日（水）～ 11月 16日（土）		
アーティスト等	アーティスト：長井江里奈	アシスタント：鈴木綾香	
コーディネーター	坂田雄平		
<p>■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）</p> <p>① 11月 13日（水） 15:00～16:30・15日（金） 17:00～18:00、金沢工業大学「こどもの成長を見守るおもちゃ開発プロジェクト」、学生、延べ 39名、アントレプレナーズラボ他</p> <p>② 11月 14日（木） 9:45～12:20、石川県立明和特別支援学校、中学部、101名、小体育館</p> <p>③ 11月 15日（金） 14:30～15:20、野々市市立野々市中学校、1年生（女子生徒）、18名、卓球場</p> <p>※上記人数には教職員を含む。</p> <p>■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）</p> <p>① 11月 16日（土） 10:00～12:00、中学生以上、500円、21名、ホール椿</p>			

スケジュール

	下見	
	9/2（月）	9/3（火）
9:00		金沢工業大学 打合せ
10:00		↓
11:00	集合	認定こども園和光 打合せ
12:00	昼食 打合せ	昼食
13:00	明和特別支援 学校打合せ	打合せ
14:00	野々市中学校 打合せ	↓
15:00		告知動画・写真 撮影
16:00	インリーチ	↓
17:00	↓	
18:00	打合せ	移動
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
11/13（水）	11/14（木）	11/15（金）	11/16（土）
	明和特別支援学校 アウトリーチ①		
	明和特別支援学校 アウトリーチ②	金沢工業大学 アウトリーチ②	公募 WS
集合	↓	認定こども園和光 アウトリーチ	↓
昼食	昼食	振り返り	昼食
	市内視察	昼食	全体振り返り
	↓	野々市中学校 アウトリーチ	
金沢工業大学 アウトリーチ①	↓	↓	移動
↓	支援学校教員 との振り返り		
		金沢工業大学 振り返り	
		交流会	
交流会			全体振り返り
			解散

アウトリーチ

【野々市市立野々市中学校】多感な時期、自分の殻を破り、ダンスで自己表現することの楽しさを感じる機会の創出、及び、あまり当館に足を運ぶことのない層へのアプローチを試みることを目的に選定。ストレッチで身体をほぐした後は、振付の練習。「シュッ！カモン！ハイッ！ハイッ！」など、勢いのある掛け声と共に進行。2チームに分かれてダンスバトルを実施した。最後は、ペアになって動き、彫刻のように止まる動き。長井さんからの、「中学1年生は環境が変わったり思春期が始まったり、変化が大きい時期。照れ笑いして恥ずかしがる子が多い年代だけど、やってみようという気持ちと、集中して形をつくる姿が美しかった。素直さと美しさをこれからも持ち続けてください。」というメッセージが心に響いた。「普段の授業より笑顔が多く、集中力が凄かった。授業に取り入れたいヒントがあった。今後のダンス創作の時間が楽しみ。」などの声が先生から挙がっていた。

【石川県立明和特別支援学校】一人一人に合ったダンスを探り、身体を動かすことを自由に楽しみ、心の解放、発散、新たな自分の可能性を発見する機会の創出を目的に選定。当初、適正な参加人数（15～20名程度）の観点から、中学部2年生のみの実施を予定していたが、「本物に生で触れる機会を大切にしたい。見学だけでも構わないので、もっと多くの生徒に触れてほしい。」という担当の先生からの強い要望があり、長井さんに了承いただき、コマ数を増やして全学年で実施に変更。当日は、アーティストや友達の動きを真似る、色々な歩き方（背中で、お腹で、三本足で、ふわふわした、ガチガチしたなど）、色々な座り方（ドロドロした、果物、佃煮、天国など）、ペアになって相手の身体の一部に触れて止まるプログラムなどを実施。各学年の状況や個々人の特性を見極めつつ、進行。実施後、「確かに子どもたちの表情や動きや様子が変わってきたのが感じられた。」「本物に触れることの大切さを実感した。」などの声が先生方から挙がった。※金沢工大及びこども園和光はプログラム詳細に記載。



野々市中学校



野々市中学校



明和特別支援学校



明和特別支援学校

公募型ワークショップ

大人 17 名（内、会館職員 3 名）、子ども 4 名の計 21 名が参加。メンバーは、市民劇団 nono のメンバーを中心に、市職員
の他、偶然チラシを見て興味を持った方など。まずは、毎回実施する山猫団のみなさんの独特な自己紹介で参加者の心をつかみ、
ピアノの生演奏に合わせて、人の動きを真似る、ペアになって相手の身体の一部に触れて止まるプログラムなどを実施。自由に
身体表現することの喜びと、言葉ではなく身体を使ったコミュニケーションのおもしろさに触れた。京都龍安寺の石をイメージして
形をつくるプログラムでは、ホールの隅々まで使って、彫刻作品のようにそれぞれ独創的な動きで表現し、元来、みなさんが持つ
ている身体的美しさが際立つシーンがたくさんあったことや、終了時のみなさんの清々しい表情が印象的だった。参加者からは、
「こんなに体を動かすことはないので、気持ち良かったです。落ち込むことやネガティブになることが多いので、ちょっとでも今日
のことを思い出せたらいいなと思います。ありがとうございました!!」、「楽しかったです！だんだんと自由になってみんなとコミュニ
ケーションをとって輪が広がっていくのが楽しかったです！」などの声が挙がっていた。

下見の際にコンセプトの掘り下げや、対象、キャッチコピーの確認がアーティストやコーディネーターと直接できたことは今回の
成功の大きな要因だったと感じる。もともとは、子どもが増えてきている地域性を考慮して、子育てに疲れたり、少し孤独を感じ
ている主婦層を対象に想定していたが、協議の結果、そこまで限定はせず、若干生きづらさを感じている人に響いてほしいと
いうことで対象を設定。「生活に役立つダンスシリーズ」をテーマに、おもしろおかしく PR 動画を作成し、ダンスの敷居を下げ、
生活の中にダンスを取り入れてより豊かに生きてほしいという想いを込めた。PR 動画は、YouTube はもとより、市役所エントラン
スやカメラ館内で約 1 か月弱流したことが功を成し、目標としていた定員に達したことに加え、動画を見てクスッと笑っている来
庁者がいて、当日の参加には至らなかったとしてもコンセプトが見た方に伝わったり、「いよいよ始まるね、例のダンスの」と、市
職員や市議会議員から声をかけられたりと、ダン活事業自体の理解を促すことにも繋がる効果が得られた。



プログラム詳細

11月13日(水)・15日(金) 金沢工業大学「こどもの成長を見守るおもちゃ開発プロジェクト」

●選定にあたっての考え方・理由

金沢工業大学「こどもの成長を見守るおもちゃ開発プロジェクト」では、幼児教育現場にある問題を理工学的なアプローチで解決することを目的に活動。幼児との触れ合いや遊びの中から子どもの成長に繋がるおもちゃに関する研究活動をしているが、子どもとの距離の取り方が難しく、打ち解けるまでに時間を要する等の課題があり、ダンスを通じて子どもとの触れ合い方やコミュニケーションのコツをつかむことを目的に開催。

●アウトリーチ① 金沢工業大学 ワークショップと対話

言葉は使わない、ピアノの音が止まったら動きを止めるという共通ルールのもと、アーティストの動きを真似る、色々なスピードで歩いて止まる、ペアで動かす・動かされるなどを実施。その後の対話では、「このプロジェクトで実現したいこと、自分たちがつくったおもちゃに触れた子どもにどう変化してほしいか」を問いかけた。こども園の現場での、ニーズはどこにあるのか、子どもが熱中するポイントはどこか、現場で起きている問題は何か、それに対して持てる技術でどのようにコミットできるか。という視点を常に持ち、課題を見つける姿勢が大切。という本質を突く議論に。今回の体験と対話を元に、後日実施する幼児向けのワークショップでアーティストは子どもの興味をいかに惹きつけて、コミュニケーションを取るのかを観察することとした。

●アウトリーチ② 認定こども園和光 ワークショップ※大学生は見学

アーティストの動きを真似る、色々なスピードや動きで歩く、ペアになって触れて止まるなど。振り返りで、子どもたちの様子や変化から、アートが持つポテンシャルについても話が及び、「今回のアウトリーチを経験して、子どもたちがより自由のびのびと過ごしながら教育・保育をしていくための環境を考えていきたい」という声が先生から挙がった。

●アウトリーチ③ 金沢工業大学振り返り

幼児向けの体験を見学して発見したことや今後活かそうなことを話し合った。アーティストの動きから、何が起るかわからないワクワク感や未知のものに対して抱く興味があるのではないかなどの議論があり、学生たちは、人の心を動かすためのヒントを得た様子。アーティストからは、「学生の知識や情熱を持って、何ができるか、何をしたいかを常に問い続けて欲しい。世の中に新しいものや価値を生み出すという覚悟が大事。」などのメッセージがあった。



●この事業への応募動機

姉妹館である文化会館フォルテでは、地域創造のおんかつ事業の助成をいただき、アウトリーチやコンサートなどを展開して市民の好評を得ている。指定管理を受ける両館で協力して、なにか新たなジャンルに挑戦できないかと考えていた際にこの募集を知り、舞台環境は簡素である当館だが、身体さえあればいつでもどこでも誰でも楽しめるダンスの可能性に注目して応募。ダンスを主軸としたこの地域ならではの展開を試みることで、文化芸術に関わる新しい人材を掘り起し、地域文化の底上げを図りたいと考えた。また、このプロセスを通じて、職員の企画制作のノウハウの習得や舞台関連のスキルアップも目指した。

●事業のねらいと企画のポイント

当市では古くからこの地域に住んでいる住民と、子育て世代を中心とした新しい住民や大学生とが交流する機会が少ない。ダンスを通じて、自分の身体と向き合い、他者とのコミュニケーションを楽しみ、相互理解による新しい関係性が生まれることを目指して実施。自分も知らない自分の身体の動きや感覚を発見し、身体を動かすことの楽しさ、新しい表現や言葉を越えたコミュニケーションのおもしろさに触れ、ダンスは特別な存在ではなく、日常の中に取り入れることができるものであることを体験してほしいと考えた。「一緒に踊ろう！」という想いを方言に込め、気軽に参加できるように、「ODOZZO！（おどっぞ）」と命名。プロのアーティストを交えた触れ合いの中で体験することで、市民が表現の多様性に触れ、豊かな感性や寛容性を養い、創造性を高める機会をつくりたいという想いで企画した。

●企画実施にあたり苦労した点

アウトリーチ先を選定するにあたり、想定していた3か所の内、2か所はすぐに決定したものの、金沢工業大学は様々なプロジェクトや研究室、部活などに提案したがなかなか決まらずに苦戦した。アポ取り、説明、先方の検討期間、返答・・・と繰り返すうちに日数ばかりが経ってしまい、最後のアウトリーチ先が決まらないことで下見の日程調整も遅れてしまった。「ダンス」という単語を前面に出すと学生が敬遠してしまう懸念が大きいため、「多様な身体表現に触れる」、「アートに触れる」という説明を先生から学生にいただき、連携先である認定こども園と合同で、「幼児との触れ合いや遊びの中から、開発するおもちゃに関する研究に繋げる」という視点で開催することで、ようやく決定したという経緯がある。また、私自身がダン活担当1年目であり、経験不足から、アウトリーチ先の担当の先生にイメージを伝えることが難しく、間に入っていた先生や職員さんには、学内での周知や調整の面でご苦労をかけた。ワークショップの立案に関しても同様の理由で、コンセプトや対象の設定に苦戦していたが、下見の際に、アーティストやコーディネーターを交えて直接お話ができたことでイメージが膨らみ、企画を掘り下げることができた。

●事業の成果と課題

「新しい自分の発見」や「新しい関係性の構築」など当初目標としていたものを届けられたことに加え、こちらの想定以上のものを参加されたみなさんが感じ取っていたようで深い学びがあったと思う。また、今回のプロセスを私自身も体験したことで、よいもの広く届けるためにまずどのように入り口を設定するか、それをどう伝えていくか、仕掛けや戦略を練ることの重要性をあらためて実感する機会となり、この経験を日々の業務にも活かしていきたい。長井さんの、参加者の興味を惹きつける力や、対象者によって瞬時にプログラムを組む構成力にはただただ驚き、生のピアノ演奏に合わせて踊るひとときはとても贅沢な時間で、プロのアーティストを招いた本物に触れる機会はこれからも大切にしていきたいと思った。潜在的に眠っている地域の魅力を更に掘り下げ、どこにどのような形でダンスを届けていけるかが今後の課題。

●今後の事業展開や展望

再来年度の市民参加型公演に向けて、ダンスに触れる層を厚くしつつ、地域の特性を活かした作品づくりに繋げる。市民がまち中で出会ったらダンスで挨拶するように生活の中に浸透し、創作活動を支援できる環境づくりを目指したい。また、アウトリーチ先でもある金沢工業大学との連携により、将来的には、メディア・テクノロジーと融合し、他分野とのコラボレーションによる化学反応や多様な表現の可能性を探りたい。

●この地域のダン活の特徴

野々市市は金沢市に隣接し、その面積はわずか13.56 km²ながら、金沢のベッドタウンとして人口が増加。2011年に市政を施行し、現在では本州の日本海側の最高人口密度地となっている。そのため、子育て世代や大学生といった若い世代が多く、核家族化も進行している。こうした背景のなか、野々市市情報交流館カメラと長井江里奈さんによるAプログラムが行われた。

プログラムは「生活の中でダンスに触れて欲しい」「きっと新しい気づきがある」というコンセプトのもと、中学校、特別支援学校、金沢工業大学でのアウトリーチと公募のワークショップが行われた。そのコンセプトがよく反映されていたのが、公募ワークショップの取り組みだ。事業名を「踊ろう」の方言から『ODOZZO！（踊っぞ！）』と名付け、下見時には「人生に役立つダンスシリーズ」をテーマに、日常生活での活用できる（？）ダンスの様子を撮影。親しみやすいコミカルなダンスPR動画として発信し、本番までカメラのロビーなどで流された。カメラは市役所と併設ということもあって、多くの人の目にとまり、ワークショップへ参加しない市民層に対しての新たなダンスのイメージづくりにも一役買った。またワークショップ当日もその期待を裏切らない内容であった。

アウトリーチについては、金沢工業大学の『こどもの成長を見守るおもちゃ開発プロジェクト』と連携した取り組みがもっとも特徴的だった。幼稚園や保育園に提供するプロダクトを開発する学生を対象にアウトリーチを実施。幼児とのコミュニケーションの取り方をキーワードに、1) 大学生へのダンスWSとプロダクト開発の課題に関するヒアリング、2) 大学生が見学する中での認定こども園での幼児対象のWSと園長・保育士を含めた振り返り、3) 一連のプログラムに関する大学生・教員とのフィードバック、この3ステップで行われた。アーティストならではの視点が、創造的な活動における想像力やコミュニケーションのあり方を考える機会となったのではないと思う。またこども園では、保育や教育のあり方を見直すための気づきがあったという園長からコメントもあり、改めてアーティスト持つ視点の豊かさを実感するプログラムとなった。総じて、大学生や子育てをする若い世代が多い野々市市ならではの内容となっていた。

●課題とこれからに向けて

当初の計画段階から、金沢工業大学との連携を想定していたが、ここでのアウトリーチ実施には、相当な苦労をしていた。ただでさえ言語化がむずかしいコンテンポラリーダンスと、他分野の共通言語を見つけ、プログラム内容の合意をすることは容易ではないが、その分実施時のインパクトは大きい。今回は、担当者が金沢工業大学の出身者であることも大きな助けとなり、暗中模索からのスタートながら、結果としては双方にとって実りの多い事業となった。コンテンポラリーダンスは人と人の垣根をふっと越えてくれる。これは教育や福祉の現場では頻繁に目にするのであるが、今回はさらに大きな境をふっと越えてくれる可能性を目の当たりにすることができたように思う。昨今、文化的な資本金格差が創造性の差を産んでいるといわれる。それは産業やサービスにおいても切実な課題となるだろう。ダンスをはじめとした芸術が、その切実さによりそうパートナーであって欲しいと願う。Aプログラムの繋がりを発展させ、野々市市ならではの創造的な日常生活づくりにこれからも挑戦してほしい。

三次市民ホール きりり 実施データ

Aプログラム

実施団体	三次市民ホール事業運営委員会（主管：指定管理者 株式会社暮らしサポートみよし）		
実施ホール	三次市民ホール きりり		
実施期間	令和元年 11月13日（水）～ 11月16日（土）		
アーティスト等	アーティスト：中村蓉	アシスタント：田花遥	
コーディネーター	神前沙織		
<p>■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）</p> <p>① 11月14日（木）10:40～12:15、三次市立川地小学校、1年生、16名、体育館</p> <p>② 11月14日（木）13:30～15:05、三次市立川地小学校、4年生、19名、体育館</p> <p>③ 11月15日（金）10:40～12:15、三次市立八幡小学校、全校児童、19名、体育館</p> <p>④ 11月15日（金）13:55～15:30、三次市立小童小学校、全校児童、18名、体育館</p> <p>■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）</p> <p>① 11月16日（土）10:00～12:00、小学生以上、無料、18名、ホール</p>			

スケジュール

	下見	
	8/20（火）	8/21（水）
9:00		川地小学校 打合せ
10:00	広島駅集合	
11:00	移動	小童小学校 打合せ
12:00	打合せ	
13:00		昼食
14:00	八幡小学校 打合せ	打合せ
15:00		終了・移動
16:00	妖怪博物館視察	
17:00	打合せ	
18:00	↓	
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
11/13（水）	11/14（木）	11/15（金）	11/16（土）
			準備
	川地小学校 アウトリーチ①	八幡小学校 アウトリーチ	ワークショップ
	↓	↓	↓
	給食交流	移動	
	川地小学校 アウトリーチ②		昼食・振り返り
広島駅集合	↓	小童小学校 アウトリーチ	
移動		↓	終了・移動
打合せ			
↓	打合せ	打合せ	
交流会	リハーサル	リハーサル	
	↓	↓	

アウトリーチ

【三次市立川地小学校1年生】

全員で手をつないで輪を作り、輪を小さくしたり大きくしたり、右へ左へと回ったりと体をほぐした後は、ひとりひとり考えてお題を身体で表現。お花をいろんなポーズで渡したり、体育館にあった運動具に擬態。最後に踊った曲は、子どもたちの感情と体が解放された一体感があり、見学していた関係者に感動を与えるものでした。

【三次市立川地小学校4年生】

前半は1年生と同じ内容でしたが、後半は彫刻（写真を参照）になりきるというお題を、2人組で考えながら身体で表現。より頭を使って話し合いながら、いろいろな彫刻の形に挑戦しました。みんな楽しみながら自分の表現方法を探っていました。川地小学校では食堂で全校児童と給食交流を行い、交流が深まりました。

【三次市立八幡小学校全校児童】

低学年の子どもたちは大丈夫かな？と心配していましたが、中・高学年の子どもたちと一緒に楽しく取り組んでいました。アウトリーチが進むにつれて子どもたちの緊張も解け、楽しんで参加しているのが感じられました。シャイな子どもたちが多いと聞いていたので、身体を使って表現をすること自体が難しかったかもしれませんが、いろいろな彫刻の形に挑戦するにつれ、指先で繊細な表現をする子どもたちもいました。

【三次市立小童小学校全校児童】

先生の要望で最初に中村蓉さんと田花遥さんにダンスを披露してもらいました。5人の先生がアウトリーチに参加してくださり、子どもたちより先生がコンテンポラリーダンスの魅力に取りつかれたようでした。積極的な先生方のおかげもあり、子どもたちもすぐに身体で表現することに抵抗なく取り組んでいました。



川地小学校（1年生）



川地小学校（4年生）



八幡小学校

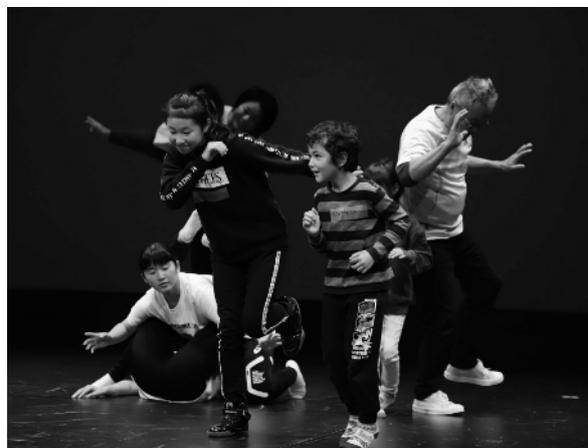


小童小学校

公募型ワークショップ

【きりり de ダンス <もののけ！おどりの正体編>】

今回のワークショップでは、小学1年生から中学生、高校生、大学生、各年代の大人という幅広い世代18名（男性3名、女性15名）の参加があり、異年齢差によるワークショップとなりました。アウトリーチで訪れた小学校の子どもたちの参加もあり、これまで当館へ足を運んでもらう事の無かった新しい参加者層を獲得することができました。半数以上がダンス未経験者でしたが、表現活動に興味のある大人の方が多かったので、楽しみながら積極的に参加されていた姿が印象的でした。ワークショップは自己紹介の後、柔軟体操から始まり、小学校のアウトリーチでも実施したワークを行いました。すでにこのワークを体験している小学1年生3名が、中村蓉さんと一緒に「お手本」として披露している姿は、とても堂々としていて微笑ましかったです。ワークショップの後半は<もののけ！おどりの正体編>ということで、2人組になってお題の妖怪に「成り切る」というワークを行いました。誰もが知っている「ゲゲゲの鬼太郎」「ゴーストバスターズ」や、空想の妖怪「妖怪忙し」「妖怪ベトベト」などのお題をどのように表現しようか？年齢差、ダンス経験などの垣根を越えて取り組んでいました。特に空想の妖怪は正解がないので、各組の表現が全く異なっていて、とても面白い創造的な動きや形が生まれていました。参加者の発想がとても良かったのも年齢層に幅が広がったからかもしれません。2時間の予定でしたが、参加された皆さんも時間が経つのを忘れるほどで、30分ほどオーバーしてしまいました。参加者の中には疲労感がでてきた方もおられましたが、最後まで集中力が切れることなく、最後は全員で「ゴースト・ニューヨークの幻」の主題歌で1曲踊りきりました。形の無いゼロからの創作活動に、参加者からは次も参加したいという嬉しい声が聞こえてきました。



プログラム詳細

11月14日(木) 川地小学校1年生

●自己紹介～輪を作って

事前に子どもたちに考えてもらっていた「ダンサーネーム」を確認。全員で手をつないで輪を作り、輪を小さくしたり大きくしたり、右へ左へと回ったり。輪を崩さないように、みんなで呼吸を合わせて輪をくぐったりしました。

●魂が抜ける(遠い国: サモア)

日本から遠い国はどこ? いろんな国の名前を子どもたちが言ってくれた中から「サモア」に決定。魂がお尻の穴から抜けて、地球のマグマを通してサモアに行きます。残ったのは魂の抜けた身体だけ。1年生でも「魂」が分かるようで、魂が抜けた身体を表現。

●固まる～溶ける(寒い: 冷蔵庫)

寒い場所はどこ? 「冷蔵庫」に決定。冷蔵庫でカチンコチンに固まった身体が、中村蓉さんの言った部位から溶けていきます。指→膝→お尻→肩→最後は水に。水は、波のようにバサーとうねったり、水たまりのようにプニョプニョしたり、いろんな水を表現。

●花を渡す

最初は照れて、できなかったけれど、徐々にみんなとは違う自分だけのポーズでお花を隣のお友達に。

●ポーズをまわす

お題からイメージした自分だけのポーズでお隣のお友達にバトンタッチ。いろんな形が誕生しました。最後はリンゴ→ドングリ→ハンガー→時計など、すべてのお題のポーズを、空気を動かさないようにゆっくり変化させていきます。

●運動用具に擬態

擬態する昆虫の写真を見ながら擬態とは? の説明。体育館に運動用具を並べてその運動用具に擬態します。かくれんぼにはならないように、みんなしっかり擬態できていました。

●星野源の「SUN」でダンス

最後はみんなでダンス。子どもたちのチームワークと団結力にビックリ、感動のフィナーレでした。



●この事業への応募動機

三次市民ホールは開館して5年目を迎えましたが、芸術に興味がある一部の市民の方々の利用に留まっており、新たな芸術文化を発信していく必要性を感じていました。三次市民ホールではバレエ以外のダンス公演を開催したことが無く、また制作型自主公演を企画した経験が少なく、コンテンポラリーダンスという誰もが参加しやすいダンスを通して、企画・制作のノウハウを学びたいと考え応募しました。

また、三次市民ホールの所管が三次市教育委員会という事もあり、小学校・中学校へのアウトリーチ事業（音楽）は4年前から実施していますが、様々なジャンルの芸術を小学生・中学生に提供したいと考え、今回初めてコンテンポラリーダンスのアウトリーチも実施したいと考えました。広島県の県北に位置する三次市は、少子高齢化により市街地の小中学校を除いては児童・生徒数が減少し、少人数学級や複式学級など小さなコミュニティの中で育つ子どもたちが多い教育環境です。子どもたちに学校生活の日常とは異なる人間関係の形成（アーティストとの出会い）や、コミュニケーションをとりながら芸術を楽しめる場を提供することで、自由に自分の感じたことを身体で表現することの楽しさを体験してもらい、将来ふるさとで働き暮らしていく子どもたちや、進学・就職などで新しい世界に飛び出す子どもたちに、生きる力を身につけてほしいと考えました。

●事業のねらいと企画のポイント

【アウトリーチ】今年度はアウトリーチ（音楽）とあわせて学校に事業案内資料を配布し公募をしました。ダンスのアウトリーチは、いつもの生活では出会わない体の動きや感性を発見し、自分の表現を創造する楽しさや、ひとりひとりの“個性”を引き出すことを目的に実施しました。

【ワークショップ】初めてダンスのワークショップを開催するという事もあり、幅広い年齢層（小学生以上～大人）が参加できるワークショップにしたいと考えました。また、公募以外でも当館所属の「KIRIRI 児童合唱団」や「人形劇団きりり」、ホールサポーター組織「NPO 法人きりり倶楽部」にも参加を呼びかけ、この事業がきっかけとなり市民の異年齢交流が生まれれば良いと思いました。ダンスが踊れなくても踊れても、舞台上で何かを表現・創造したい人達の居場所を提供したいという思いもありました。

●企画実施にあたり苦労した点

アウトリーチ4コマ募集の内、3コマは応募があり、1コマは直接学校に参加をお願いし、すぐに承諾をいただくことができました。アウトリーチ先は意外にすぐ決定しましたが、ワークショップの参加者が集まらず苦労しました。時期的に他のイベントと重なり、「KIRIRI 児童合唱団」で参加したいと言ってくれた子どもたちが参加できなかったのは残念でした。最終的には、ダンスに興味がありそうな個人へ直接呼びかけたりしましたが、普段からダンス教室・学校のダンス部などと情報交換できる人間関係を築いておく必要性を感じました。

●事業の成果と課題

【成果】アウトリーチを体験した先生からは、子どものころからの文化との出会いはその後の人生をより豊かにするのだから継続して実施してほしいと高評価でした。ワークショップの実施にいたる過程で、今までコンタクトを取ったことのない団体へアプローチするきっかけができ、ダンスを通して新しい市民との出会いがありました。そして、コンテンポラリーダンスは、「芸術性」と「社会性」をともに追求することが出来るという確信が持てました。

【課題】ワークショップの参加を個人に直接呼びかけた際、「チラシを見ました。」「面白そう。」とは言っていただいても、申し込みに至らないことが多く、どうすれば参加してもらえるのか？そして、予算が非常に限られている中で、今後この事業をどのような目的・内容・方向性で実施していくのか、今回の経験をもとに考察していく必要性を感じました。

●今後の事業展開や展望

次年度はダン活のCプログラムを実地する予定ですが、あわせて小・中学校へのアウトリーチも実施する方向で検討しています。参加者には、コンテンポラリーダンスを通して、新しい自分との出会い・発見、創造することの面白さを感じてもらえる場を提供できるように、今回学んだノウハウ、人脈を維持しつつ、ダン活事業を継続していきたいと思えます。

●この地域のダン活の特徴

三次市市民ホールは広島県の北部、中国地方の中央に位置する盆地にあり、新しい現代的な建築とかわいいロゴマークが目玉を引く。これまで音楽のアウトリーチや演劇事業は行ってこられたが、コンテンポラリーダンスの事業は初めてという事で、Aプログラム（アウトリーチ + 公募ワークショップ）から取り組まれた。内容は、小学校3校でのアウトリーチと、公募ワークショップである。

月一発行の情報紙「きりり通信」にてダンスのアウトリーチを始めます、という告知をした後、全市内の小学校に募集をかけたところ、応募があったのは2校で、残り1校は過去に演劇を実施したところに向けあって実施校を決定する事になった。主に2名の事業担当者が役割分担しながらしっかり準備をしてくださったおかげで、アーティストも私たちもほとんど不安を感じることなく事業はスムーズに進行した。

小学校はそれぞれの特色があり、どの学校の先生方もユニークな方々や熱心な方々、教員として幅広い視野を持って子どもの教育に当たられている方など様々なタイプの方と巡り合えた。地理的にも、三次市の中でもそれぞれがかなり離れた場所に位置しており、結果として、三次の土地の広さを毎日実感しながら、まさにホールから地域の隅々へ出向いていく体験となった。

アーティスト・中村さんの頑張りもあって、複数のアウトリーチを実施した学校の子どもが、「またやりたい！」と、週末の公募ワークショップに保護者を説得して、きてくれた。

公募ワークショップは、広報誌等の周知のほか、担当者の声掛けで定員に近い18名が集まった。7才～60代と年齢層も幅広く集まった。ホールの舞台上で、照明や音響も用意していただいて贅沢な内容だった。特に良かったことは、中学生～大学生5名が参加、ワーク中にリーダーシップを発揮してくれたほか、終了後は中村さんとずいぶん親しくなっていた。こういう青少年が次に何かするときには手伝ったりロコミをしたり、ホールにとって頼もしい仲間になっていくだろう。

更に、スチール撮影をお願いしていた宮野さんの写真が素晴らしくて、感激した。ご職業が猟師ということで、動物物をとらえる目が人と違うのかもしれない。写真は多くのことを物語る。良い写真を残す事は、事業を发展させていく上でとても大切に、良き人材に巡り会えた。

担当者にとって初めてづくしの事業で、特に、お願いして実施する事になった学校とうまく行くのか不安はあったと思う。結果として、下見も含めて、たった4泊6日の事業であるが、地域とホールのつながり、顔の見える参加者とホールとのつながり、それに素晴らしい写真が残り、担当者の経験も増えて、多くの財産がうまれた事業になった。

●課題とこれからのに向けて

誰もが知っている地域の拠点である文化ホールの事業として、市内の学校にアウトリーチに出向くのは、思いのほか、文化の周知を高める上で効果的だと感じた。特にコンテンポラリーダンスは、音楽や演劇以上に想像しにくいジャンルで認知度が低いため、市民が確かな前情報なしにホールに足を運ぶにはハードルが高い。しかし、学校の授業で一度体験するだけで、一気にひろがりを生む機会になる。

三次市は広島の中でも海と反対側の島根側の山間部にあり、交通の便が良いとはいえずらい場所にあり、さらにホールの場所も駅前ではなく、徒歩では少々行きづらい場所にある。積極的なアウトリーチがホールの役割や使命を伝える好機になり、参加者 = 地域の方と顔の見える関係性を築ききっかけにもなると思う。

白河文化交流館コミネス 実施データ

Aプログラム

実施団体	特定非営利活動法人カルチャーネットワーク		
実施ホール	白河文化交流館コミネス		
実施期間	令和元年 11月20日(水)～11月23日(土)		
アーティスト等	アーティスト：田畑真希	アシスタント：中村理	
コーディネーター	大澤苑美		
■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場） ① 11月21日(木) 9:30～10:30、白河市立大信幼稚園、年長組、26名、お遊戯室 ② 11月21日(木) 13:30～15:00、白河市立東北中学校、2年生、38名、体育館 ③ 11月22日(金) 9:30～12:10、白河市立第四小学校、3年生、31名、体育館 ④ 11月22日(金) 13:30～15:00、白河市立東北中学校、1年生、43名、体育館 《ダン活枠外》11月21日(木) 19:00～20:30、白河演劇塾、10名、白河文化交流館コミネス 練習室2			
■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場） ① 11月20日(水) 19:00～21:00、どなたでも、無料、10名、白河文化交流館コミネス 小ホール			

スケジュール

	下見	
	10/4(金)	10/5(土)
9:00		
10:00	白河着	会場下見
11:00	打合せ	
12:00		昼食
13:00	東北中学校 打合せ	打合せ
14:00	第四小学校 打合せ	
15:00	移動	
16:00	打合せ	
17:00	↓	
18:00	↓	
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
11/20(水)	11/21(木)	11/22(金)	11/23(土)
	大信幼稚園 アウトリーチ	第四小学校 アウトリーチ	
	↓	↓	
	移動		
		↓	白河発
	東北中学校 アウトリーチ①	東北中学校 アウトリーチ②	
	↓	↓	
白河着	移動		
打合せ		移動	
↓		振り返り	
準備	準備		
公募WS	《ダン活枠外》 アウトリーチ		
↓	↓		

アウトリーチ

現代ダンスに触れる機会の少ない地域の子どもたちを対象として、アウトリーチを実施。普段過ごしている生活空間へ新しい身体表現を届けることにより、感性を刺激し、感情豊かな心を育む機会を提供することを目的としました。ほとんどの参加者が、コンテンポラリーダンス初体験ということもあり緊張した様子でしたが、田畑さんとアシスタントの中村さんの挨拶ひとつで場が和みました。指先のちょっとしたニュアンス、笛の強弱、手のひらの動きなど、少ないサインから気持ちを読み取り楽しそうに身体を動かしているのが印象的でした。

【大信幼稚園】

年長組を対象に実施。感慨深げに児童を見守る先生のもと、田畑さんの声や動きに合わせて楽しそうに身体を動かしていました。

【第四小学校】

3年生を対象に実施。打合せ時に校長先生、教頭先生の全校生に体験させたいとの思いから2時限を使ったワークの後、全校生の前で発表というアウトリーチになりました。ワークでは特支の児童も交え全員楽しく身体を動かし、発表の場では堂々と個性的なポーズを表現している児童を見る事ができました。最後は全校生でワーク！

【東北中学校】

2年生と1年生で実施。ダンスを通して普段親交がない、運動が苦手、不登校気味、等の生徒も楽しく身体を動かしていたようです。生徒も教員の方も普段見る事のない意外な一面を見ることが出来たようです。



大信幼稚園



東北中学校（2年生）



第四小学校



東北中学校（1年生）

公募型ワークショップ

年齢、性別、職業、ダンスを含めた表現活動の有無等を絞らずあらゆる方を対象に募集。ダンスをとおして身体を動かす楽しさ面白さを体験してもらうことを目的としました。

10歳から70代まで幅広い年齢層から15名の申込みがあり地元白河の演劇団体である白河演劇塾からは約半数の応募がありました。体調不良などの欠席によりワークショップ当日は10名の参加となりました。参加料無料という価格設定も当日不参加の要因かと思われます。

まずは車座になり隣の人をマッサージ、歩いたり走ったりして身体がほぐれていきます。ペアになり、一方からかざされた手の平に操られ、つかず離れず身体を動かします。次第に手の平だけでなく肘や指先など身体の一部に操られる動きに続きました。風船を使ったワークでは、手を使わずに挟み移動させる動き。風船が割れない様に微妙な力加減で挟みあい移動させていきます。その後2グループに分かれてのワークで得た動きを使った発表となり最後はストレッチ。最初は単調だった身体の動きも時間がたつにつれ芸術性が増していったように思います。

参加者からは、またやりたいとの声が多数聞かれました。



プログラム詳細

11月22日（金） 白河市立第四小学校 3年生

●挨拶

校長先生から紹介をうけ田畑さんと中村さんが自己紹介。田畑さんが並んで着座する児童に割って入り走り出すと笑いと共に場が和み、児童をワークに引き込んでいきます。

●ワーク

まずは、掴みのまきまっちょポーズ、まーしーポーズ、そして自由に走り回り、笛に合わせた動き。ペアになり、凍ったように固まる相手の身体に触れることで溶けたように動き出す氷ダンス。これを交互にそして違う相手とワークは進みます。各々のポーズや身体の動きは独特で創造的です。この動きがこの後の発表に繋がります。

●発表

全校生入場。まずは田畑さんと中村さんが体育館を最大限に使いダンス。

そして笛を合図に3年生の発表が始まりました。各児童のオリジナルポーズからまきまっちょポーズ、そしてまたオリジナルポーズへゆるやかに身体を動かします、その後ペアになり氷ダンス。最後に全員が這いながら中央に集まり蜘蛛の巣をイメージしポーズして締め括りです。はじめは緊張していた児童たちも堂々とダンスをしていました。2時限という短いワークからの見事な発表でした。

●全校生でワーク

見学していた全校児童、教員も交えルール説明の後、氷ダンス。溶かしてもらった人は別な人を溶かして動き回ります。年齢、男女、障がいの有無等境なく全員溶かしあっていました。中には、なかなか溶かしてもらえず固まりつづける先生もいました。普段の学校生活を垣間見る事ができるコンテンポラリーダンスの深さに感嘆しました。

●花束贈呈

3年生の感想を聞いた後にサプライズの花束贈呈、記念撮影のポーズはまきまっちょ！



●この事業への応募動機

当館は、コンテンポラリーダンスを含む自主制作事業を実施し、市民協力のダンス公演に着手してきました。しかしコンテンポラリーダンスの普及浸透は充分になしえていないことから当該事業を通じてコンテンポラリーダンスの裾野の拡大を図り、当ホールを拠点としたコンテンポラリーダンスの公演事業や地域交流プログラムを実施するノウハウと人材の蓄積を目的に応募しました。

●事業のねらいと企画のポイント

当地で蓄積してきた当団体のノウハウと会館の機能を融合させ、様々な場所、環境で事業を開催し身体表現を通し、性別や年齢、社会的な属性、表現経験の有無を超えて多様な人々に創造の場を共有していただくことによって市民文化活動の醸成及び子どもたちの情操教育に効果を発揮することを見込みました。また質の高い芸術を体感し、芸術家と触れ合う体験の中から、創造すること、表現することの素晴らしさを体感していただく事も見込みました。

●企画実施にあたり苦労した点

事業実施にあたり、アウトリーチ先の要望の聞き取り不足な点などがありましたが、田畑さんをはじめ、コーディネーターの大澤さん、地域創造の栗林さんの温かいフォローや柔軟な対応のおかげで無事事業を実施することが出来ました。

●事業の成果と課題

多感な時期の児童、生徒を対象にしたアウトリーチでは、コンテンポラリーダンスの身体表現を通し創造の場を共有することによって結束感が生まれ各々の独特な表現を共有する姿を見ることができました。

ワークショップでは、コンテンポラリーダンスを通じ身体表現の自由度を体感していただいた事によって今後のダンス活動、演劇活動に新しい切り口を発見してもらえたと思います。全体を通し、田畑さんの気持ちの乗せ方、雰囲気作りの上手さ、それぞれの会場に合わせたワークにより、参加者は満足のいく体験が出来たようです。また、実施してみて初めて湧いてくるイメージもあり今後のコンテンポラリーダンス事業のたたき台が出来たかと思います。

誰に何を届けるかコンセプトをしっかりと考え、今回の成果を一過性に終わらせず、継続的に事業を行っていくことが課題と考えます。

●今後の事業展開や展望

2020年度はCプログラムを実施予定です。今回にも増して広報に力を入れより多くの方にコンテンポラリーダンスを体感していただきたいと思います。

●この地域のダン活の特徴

福島県白河市は、東北の南端に位置する6万人のまち。2016年に開館した白河文化交流館コミネスは、他館との共同企画や自主企画でのオペラの実施や滞在の音楽家によるアウトリーチ事業、また、ダン活の直前に開催されていた「白河まちなか国際音楽ウィーク」など、クラシック音楽事業をメインとするホールだ。

ダンス事業はほとんどない中だったが、アウトリーチの希望を募ったところ、市内の小学校、中学校から手が上がり、また、職員のつながりで声をかけた幼稚園でも実施が決まり、結果的に、さまざまな世代へのアウトリーチを実施することとなった。また、一般WSでは、ホールを活動拠点にする「演劇塾」の方たちの積極的参加があり、地元の表現者とも出会うことができた。田畑さんは、打ち合わせ時の情報を踏まえながらも、その時の参加者の様子を見て進行やワークを変え、「話す身体」「聞く身体」のコミュニケーションをダンスによって体感できるワークを展開した。

いくつかエピソードを記しておきたい。

小学校では、全校児童（180人）に体験させたいという希望があり、実施方法に苦慮したが、3年生2時間分のワークをしたのちに、全校生徒に向けてのミニパフォーマンスを発表するという進行となった。（私が提案としたものの）無茶な案ではあったが、素直に話を理解できる子供たちと田畑さんたちの進行により実現が叶った。

また、中学校では、ワークの説明のために、ひとりの生徒とアシスタントの中村さんでデュオを踊る場面があったのだが、後から校長先生から聞いたところ、その生徒は、不登校気味の生徒とのことだった。普段見られない様子（素敵なダンス）に、見ていた他の生徒も「うまい、ダンサーの弟子入りしたら？」などと声があがり、彼らはもちろん、校長先生や学年の先生みんなの心が動き、励まされる、よい時間となったと話してくれた。

●課題とこれからに向けて

アウトリーチは、特に募集することがないためチラシも作成しないことが多いが、広報がされないアーティストが滞在したことや事業そのものがなかったように見えてしまう。SNSやWEB、一般WSの募集チラシやホールの総合広報誌への掲載、また地元新聞社による取材などで、直接でワークショップを受けない多くの人（サイレントパトロン）へ、事業を認識してもらう工夫を心掛けたい。（アーティストが滞在することが分かると、相談や面会で、ホールを訪れるなど、ホールの財産となるネットワークを発見することも多い。）

また、音楽事業の多いホールの中にあって、ダンス事業がどんな役割を持つ事業なのか、音楽ではできない（届かない）どういった層に何を補完するものなのか、その役割とミッションについて整理をし、ホールの職員間で共有を求めたい。学校や演劇塾の方など、白河にダンスを待っている人たちがいるという実感ができたからこそ、音楽メインのホールの中で細く長くダンス事業を継続できるための位置づけを考え、ホール全体のクオリティやネットワークを広げるための事業としていってほしい。

慣れない中のダンス事業担当の挑戦だったかと思うが、担当の藤田さんは、アウトリーチの最中に、怪我で参加できずに見学している子供へ声掛けをしたり、先生から聞いた補足情報をアーティストに伝えたりと、こまやかなケアをされていたのが印象的だった。今後、券売のあるCプロや、市民のケアがより必要となるBプロにあたっては、途中経過の連絡や広報スケジュールの管理についてより精度を高めてもらいつつ、サブ担当者や他の職員とも協力して臨んでもらえればと思う。

土佐清水市立市民文化会館くろしおホール 実施データ

Aプログラム

実施団体	土佐清水商工会議所		
実施ホール	土佐清水市立市民文化会館 くろしおホール		
実施期間	令和2年1月21日（火）～1月24日（金）		
アーティスト等	アーティスト：鈴木ユキオ		アシスタント：山田暁
コーディネーター	小岩秀太郎		
<p>■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）</p> <p>① 1月22日（水） 9:30～11:20、土佐清水市立足摺岬小学校、全校児童、22名、体育館</p> <p>② 1月22日（水） 14:00～15:50、高知県立清水高等学校、2年生、35名、体育館</p> <p>③ 1月23日（木） 9:30～11:20、土佐清水市立清水小学校、4年1組、22名、体育館</p> <p>④ 1月23日（木） 13:50～15:30、土佐清水市立清水小学校、4年2組、16名、体育館</p> <p>■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）</p> <p>① 1月21日（火） 18:30～20:00、小学生以上、無料、25名、ホール舞台上</p>			

スケジュール

	下見			実施期間			
	12/12（木）	12/13（金）	12/14（土）	1/21（火）	1/22（水）	1/23（木）	1/24（金）
9:00		移動		移動	足摺岬小学校 アウトリーチ	清水小学校 アウトリーチ①	
10:00	移動	足摺岬小学校 下見	まとめ		↓	↓	事業全体 振り返り
11:00							
12:00		昼食	移動		給食交流	給食交流	昼食
13:00		清水高校 下見			移動	準備	移動
14:00					清水高校 アウトリーチ	清水小学校 アウトリーチ②	
15:00	集合	移動		集合	↓	↓	
16:00	ホール下見	清水小学校 下見			移動	移動	
17:00	打合せ	打合せ		準備			
18:00	交流会			公募WS	交流会		
19:00		交流会		↓		交流会	
20:00				交流会			
21:00							
22:00							

アウトリーチ

対象は、地域事情などにより本物の舞台芸術、アーティストに触れる機会がいちばん少ない子どもたちを第一に考える当ホールの方針に沿って校長会での参加呼びかけや直接学校に足を運び事業説明をするなどして公募した結果、小学校2校と高校が手を挙げてくれた。担当としては、ユキオさんの提唱する各自がイメージを持って動くこと、楽しみながら身体を動かしダンスになる瞬間をつかみ取ってもらうこと、「これってダンス!？」と思いつつながら身体を動かす気持ち良さ、これまで感じたことのない身体の中の意識みたいなものを感じてもらいながら各世代別の反応の違いにも注目したかったので最後まで調整やお願いをしていた中学校の不参加が残念ではあったが当初は中学校より参加が難しいと思われた高校の参加は嬉しい驚きであった。

その高校を含め、全校児童が参加した足摺岬小学校、市内唯一のマンモス校ということで1クラスずつに分けての参加となった清水小学校4年生、地域の子どもたちはアーティストの一挙手一投足に注目しながら各会場とも和やかで時折笑い声も巻き起こるなど非常に良い雰囲気で開催することが出来た。先生たちも終始笑顔だった足摺岬小学校、生徒に交じり数人の先生たちも楽しそうに参加していた清水高等学校、普段なかなか団体行動を取ろうとしない児童が、アウトリーチが始まるや否やスツと他の児童たちに交じって参加し、最後まで全力でパフォーマンスをしていた姿が印象的だった清水小学校の4年生、どの会場にもそれぞれハッとさせる瞬間がそこにはあった。と同時にアーティストの持つ力（凄み）というものを改めて実感し、こういった事業もホールの大切なミッションのひとつであると再認識することが出来た。

また、若いホールスタッフにこうした生の現場を見せることが出来たこともたいへん意義深いことだと感じた。



足摺岬小学校



清水高校



清水小学校



清水小学校

公募型ワークショップ

地元のダンスクラブの先生に早くから本事業を紹介していたこともあり、そこに所属の生徒さんを中心に小学生～中学生の参加率が高かった。（中学校でのアウトリーチが開催出来なかったためここに中学生が参加してくれた意義は大きい）これに交わるような形で高校生、一般からの申込、そして当ホールによく足を運んでくれるアンテナを高くしてくれている方たち（いわゆる何か面白いものはないか？と様々なイベントに興味のある方）にも直接声をかけたところ快くグループで参加して頂くことが出来た。結果として普段の日常生活ではあまり関わることのない世代でバラバラの参加者たちがダンスという共通のツールを通じて一緒に体を動かし、会話から入るのではなく、アーティストからのお題をそれぞれが頭で考え、目で見てコミュニケーションを取っていく様子がたいへん興味深かった。

世代や年齢はあまり関係なく一緒に参加出来るイベントというのはありそうで実はそう多くなかったりする。そういう意味でもスポーツや運動とはまた違った身体を動かす楽しみ方、同じお題でもやる人が違えばまったく違うジェスチャーになるという発見など各自がいろいろなものを見つけ、感じる事が出来たのではないだろうか。

また、参加者の皆さんには自分たちの地域のホールは公演を行ってお客様に見てもらうことだけに特化しているのではなく、こうした事業にも積極的に取り組んでいることを知ってもらえたことも意義のあることだと感じた。これを機に当館をもっと身近に感じてもらえる人たちが今後1人でも増えてくれることを願う。



プログラム詳細

1月23日（木）清水高等学校 2年生

●予想外！？の参加表明

当初担当が頭に思い描いていた絵は、各世代別にアウトリーチを開催し、その違い（反応）を見たい！というものだったが、授業日数等の関係で中学校（1校しかないのも痛い）が不参加に。そんな中、中学校以上に調整が困難だと思われた高校（こちらも地元1校のみ）より参加可能とのお話。これは嬉しい驚きであった。

●2年生が対象になった訳

担当が通っていた頃は全校生徒700人前後という規模の高校も現在は約120人と生徒数が激減。（要因についてはここでは割愛）そんな中、なぜ今回の対象が2年生なのかと言うと・・・この時期1年生は修学旅行へ、3年生は試験期間中、よって参加可能なのは2年生のみ！
消去法？ま、まあいいじゃないですか。

●意外と純粹（ピュア）！？

開始前、コンテのワークやアウトリーチではお馴染みのガムテで名前を付ける作業。「本名じゃなくてもいいよ。呼ばれたい名前とかでもOK」の説明に「塾長」「美男子」「カルロス」（逃げるなよ！）その他諸々な名前を記入し大いに盛り上がる生徒たち。（特に男子）

君ら・・・小学生より盛り上がってるやん！

●いざ始まってみれば

おふざけキャラが多数出現するのでは！？という担当の心配をよそに生徒たちはアーティストの言葉にきちんと耳を傾け一生懸命に取り組む。途中、部活の声出しか！ってくらい掛け声（決して茶化したものではない）も飛び出すなどかなり楽しむ姿が印象的でした。

●Q&Aの攻防

終了後1人の生徒より「たくさんのダンスがある中でどうしてこのジャンルを選んだのですか？」という質問が。真摯にそして丁寧に回答するユキオさん。その回答の中で「人と一緒にの事をするのではなく新しい何かを見つけることも大切。ダンスにしても仕事にしても」これには質問者はもちろん深く頷く生徒もチラホラ。良い話です。



●この事業への応募動機

2012年のダン活事業では諸事情によりその後の支援事業を利用しなかった。

その後、新たなシステムで始まったダン活事業では過去にダン活事業を利用したホールも参加が可能という好条件もあり2017年にBプログラムで参加。

約5年振りとなったダン活でも地域の子どもたちを中心に本ジャンルを紹介し、興味を持ってもらえたという手応えを感じ取ったこと、そしてABCから成るプログラム制についてもそれぞれがやりがいのある魅力に溢れており1年のインターバル（次年度募集時期がBプロ真っ最中だったため）はありましたが今回Aプログラムに応募させて頂くことができました。

●事業のねらいと企画のポイント

本企画に限らず多種多様な舞台芸術や新たなジャンル、そして様々なアーティストなどを地域住民に紹介する、知ってもらうということもホールの大切なミッションのひとつだと思います。そこで普段ホールに慣れ親しんでいる方はもちろん、地元のホールへ足を運んだことのない（運ぶ機会のなかった）人たちも含め、ホール事業へ興味をもってもらおうこと（公募型WS）、そしてホール外での事業企画（アウトリーチ）などを知ってもらうきっかけになればということを考えました。

●企画実施にあたり苦労した点

普段より各学校とは良い関係を保っていることもあり、子どもたちを対象に考えていたアウトリーチ先についてはどの学校（学年）になるのか？といったことくらいで受け入れ先があるのだろうか？といったような大きな心配はなかった。

それでも動くのは早いに越したことはない約1年前より校長会での事業説明や参加の呼びかけを行った。幸いその時点で早くも興味を示してくれた小学校もあったのだが、中学校の参加が難しそうとのことで、その後も年度初めの校長会や、直接校長先生と話をするなど調整を続けたが結果として最後まで参加を取り付けることが出来なかった。こちらの趣旨は理解してくれておりあくまで学校側のスケジュール問題とのことだったのだが担当としては力不足を感じた。

●事業の成果と課題

ほとんどのホールイベントがそうであるように、足を運んでもらうまでがいちばん難しく大変な部分で、実際の事業やイベントを体験したあとであればほとんどのお客さんが観て良かった、来て良かったという感想を持ってくれる。そういった意味では今回の公募型WS、各学校でのアウトリーチについても参加者、児童生徒の方たち、先生方からは参加して良かったとの声が本当に多く聞かれた。次は今回諸事情により参加しなかった（出来なかった）ところへ行けるような動きをしていきたい。

●今後の事業展開や展望

土佐清水初のダン活事業からは随分期間が空いてしまったが、今回の3プログラムから成るダン活ではまだ2年半ほどしか経過していないため（令和2年度はCプログラムで参加が決定）この間に体験した人たちが多くいる中、そしてここ土佐清水で良好な関係を築くことが出来たアーティストたちとぜひ何か一緒にやりたいと考えています。夢は広がるばかりです！

●この地域のダン活の特徴

土佐清水市、そして土佐清水市立市民文化会館。ダン活界では言わずと知れた有名館であり、アーティスト・コーディネーターなら一度は行ってみたい憧れの？地である。それというのも「首都圏から最も遠い市」なる触れ込みを、本事業の担当者である柿谷氏が、研修会で数年にわたってプレゼンテーションしてきたからである。通常ならアーティスト側がプレゼンするところを、実施館がそれを行う。公共交通機関として、地方への新幹線や飛行機移動が当たり前になった時代、空港からバス、電車を乗り継いで隣の中村市まで行き、そこには柿谷氏が車で出迎えているのである。そうして車の中で、事業について、ダンスについて、土佐清水の土地や人柄についての話を、山を越え太平洋を見ながら1時間かけてホールに行くのである。研修会でのプレゼンに加え、到着するまでの長い時間がその土地への期待度をあげ、地域やホールへの理解度を高めてくれる。地方は確かに人口が減少し、情報や働く場所が少なく、移動も不便かもしれない。しかしその一方で、それぞれの地ならではの固有で豊かなストーリーがあり、それはアーティストのモチベーションと創作意欲を高め、ひいてはアーティスト自身の糧となる。

また、小さなまちだからこそ、人と人、ホールと市民の関係性や距離感がとても近い。これは熊本県長洲町でも同様に感じたことだが、地方ホールの大きな役割である「素晴らしい舞台芸術・アーティストに触れる機会」をつくり、一番触れてもらいたいターゲット層を見極め、届けることができる関係性、ネットワークを、当該館は確立している。そのことはアウトリーチ先の小学校・高校があつという間に決定したこともそうだし、公募ワークショップでも地元ダンスクラブを中心に早々に申込があつたことから見て取れる。また、柿谷氏は、土佐清水市内だけでなく、四国内のホールとの交流も積極的に図っており、地方ホールのネットワークを強めていることは大変評価できる。

外からアーティストを呼ぶプレゼン能力やネットワークの確立、遠くまで足を運んで学ぶこと、地域の見どころや食事（酒含む）をいくつも紹介できることは、地方には欠かせないことだし、人をつなぎとめるに重要なことであると、柿谷氏はじめ会館のスタッフの皆さんを見て改めて感じた。

●課題とこれからに向けて

土佐清水市も当然のごとく過疎・少子化が甚だしい。学校の統合も進んでいるが、市域が広く、今回伺った足摺岬小学校のように複式学級があつたり、統合後にスクールバスで遠く離れた学校まで通うこともより増えてこよう。こうした事情が「寂しさ」という感覚につながり、ひいては地域への愛着や誇りを貶めていくことにもなり得る。あるいは自らも卑下し引込み思案になりがちだ。だからこそ、地方でも素晴らしい文化芸術やアーティストに出会えるんだという事例をつくるのが大切だ。

鈴木ユキオさんは、圧倒的なプロフェッショナルのオーラを持っている。けれども決して偉ぶらず、日常の言葉から紡がれるものがダンスになるのだと真摯に語りかけながら、徐々に距離を詰めていった。ワークショップ参加者もアウトリーチ先の子どもたちもその特別感と真摯な姿に直で触れているうちに、動きがいつの間にかダンスになり、その結果に気づいた時やアーティストから褒められた時、大きな誇りにつながると思う。

首都圏から最遠の地であることは、国内で唯一無二であり、大いに誇るべき点である。特にダンスのような身体表現には、その身体がどこからどのように生まれ、その地にどう適合し変化していくのかを求められることも多い。そのような特徴的な場所に生まれた土佐清水市民が、自分の生まれ故郷を身体はじめさまざまな形で自信を持って表現できることを、文化会館が率先してバックアップしてほしい。

土佐清水という外と出会うことが少ない地、ホールを介して海の外をみる。地域性+新しい世界や文化に触れ合い、地域へ切り込めるホールとして期待しています。

最後に私事ですが、途中体調を崩してしまいたくさんの方にご迷惑・ご面倒をおかけしました。その代わり、ホールの皆さん、ユキオさん、暁さん、川口さん、足摺岬小の先生方の優しさを感じたところです。ありがとうございました。必ず何かを起こしてくれる土佐清水。どうぞ皆さんも行ってみてください。

Bプログラム

(市民参加作品創作プログラム)

実施団体	半田市
実施ホール	半田市福祉文化会館 雁宿ホール
実施期間	令和元年7月20日(土)～7月21日(日) 令和元年8月6日(火)～8月12日(月)
アーティスト等	アーティスト：田畑真希 クリエーションのためのアシスタント(共演者)：カスヤマリコ、中村理 テクニカルスタッフ等：ー
コーディネーター	神前沙織

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 7月20日(土) 15:00～17:00、小学生以上、無料、23名、講堂
- 《ダン活枠外》4月13日(土) 14:30～16:00、小学生、無料、14名、教養娯楽室1

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『ハンダ大楽奏』
- 8月11日(日) 14:00開演(13:30開場)
- 田畑真希、カスヤマリコ、中村理、ワークショップ参加者19名
- 一般1,000円、中学生以下500円
- 半田市福祉文化会館 雁宿ホール 講堂
- 112名

田畑真希の創るコンテンポラリーダンス。。。
指先からつま先まで、身体全体を使い、感覚のままに踊る。
会話は無い、でも、なぜかそこにはコミュニケーションが生まれる。
みんな違う動き、でも、なぜか。。。カッコいい。

8月11日(日)14時開演
会場：半田市福祉文化会館(雁宿ホール)講堂
入場料：一般1,000円、中学生以下500円
チケット取扱：半田市福祉文化会館
問合せ：半田市生涯学習課
TEL:0569-23-7341
Email:shougai@city.handa.lg.jp

ハンダ大楽奏
©松本和幸

田畑真希振付・演出
市民参加コンテンポラリーダンス
×
セントラル交響楽団による
弦楽四重奏&ピアノ生演奏

世界でも類を見ないこのステージを
ぜひご覧ください。

田畑真希
コンテンポラリーダンス、演劇にまで関わる中で、ユーモアを効かせた独特のダンスに魅力を感じ、国内外で積極的に活動中。2016年3月に半田市で作品を上演し好評を博す。近年には様々な世代を対象としたワークショップを開催し、性別、年齢、知識などの差を越えて、誰もが楽しめるダンスが生まれる身体表現の広場を創る。

【主催】半田市教育委員会 【共催】一般財団法人地味劇場

市民参加型
ダンス公演
出演者
田畑真希
カスヤマリコ
中村理
市民ダンサーズ
豊永香穂
豊永結花
豊永真心
小林舞華
橋本悠里
橋本有紀
藤原祥子
藤原杏子
佐藤菜穂
石山亮
竹内真穂
竹森綾子
田中大地
手塚莉那
沼田らほ
沼田真帆
松沼雅登
立木梓

スケジュール

	下見	
	4/13 (土)	4/14 (日)
9:00		
10:00	半田着	打合せ
11:00	打合せ	↓
12:00	ホール下見	昼食
13:00	昼食	打合せ
14:00	公募 WS (ダン活枠外)	↓
15:00	↓	
16:00	チラシ用 写真撮影	
17:00	↓	
18:00	↓	
19:00	交流会	
20:00	↓	
21:00		
22:00		

実施期間①	
7/20 (土)	7/21 (日)
半田着	
打合せ	
昼食	準備
HNひまわり 打合せ	クリエイション①
	↓
公募 WS	↓
↓	テクニカル 打合せ
打合せ	移動
交流会	
↓	

	実施期間②						
	8/6 (火)	8/7 (水)	8/8 (木)	8/9 (金)	8/10 (土)	8/11 (日)	8/12 (月)
9:00	仕込	照明仕込				準備	
10:00	↓	↓				ゲネプロ	移動
11:00	↓	↓				↓	
12:00		↓			準備	↓	
13:00	半田着	↓	準備	準備	クリエイション⑥		
14:00	打合せ	↓	HNひまわり クリエイション	HNひまわり クリエイション		公演	
15:00		アーティスト 稽古	アーティスト 稽古	アーティスト 稽古		交流会①	
16:00	アーティスト 稽古	↓	↓	↓	↓	フィードバック	
17:00	↓	↓	↓	↓	↓		
18:00	準備	↓	↓	↓	↓	交流会②	
19:00	クリエイション②	クリエイション③	クリエイション④	クリエイション⑤		↓	
20:00	↓	↓	↓	↓		↓	
21:00	テクニカル 打合せ						
22:00							

公募型ワークショップ

昨年度の A プログラムに続き田畑真希さんを迎え開催した今回の公募ワークショップ。小学生以上を対象に募集したところ、下は7歳、上が70歳の計23名の参加があった。中には、田畑さんのワークショップの虜になっているリピーターの方、初めてダンスをする方、普段は合唱を専門にしている方、当日ふらーっと立ち寄った方、子どもが参加しているのをみていたら自分もやりたくなったというお母さんなど、普段一度に交わることがないような、年齢も性別も職業も様々な方々が集まった。

ワークショップが始まると、広い空間で流れ出す陽気な音楽に合わせて、老若男女誰もができる簡単な動きをしたり、見様見真似で田畑さんの動きに合わせて踊ったり。かと思えば、「1人で1本足で立つ」「3人で2本足で歩く」など同じテーマを提示され、そのテーマに合うようにそれぞれが思い思いに踊る。それぞれが思いのままに踊る姿を見ると、ひとりひとりの持つイメージが異なる証拠だなと感じ、その違いを表現できることがとても素敵だと感じた。

これまで何度も田畑さんのワークショップを見てきたが、毎度共通していることがある。それは、ワークショップを終えたあと、誰もが凄まじいエネルギーを発して帰られるということ。汗を流すほどたくさん動いたのに、その疲労に反比例するように皆さんキラキラして帰られる姿が今回もとても印象的であった。中でも、「身体の気づきを発見することができた」「人と作りあう楽しさを感じた」「自由に動くことの快感を得た」「魂をくすぐられた感じ」など感想をいただき、この瞬間でなければ味わえない各々の感情が伝わってきて主催者としてとても感慨深かった。



クリエイションの様子

●練習初日（7月21日）

参加者のほとんどが公募ワークショップにも参加しており、更にそのワークショップ翌日がクリエイション初日だった為、スムーズに始まった。また前日のワークショップを体験し、急遽クリエイションへの参加を決めたという方もいた。

初日はワークショップ同様に簡単に身体を動かしたあと、円になりそれぞれ自分のポーズを決め、披露し、全員が全員分のポーズを覚えるというワークを行った。それを皮切りに、参加者が公演で踊るアイネクライネナハトムジーク第一楽章の振付が始まった。いざ振付が始まり、これまで行っていたワークとは異なることで参加者の皆さんの気持ちが下がってしまわないか少し不安だったが、皆さんがイキイキと踊っている姿がみられてほっとした。

●クリエイション再開（8月6日）

2週間の期間が空き再開したクリエイション。この日からは、舞台、客席の設営が完成した状態で、更にテクニカルスタッフによる照明づくりをしながらのクリエイションとなり、参加者にとって、当日ここで踊るんだという意識が少しずつ芽生えていったように感じた。

初日に振付を開始したアイネクライネナハトムジーク第一楽章の練習では、振付動画を共有していたからか、概ね曲に合わせ踊ることが出来ており、少し安心した。

●ピアニスト合流（8月7日）

今回の公演は、弦楽とピアノの生演奏で踊る構成となっており、この日はピアニストが合流する初めてのクリエイションとなった。クリエイションの開始2時間前から田畑さんとピアニストによる曲決めや構成などの調整が始まり、参加者はこの時に決めた曲目で実際に踊った。プロのピアニストに時間を頂いている以上、何度も何度も繰り返すことはできない、そんな緊張感がありながら、ピアニストの方のクリエイション予定時間間際まで練習を行った。そしてこの日アイネクライネナハトムジーク第一楽章→ピアノ演奏→第二楽章まで通しでの練習も行った。



● HNひまわりとのクリエイション (8月8・9日)

今回の公演は一般公募に加え、昨年度Aプログラムにてアウトリーチを行った障害者福祉サービス事業所（HN ひまわり）から7名、また障がいのある子どものダンスサークルから2名の子どもを、市民ダンサーズの一員として迎えた。そしてこの2日間は一般公募市民ダンサーズとのクリエイションを前に、HN ひまわりの参加者の皆さんとのクリエイションを実施。さっそく皆で輪になって田畑さんの動きに合わせて踊るなど簡単なワークを行った。田畑さんのワークショップに参加したことのある方も多く、皆自然に踊り始めていたのが印象的であった。それから、7日に録音したピアニストの演奏をバックに、実際の構成での練習を何度か繰り返した。

●弦楽四重奏の合流 (8月10日)

今回の公演での2曲、アイネクライネナハトムジークと大フーガの演奏を担う弦楽四重奏の方々が合流し、生演奏での練習へと切り替わった。普段のCD音源での練習とは違い、生演奏となると音の感じ方やテンポ感は変わってくる。特に田畑さんらが踊る大フーガは、演奏側、踊る側両者にとって本当に複雑で少しのテンポ感のずれで合わせるのが難しくなる。お互いの主張を交わしながら、最終的に完成した姿は、プロとプロがぶつかる姿だった。ダンサーも演奏者も一緒に作品を創り上げていく一員だという田畑さんの思いがすべての方に浸透したのを感じた。

●初めての揃い練習 (8月10日)

いよいよ公演前日となり、普段別々で練習していた一般市民ダンサーズと、HN ひまわりの皆さんと初めての合同練習となった。初めは一般公募の市民ダンサーズが彼らをどのように受け止めるか、正直不安だった。しかしそんな不安をかき消すように、皆さん自然に彼らを受け入れており、むしろ踊る中で自然に彼らの手を取り、それぞれが自然にペアとなり踊る姿をみて、ただただ素敵で感慨深かった。



公演

『ハンダ大楽奏』



本公演は全てが初めての試みの連続、そんな公演であった。コンテンポラリーダンス公演を実施するのも初めてであれば、市民参加型の公演自体初めてだった。そんな中で、障がいがある方々にも出演を依頼した。前述のとおり一般市民ダンサーズと組み合わさったらどんな作品になるのか、本番もうまくいくのか、様々なドキドキを抱えながら公演を迎えたが、本番は、障がいの有無なんて関係なく、表現の世界って誰もが打ち解けあうことができるものなのだと再認識できるような、なんとも表現しがたいとても素敵な公演となった。また、前述にもあるとおり、本公演の演奏は全て生演奏によるもの。半田市が音楽文化振興に関する協定を結んでいるセントラル愛知交響楽団の協力を得て、弦楽演奏者4名、ピアニスト1名の派遣をいただき、初めて生演奏とダンスのコラボを実現した。実は一時、楽団担当者との認識のずれが生じ、違う形態での演奏が想定されたが、様々な方の協力があり、当初どおり弦楽四重奏とピアノの演奏を実現することができた。ホールではない狭い空間で、観客がこんなに間近で演奏とダンスを観ることができ公演は今後もなかなかできないのではないだろうかと思う。そして舞台についても、普段公演としての使用の少ない当館講堂に照明設備等を持ち込んでの初めての公演となった。常設はほとんどないといっても過言ではない照明・音響設備の中で、テクニカルの方々には毎日のクリエーションについていただき、できる限りのことをしていただき、それぞれの演出に合わせた素敵な空間を一緒に創り上げることができた。

●来場者アンケートより（感想）

- ・心の中にじ〜んと来るものがありました。人生のストーリーや季節も感じました。演出がとても良く、オリンピックの式典レベルでした。明日への力となりました。ありがとうございました。
- ・ダンスと踊りが合っているような合っていないような不思議でしたが楽しかったです。
- ・楽器とダンス、素晴らしかったです！ひまわりさんのダンスステキでした！
- ・最初、1,000円は高いなと思ったのですが、実際はそれ以上の価値でした!! すごく良かったです！
- ・素晴らしい表現力で感激しました。ひきつけられ、あっという間に終わってしまいました。
- ・今までに経験のない表現。どう発展するか興味が広がった。
- ・生演奏+ダンス、すっごく贅沢でステキでした。出演者の方の個性が光っていました。
- ・様々な方が参加されている中、作品として素晴らしいものを観ることができました。
- ・こういう芸術があったかと思った。
- ・個々のダンスが一つのダンスにまとまっていて素晴らしかったです。
- ・私には音楽と踊りが何かよく分からずマッチしなかった。
- ・ダンスはよくわかりません。踊り手は一生懸命なのはよく伝わりました。

●この事業への応募動機

これまでダンスの表現の自由さや、誰しものがダンスを踊ることができるという可能性を知ってもらうことを目的のひとつにダンス事業を続け、昨年ダン活 A プログラムを実施し、引き続き、地元の方々へダンスを通じて何かを得てもらいたいと考えた。コンテンポラリーダンス公演や市民参加型公演に関してのノウハウ、また予算面も考慮し、ダン活 B プログラムへ応募させていただいた。

●事業のねらいと企画のポイント

出演いただく市民ダンサーズの皆さんにとって、実際にコンテンポラリーダンスに触れることで、「どんな表現も正解であること」「表現することに隔たりなどないこと」を感じていただくこと、また人前に出て演じることで、参加者それぞれにとってプラスの成果を得て普段の生活にかえてもらうことを狙いのひとつとして企画した。

また昨年度 A プログラムにて出会った HN ひまわりの皆さんやホーステイルズの皆さんにとって、ダンスの機会を一回きりで終わらせたくない、人前に出て、何か感じてもらえたら、そんな思いで、今回も共演を企画した。

●企画実施にあたり苦労した点

今回ダン活公演とは別に他事業でも同様に市民ダンサーズを募集したこともあり、PR チラシの情報が溢れ、公募ダンサーズの募集、当日チケットの販売双方において PR 活動は大変苦労した。市内小中学校全児童にチラシを配布しこれだけ反響がないのは初めてであった。コンテンポラリーダンスという取っ掛かりにくい内容をチラシ一枚でどう伝えるのか、どの情報を一番伝えたいのか、再度考慮して公演用にチラシを作り直したが、当日は音楽を目的とする方含め、大勢の方に来場いただき、会場は大盛況であった。

●事業の成果と課題

参加者にとっての効果に焦点を当て実施した今回の事業。参加者からは「子育ての間は自分の娯楽は諦めていた。普段はつらい料理も、自ら作ろうと思えるほど、ダンスのおかげで生きる活力が湧いてきた」などの言葉を頂いた。更には、当日の演奏者の方々からは「伴奏のつもりだったが、いつの間にかお互いに空気を感いいながら全体が溶け合った感じがして本当に気持ちよかった」など、今回公演に関わっていただいたすべての方にプラスの効果を感じていただき終えることができたことが何よりの成果だったのではないかと考える。

また、こうしてダンスを通して成果を感じてもらえるような方々を増やすには、という PR の部分が何よりの課題だと感じる。

●今後の事業展開や展望

本公演にて得た経験や感情はきっとこれからも参加者の記憶に残っていくだろうし、そんな今回撒いた種を決して根絶やしてはいけなと強く感じる。また障がいのある子どもたちの保護者の中には不安が大きく今回参加を見送ったという方が多かったが、実際公演を観て、参加させていけばよかったと思ってくれた保護者の方もいらっしまったとのこと。そんな方々のためにも、今回のような大規模な公演を続けるのは難しいが、できることから、実施していけたらと思う。

●この地域のダン活の特徴

半田市福祉文化会館でのダン活2年目は昨年度のAプロに続き、Bプロを実施した。Aプロの流れを汲んでBプロにつなげるため、アーティストとコーディネーター共に昨年度と同じメンバーで、前年度の春からメール上での準備を始めた。

愛知県内ではいくつかの市でダン活を実施しており、県立の芸術劇場にはダンスのディレクターがおられるため、この地域の人々がダンスに触れる機会は少なくないが、市民参加のダンスプログラムはまだほとんど事例がない。半田市の事業担当・蛭川さんは地域と劇場をつなぐコミュニティダンスに可能性を感じ、ダン活に申し込みをされた経緯もあって、今年度のBプログラムの実施にはかなりの気合が入っていた。

特殊だったのは、通常のBプログラムに加えてホール独自の試みとして、セントラル愛知交響楽団とのコラボレーションを行った事だ。ダン活の事業の約一か月後にセントラル愛知主催のオーケストラ公演があり、その舞台にダン活Bプロで創る市民参加のダンス作品を発展させて上演することになった。ただ、市民の方に、ダン活とセントラル公演両方とも出演してほしいとなると、練習日程の多さから参加のハードルが高すぎるという事で、どちらも参加する人、どちらかに参加する人と、3種類の参加者がいることになった。

参加者は毎回とても楽しみに来てくれ、終了後の打ち上げの感想を聞いても、人生が変わった、また必ず参加したいと、全員の満足度がとても高かった。作品としてもよかった。また、作品中、弦楽四重奏を演奏されたセントラル愛知の楽団メンバーが、全員打ち上げに残って、とても刺激的で得るものが多く楽しかった、こんな本格的なダンスとは考えていなかった、また機会があれば参加したいと言ってくださったのも想像以上の反応であった。市民が踊るというプログラムに当初あまり期待感をお持ちではなかったそうだが、そうした大方の人の予想を裏切る芸術性と新規性に富んだプログラムであることが、芸術のジャンルを超えて、特に練習にかかわった地域の参加者に深く浸透したのは、事業の大きな成果と言える。

●課題とこれからに向けて

願わくば、この流れを一過性のものに留めずに、形を変えてでも継続していただきたい。Bプログラムはどうしても手間暇がかかるが、アウトリーチであれば事業予算も大きすぎずダン活に関わらず申請できる助成金がある。そうして一度ダン活を通して育んだ参加者とホールとが繋がりを持ち続けられるような工夫をすることで、担当者の経験も徐々に増えていき、いつかまたBプログラムのような市民参加を小規模にでもできると思う。そうした積み重ねの中で、ダンスの可能性を知る人が増え、今度はダンスのアーティストの作品を観たい、と思う市民が増えていく事になる。

事業担当者には今後も、楽しみながらダンス事業を行っていただけたらと願う。

実施団体	ながす未来館指定管理者 株式会社舞台風
実施ホール	ながす未来館
実施期間	令和元年9月6日(金)～9月8日(日) 令和元年10月2日(水)～10月7日(月)
アーティスト等	アーティスト：中村蓉 クリエイションのためのアシスタント(共演者)：田花遥、久保田舞 テクニカルスタッフ等：中瀬俊介
コーディネーター	小岩秀太郎

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 9月7日(土) 14:00～16:00、小学生以上、500円(高校生以下無料)、47名、文化ホール

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『長洲絵巻』、『嫁入り唄』
- 10月6日(日) 15:00開演(14:30開場)
- 中村蓉、田花遥、久保田舞、ワークショップ参加者 17名
- 一般1,000円 高校生以下500円(未就学児無料)
- ながす未来館 文化ホール
- 110名

公演ポスターの主要なテキスト要素：

- タイトル：『長洲絵巻』、『嫁入り唄』
- 公演日：2019年10月6日(日)
- 開演時間：15:00 (開場 14:30)
- 会場：ながす未来館 文化ホール
- 出演者：中村蓉 (Yo Nakamura)、田花遥、久保田舞、ワークショップ参加者
- チケット料金：
 - 一般 ¥1,000 (当日 ¥1,200)
 - 小～高校生 ¥500 (当日も同料金)
- 備考：
 - ※全席自由 ※未就学児無料 ※未就学児入場可(絶対氏名有り※要予約)
 - ※チケット7月13日(土)より発売開始!
 - チケット追加受付：
 - ながす未来館・五木山公民館・鹿嶋総合文化センター・文翔館文化会館・一宮
 - セブンイレブン(お近くのセブンイレブンにて7月13日(土)より販売開始)

ワークショップポスターの主要なテキスト要素：

- タイトル：『コミュニケーションスキルUPダンスワークショップ vol.3』
- 開催日時：2019年9月7日(土) 14:00～16:00
- 会場：ながす未来館 文化ホール
- 参加費：¥500 (高校生以下無料)
- 対象：小学生以上の方(小学生以下の方は参加OKのダンス未経験者大歓迎)
- 定員：30名(定員に達し次第が切)
- 備考：
 - ※18歳以下の方参加には保護者の承認が必要です。
 - ※タオル、飲み物を持参の上、動きやすい服装でご参加ください。

スケジュール

	下見	
	5/21 (火)	5/22 (水)
9:00		地域取材
10:00		↓
11:00		↓
12:00		昼食
13:00	移動	地域取材
14:00	打合せ	フィードバック
15:00	地域取材	↓
16:00	↓	移動
17:00	↓	
18:00	移動	
19:00	リサーチ WS	
20:00	↓	
21:00	フィードバック	
22:00	退館・交流会	

実施期間①		
9/6 (金)	9/7 (土)	9/8 (日)
	打合せ	打合せ
	地域取材	地域取材
	↓	↓
	食事	食事・準備
移動	WS 準備	クリエイション③
地域映像撮影	公募 WS	↓
↓	↓	↓
	地域映像撮影	フィードバック
↓		
食事	食事	移動
準備	準備	
クリエイション①	クリエイション②	
↓	↓	
退館	退館	

	実施期間②					
	10/2 (水)	10/3 (木)	10/4 (金)	10/5 (土)	10/6 (日)	10/7 (月)
9:00			打合せ 仕込	打合せ	公演準備	片付け
10:00		打合せ	↓	↓	↓	フィードバック
11:00		↓	↓	↓	ゲネプロ	↓
12:00	移動	昼食	昼食	昼食	↓	移動
13:00	打合せ	アーティスト 稽古	仕込	アーティスト 稽古	手直し	
14:00	↓	↓	↓	↓	↓	
15:00	地域映像撮影 食事	↓	アーティスト 稽古	↓	公演	
16:00	↓	↓	↓	↓	↓	
17:00	↓	食事	食事	↓	出演者反省会	
18:00	舞台準備	準備	準備	準備	片付け	
19:00	クリエイション④	クリエイション⑤	クリエイション⑥	クリエイション⑦	フィードバック 反省会	打ち上げ
20:00	↓	↓	↓	↓	↓	
21:00	↓	↓	↓	↓	↓	
22:00	退館	退館	退館	退館		

公募型ワークショップ

令和元年度はBプログラムを実施しました。公募型ワークショップの企画意図としては、昨年度取り組んだAプログラムの経験を経てコンテンポラリーダンスに少し面白さや興味を持った方々や公演には参加できない方もワークショップだけでも参加できるよう年齢・男女問わず募集することとし、期間中一回の実施で参加数を心配していましたが10歳～63歳までの男女47名に参加していただきました。内訳は、バレエ、ジャズダンス教室の子供達が多く、一般の方は10歳・27歳・54歳・63歳の方、役場職員4名で8名でした。あとは各ダンス教室現役・OB合わせて39名の参加でした。

ワークショップ中は、元気のいいアーティストに皆さんついていくのに一杯一杯の様子でしたが、体による表現の面白さ、また正解のない形の不思議さなどを体験していたように感じました。参加者の皆さんは笑いながら内容にチャレンジできていて終始和やかに進んでいきました。終わってみると充実感溢れる顔で、皆さんにこやかに会話している様子も見られ公演参加に向けてのコミュニケーションもとれるようになったと思います。



クリエイションの様子

●コミュニケーション

クリエイションは初めて会う方も多く、まずはコミュニケーションをとってから始まります。準備運動も兼ねての時間です。平日の夕方からのクリエイションにもかかわらず17名の参加者が集まり始めました。

●ダンスの構成

クリエイションの前後に休憩を兼ねてホワイトボードを使ってのフォーメーションやダンスの内容、流れなどについてアーティストから説明がありました。お互いアイデアを出し合いながら進めていきます。

●パートごとのクリエイション

クリエイションが連日に及ぶため少人数しか参加できない日もありました。アーティストのアレンジで内容を人数に応じたパート毎の練習に切り替え、来てくれた参加者が有意義なクリエイションができるような工夫もありました。

●チームごとのクリエイション

シーン別や舞台を広く使うクリエイションでは、アシスタントの方とチーム毎に分かれてのクリエイションも活用しました。お互い見てないダンスを全体練習の時初めて見てびっくりしたり笑ったり・感動したりと参加者たちも楽しめたようです。

●全員でのクリエイション

全体でダンスする場面の練習です。この日は参加者が揃っていたため全員での場面を中心に行いました。

リリウムを初めて経験する方もいて、今までの板の上とは違う感覚に少し戸惑っているようでした。ただ、アーティストの一生懸命さにつられて目を追う毎に参加者の踊る意識が発表本番日に向いている様な緊張を感じます。



●参加者同士で

参加者が少ない時間帯にはそれなりのクリエイションをする事で参加者同士で教え合う事ができ、人数が変わっても対処できる様大勢いるつもりで配置と内容をみんなで決めていきました。

●照明を入れて

前日には照明の仮仕込みが終了しクリエイション時に明かりを入れての練習です。照明の担当者が付き合えなかった日や内容を把握するためにも早めの照明入りでの練習は有効だと思いました。

●最後のクリエイション

セットの位置やサイドからの照明器具の場所など確認しながらの練習です。最後のクリエイションは全員参加で行う事ができました。この頃には、通し練習を重ねる事ができ、アーティストの指導力の高さに驚かされます。



公演

中村蓉 ☆コンテンポラリーダンス踊る 2 本立て公演『長洲絵巻 / 嫁入り唄』



B プログラムは参加型公演ということで、一部は長洲町の伝統芸能である「ながす嫁入り歌」と特産品である「金魚」を取り上げてもらえるようにアーティストに伝えるとともに、町の視察においてもその特徴がわかりやすい場所を中心に回るようにしました。またアーティストが使いたい舞台セット・小道具についても小回りの効くホールの特徴を生かし準備しました。二部は、参加者に直接思い出の場所をアーティストに引き出ししてもらい、それを体で表現して上から見るという演出の二部構成となりました。広報については、熊本全域をカバーしている新聞社にクリエイションの様子の取材を申し入れ、記事としての掲載をしてもらった結果、遠方からの観覧者も来館してもらえました。

●来場者アンケートより（感想）

- ・振りがとっても面白くすごかった。
- ・バレエとダンスの融合が良かった。
- ・参加のみんなも頑張っていて良かった。
- ・伝統に新しい振付がしてあり大変良かったし感動した。
- ・わかりやすくまとまっていた。
- ・参加者の一生懸命が伝わってきた。
- ・久しぶりの感動で涙が出ました。心よりの感謝です。

●この事業への応募動機

長洲町及び周辺地域ではコンテンポラリーダンスや舞踏に触れる・参加体験する・観賞する事が少なく、多くの方々が未経験です。

これからはコンテンポラリーダンス等を通して自由な表現芸術に触れる事に必要性を感じていました。それにはまず、体験を含めた事業を行う事で今までなかったものを見たり、体験してもらうことから始まると考え応募することとしました。

●事業のねらいと企画のポイント

昨年度にAプログラムを実施し、ワークショップにおいて多くの参加者からは体験して良かったと評価を受けました。今年度はBプログラムの参加型公演の実施に向けて、昨年の参加者を中心とした新たな人材の掘り起こしを行い、公演まで体験することで表現の楽しさを伝えることがねらいでした。長洲町の伝統芸能である「ながす嫁入り歌」と特産品である「金魚」を取り上げることがポイントにし、親しみやすい内容とする事で話題と集客または参加者が増えるようにと考えていました。

●企画実施にあたり苦労した点

実施するにあたり、ワークショップには47名とたくさんの方に参加してもらいましたが、クリエイションを含めると一週間の連続参加となるので公演まで参加できるメンバー調整が一番大変でした。クリエイションには参加できるが本番当日だけ参加できないとか、またはその逆とか。しかし、熱心なアーティストとのクリエイションを行う内に楽しみにして来るメンバーが増えていったようです。また、集客も苦労した一つです。目標は大きかったのですが、目標には届かず今後の大きな課題となりました。

●事業の成果と課題

会場となるホールは客席数600席の舞台が一つしかない為、いかに広く大きく使うかが課題でした。最終的には参加者を17名集める事が出来、アーティストの演出・振付もあり舞台が狭く感じるくらいに演技出来たと思います。

広報においては前回と同じでしたが、今回は、ワークショップに来てくれた方々の回りで参加者を募り、公演終了後には参加者とアーティストとの交流の時間を設け、感想を直接アーティストに届けるようにしました。

課題として、観客数が思ったより伸びなかった（予想の半分程度）事、本番にて舞台監督の選任者が用意できなかったため、緞帳が閉まる前に客入れが始まってしまった事、最終技術確認ができずに音声・映像トラブルがあった事、終演後のお客さんへの案内・対応ができなかった事です。アーティストを始めとする関係者に迷惑をかけてしまったと思っています。チェックシートとスタッフ間のコミュニケーション不足でした。また、研修で言われていた「ダン活は自分たちが企画して開催しているんだ」という事のスタッフ周知が足りなかったように思います。さらに大きな課題である人材・資金不足も知恵を出し合い解決し、これからのホール運営に生かしていこうと思います。

●今後の事業展開や展望

来年度のCプログラムに向けて、町民のコンテンポラリーダンスへの周知と興味を広げ多くの人々が参加できるよう引き続きダンスにまつわる活動をしていく事が大事だと考えています。特に子供たちや若者の生活すべてにおける表現力・コミュニケーション不足を感じている昨今、このダン活をきっかけに少しでも改善できればと思います。今後は学校や地域におけるアウトリーチやホールでのワークショップを毎年継続的に実施し、小学6年間で数回コンテンポラリーダンスのアウトリーチを通して卒業することにより、思い出や、将来ダンサーを目指すきっかけになったり、何よりも自由な自己表現することの楽しさ・コミュニケーションの大切さを学んでくれればと思っています。

●この地域のダン活の特徴

熊本県長洲町は、福岡県境にあり、また有明海を通して長崎方面との交流も深かった地域である。有明海干拓による平野が広がり、地勢を活かした金魚養殖が盛んで、観光資源としても土産物や「金魚と鯉の里広場」という専門施設など、金魚を全面に押し出している。また大手造船業を中心に発展してきた工業地帯でもあり、長洲町民だけでなく近隣市町、外国人らの労働者が多数在住、就業している。

事業企画者であり、ワークショップ、公演会場でもある「ながす未来館」は、町役場と隣接した町行政の中心部に位置し、現在はホール管理・テクニカルを専門とする（株）舞台風が指定管理者となっている。館長は長く町役場職員であった方で地域の歴史・文化に詳しく、舞台運営だけでなく、地域文化の情報発信地として活用しようという気概がみえる。

さて、舞台風の代表である西田氏ははじめスタッフの皆さんは舞台制作経験も豊富で、音響・照明・美術といったテクニカル、チラシ・ポスターなどの広報デザインも社内で一貫して手がけることができる。小さな地方自治体のホールにおいて、スタッフを雇うこと、育てることに注力することは予算や時間的に困難なことが多いが、ながす未来館ではスタッフ育成にも力を入れており、皆仲も良い。

さらに西田氏の強みは、なんといっても町民との距離感が近いという、地方の特性を活かしたPRや人脈をフル活用するアイデアの豊富さであろう。情報やチケットは、直電話や直接顔をあわせて渡すことを心がけているし、長洲町だけでなく近隣市町にもネットワークは広い。現に、ワークショップ参加者の大半は隣市のダンススクールの生徒であった。

また、担当アーティスト中村蓉氏が得意とする映像プロモーションでは、下見およびクリエーション期間中に、長洲町（および隣市）の特産や参加者から取材した思い出の地などで撮影した。その際、撮影場所・取材先は、その強固な人脈が役立ちスムーズに行われた。この映像作品は、事前プロモーションおよび、作品中にも使用された。

地方における公共ホールは、外からの新しい文化や人物を地域住民に提供し、文化活動を支援する最前線に立っている。地域住民の声に耳を傾けながらも、九州の他の公共ホール（例えば北九州芸術劇場）とのネットワークも強く確立し、ダンス事業における公演・制作ノウハウなども共有しているようで、小さな町ながらも広い視野でのダンス事業を展開できる可能性をもっている。

●課題とこれらに向けて

市民参加型で有料公演であるBプログラムで、ダンスに馴染みのない小さな町のホールを満員することは一般的に難しい。しかし、ながす未来館は地域住民との距離が近いだけに、「誰かしら来てくれるだろう」という感覚が勝り、興味を持ってもらうという努力が少しばかり足りないように思えた。現に、西田氏の声がけのもと、ワークショップ参加者や取材してくれる新聞社はすぐに集まったが、「なぜダンスのワークショップを開くのか」「中村蓉というアーティストとこの町で何をするのか」が参加者およびホール職員に十分に伝わっていなかった感がある。ワークショップ参加者の中から作品に参加する市民を選ぶことにしたのだが、意図が伝わっていなかったため、途中で来なくなる、本番のスケジュールが合わないなど、参加者が不安定で、アーティストに心理的な不安、負担がかかってしまった。このことは、ホール担当者全員が、何のためにこのダンス事業をし、何のためにワークショップや作品づくりをヨソから来たアーティストと市民が行うのか、その結果この地域に何が残るのか、意識を共有しておくことが最重要である。特に町役場職員が数名出演者にエントリーしていたが、作品づくり・参加が「町のためになる」という目的が明確になっていなかったのかもしれない、参加にばらつきが出ていた。

中村蓉氏は、ダンスというものがこの社会においてどのような立ち位置にあり、効果をもたらすか、見た目（ビジュアル）、音楽、構成を全体的に俯瞰し、より平易な言葉と構成で人を巻き込んでいく力を持っている。その柔軟さと反面強烈なストイックさ、自らへの厳しさは周りを恐縮させることもあるが、参加者やホールスタッフの名前を呼ぶ、それぞれを褒めるなど、気遣いを忘れないため、一緒に作品を作った時間は忘れられない記憶になるだろう。

全体を通して、参加者・協力者の連絡先のリスト化（一回限りに終わらせない）、スケジュールや公演におけるスタッフ配置など、舞台制作に関する一連の流れのマニュアル化をすすめたい。開場時における受付と舞台との連絡系統のばたつきや、オフィシャルな記録の撮り忘れなど、スタッフ不足は仕方がないとはいえ役割分担を明確にしておくことが必要だろう。

とはいえ、これまでながす未来館がまいてきたダンスの種は確実に開こうとしている。出演者の大半をしめたダンススクールの先生は、ワークショップからクリエーション、本番まで一貫して自主的にSNSを使って拡散し、観客動員につながった。また終演後のロビーにおいて、中村蓉氏が映像で使用した店舗に関する観客が、涙ながらに長洲町を取り上げたダンス作品への感謝を伝えたという。地域創造のダン活事業が目指すべきところ、ダンスと街が重なる一端を見聞きすることができた。

スケジュール

東京都国立市／くにたち市民芸術小ホール

	下見	
	7/16 (火)	7/17 (水)
9:00		
10:00		施設内にて P R 動画撮影
11:00	谷保駅集合	↓
12:00	国立三中A組 アウトリーチ	↓
13:00	古民家撮影	打合せ
14:00	ホール移動 施設下見	↓
15:00	打合せ	↓
16:00	↓	↓
17:00	↓	
18:00	交流会	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①			
11/22 (金)	11/23 (土)	11/24 (日)	11/25 (月)
			移動
	集合	集合	
	クリエイション①	クリエイション②	
	↓	↓	
ホール集合			
打合せ WS準備	↓	↓	
↓			
		テクニカル 美術打合	
公募WS		↓	
↓			

	実施期間②				
	12/4 (水)	12/5 (木)	12/6 (金)	12/7 (土)	12/8 (日)
9:00	ホール準備	各会場仕込み	各会場仕込み	各会場仕込み	
10:00	↓	↓	↓	↓	準備
11:00	↓	↓	↓	↓	ゲネプロ
12:00	↓	↓	↓	↓	
13:00	↓	↓	↓	↓	クリエイション⑤
14:00	荷下ろし 打合せ	↓	↓	↓	準備、開場
15:00	各会場仕込み	↓	↓	↓	公演
16:00	↓	↓	↓	↓	↓
17:00	↓	↓	↓	↓	交流会
18:00	↓	クリエイション③	クリエイション④	↓	
19:00	↓	↓	↓	↓	移動
20:00	↓	↓	↓	↓	
21:00					
22:00					

公募型ワークショップ

広く一般に、現代ダンスの魅力を伝えることを目的とした。同時に、公演に出演するメンバー（Collectiveメンバー）に応募するかを迷っている人が「お試し」できる機会とした。

参加希望は7名いたが、実際には5名が参加。そのうち2名が小学生、前年のAプログラム参加者が3名であった。年齢は小2から67歳まで。定員30名を想定していたので、もう少し人数が欲しいところであったのと、できれば現代ダンス未経験者にできるだけ多く参加してほしいと願っていた。

活動には東野さん率いるANTIBODIES Collective（以下アンチボ）から公演に出演するメンバーが数人加わり、多くのメニューを活発に次々とこなしていく充実した内容となった。アンチボメンバーと市民参加者とが見分けがつかないほど交わり、それぞれに自由な形で動いていた。二人の小学生も積極的に大人たちに加わっていた。

内容は身体ほぐしから始まり、2人一組で相手を動かしたり気持ちを合わせて踊ったり、また目に見えたものを身体で表現したり、さらには東野さんが出すお題（「頭が石になる」「引っ張られる」など）によって自身を動かすなど、身体も心も集中して取り組んでいくものであった。参加者はみな、自然に解き放たれた動きへと誘われていく様子が見て取れた。

活動後参加者からは、「こんなに自分が動くとは思わなかった」「小さい子たちと一緒に踊れて楽しかった」などの言葉が寄せられた。翌日からのクリエイションに参加する人も複数おり、企画全体への期待感がうかがわれた。



クリエイションの様子

●動くことに慣れる→それはダンスに

柔軟運動から始まり、二人一組で身体をほぐし合ったり、東野さんと同じ動きをしたり・・・と「ネタ」を次々こなしているうちに、その動きがどンドンダンスになっていく。もともとダンスになじみがある参加者がほとんどであるせいか、躊躇する間もなく、みな積極的に自由な動きを見せている。解放されたような表情で、「ENDSCAPES」の世界観をおのずと感じ取っているように見受けられる。



●その人を知る、引き出す

参加者には東野さんからの事前アンケートで、特技や好きなアーティスト、生まれ変わったら何になりたい？等を聞き出していた。また好きな本など、「自分の創作の糧になる素材」をもって来るようにとの指示が。稽古中にそれを使って、お互いを知り合う作業を行った。見た目だけではわからないその人らしさを感じ合い、もしかしたら普段は人前に出せない自分を出していくことで、公演でのその人のポジションを創ることにつながっていった。みなとても楽しそうな表情。自分を知ってもらえる場があるのは素晴らしい。



●ホールから出る

今回は芸小ホール創立以来初めての、全館を使った公演。公演の進行内容、お客さんの導線についてのプラン説明を受けたのち施設内をみんなで巡り、各所で繰り広げられるパフォーマンスの設定イメージを東野さんが説明。ロビー、廊下、建屋の外など多くの場所がステージとなるのが現実味を帯びて感じられてくる。



●各シーンを創り始める

小グループに分かれて、シーンを創る。市民参加者とアンチメンバーが同じ目線で取り組み、一人一人の出したい動きを活かしながら少しずつ、形を創っていく。

まだまだ全体像は見えないところで、前半のクリエイションは終了。



●ホールでの群舞と、個別パフォーマンスと

3回目のクリエイションにして本番3日前。遅れてようやく稽古に加わった人もいるが、次々に決まっていく動きに皆よくついていっていることに驚く。ホールの照明や舞台の形が表れ始めたホールでの群舞の練習、衣装を着け一人一人違う表現でのシーンづくりを並行して行う。必死さと同時に、それぞれの世界観がはっきりと見て取れる。誰も皆、代えが利かない魅力的なパフォーマンス。

●空間の貌が現れた

美術もほぼ完成し、異世界の集合体のように変容した芸小ホール全施設。ギャラリーいっぱい膨らむ巨大な風船の中ではしゃぐ小学生女子3人組、ただのパイプ椅子が見事に組み合わせられタワーになった萌え要素満載のインスタレーション、アトリエの作業台が晚餐の食卓となり、そのうえで繰り広げられる男女の妖しいダンス・・・など、テンションが上がらざるをえない場づくり。

●最終日～ゲネプロ：時間軸、そして作品が見える

それぞれのシーンと一人一人の動きをつかんだうえで、お客さんの導線とパフォーマンスの配置を考えながら構成していく作業を東野さんは積み重ねてきていた。それを逐次理解しながら、参加者たちは各々のパフォーマンスをブラッシュアップし、また移動経路やタイミング、細かな動きを会得していく。公演前日は3回の通し稽古。1回目はまだまだ掴めないうえ、3回目はどうにかわかってきた、という状況。自分が負う責任を感じている様子と同時に、自分で創り出したパフォーマンスに自信と誇りが現れている。こんなにも個性的で、魅力的な人たちがよくぞ集まってくれたと感謝。

過程があつてこそその本番であることを改めて強く感じさせられたクリエイションの日々。それぞれの人生に何らかの爪痕を残したといっても過言ではない。だからきっと、観る人に何かを伝えられると信じ本番の時を迎えた。



公演

『ENDSCAPES』



当施設にとって初めての、全館を丸ごと使った回遊型公演。楽屋、調整室、事務室を除きほぼ全体がアクティヴエリアとなった。美術、音響効果も同様に施設全体に施され、いるだけで気持ちが「?」「!」となるような場となった。

13名の、小学3年生から67歳までの市民参加者とアンチボムパーが混ざり合い、それぞれの場でそれぞれのシーンを展開する。場の移動もパフォーマンスをしながらで、観客がひしめく中をある種異質な空気をまとって通り過ぎる。同時多発的にあちこちで起こる出来事を、観客は自分の意志で見つけ出し追い求める。約60分間の回遊後、パフォーマーと観客は自然とホールに集結、群舞をもって作品の大団円を迎えた。

この風変わりな演出・作りに、観客はもちろんパフォーマーたちもテンションを上げ、心からの叫びのような強さ、はじけるような思い、時に優しさが溢れ出る作品が生まれた。

この形の公演は、当施設にとって様々な意味でハードルが高かった。一度にあちこちで起きる出来事＝パフォーマンスを、どう構成していくのか。観客自身が歩いて観ることに、抵抗感を示す人がいるのではないかと。貸館でもある当施設を普段とは違った使い方をすることでクレームが内外から出るのではないかと。が、トラブルもなく無事に終えることができ何よりであった。

作品のクオリティーについては、前年にAプロを準備の一部とらえて取り組んできたことが功を奏し、参加してくれそうな市民の顔とテイストが多少見えていたので、自信をもって業務を推進できた。市民参加型事業は、いかに土地の人の顔をアーティストに見せられるかがホールの役割だと痛感した次第である。

●来場者アンケートより（感想）

- ・とってもおもしろい、すてきなダンス。ちょっとドキッとした。私も入ってみたいになった（小学生）。※同様意見複数
- ・劇場空間まるごと使うとは、面白い試み。可能性が広がる気がする。
- ・出演者と客の境界線が難しい。初めて見た公演で戸惑った。
- ・外の集団パフォーマンスが凄く見ごたえあった。最後の集団舞と舞踏が響いた。
- ・気配のするほうへ出来事（scape）を探していくのは面白い。肉体・音・美術の物質的強さに対して言葉の脆弱さを感じた。
- ・コンセプト（一貫したテーマ）を探ろうとするよりもダンスのエネルギーが強くしばし圧倒された。「オチ」が何なのかを考えずに観るほうがよいのかなと思いついた。
- ・アバンギャルド、世界観への入らせ方がよかった。
- ・ダイナミックな動きがある中で、ホールの心の広さにびっくり。
- ・人間は不思議なものやこわいものがやっぱり好きなんだなーと実感。
- ・自分もパフォーマンスに参加していいんだ、と感じられてうれしかった。
- ・出演者が丁寧に私の手を取って誘ってくれ、超ハッピー。観客が持っている心の垣根を取り外す力のある場所。

●この事業への応募動機

Cプロ、Aプロに続き3年目。現代ダンスが当館にとって非常に有益なジャンルと考え、今後も自立して取り組んでいくための地盤となるような事業にしたかった。過去2年に積み上げた経験、ことに市民との関係を活かし、当館ならではの作品を創作することを目指した。なおアーティストは昨年と同じ東野祥子さんであることから、昨年のアウトリーチ先を再度下見時に訪れ（ダン活枠外）、事業をより浸透させることを意識した。

●事業のねらいと企画のポイント

「施設全館を回遊する公演」という当館前代未聞の企画で、「殻」を打ち破りたかった。

「殻」の意味は、一つには施設の使用方法である。例えば9分割できるホール舞台面は、本来は演出のためでなく座席の設置方法に伴う機構であるが、それをあえて効果として活かした。またベンチやパイプ椅子を美術として使ったり、施設設立時にはおそらく意図をもって作られたはずの、普段は使われていない建屋外の階段状の芝生面を舞台とするなどした。

もうひとつは事業（企画）に対する市民の期待感、当施設へのイメージをよい意味で裏切りたい、という思いである。生活のなかに文化芸術を取り入れ豊かな日々を過ごす土地柄だが、自分が知らないジャンルに積極的に触れようとする機運醸成は常に求められる。現代ダンスは多摩地域全体を見てもまだまだ開拓しがいがあるジャンルであり、インパクトとしてはうってつけと考えた。

●企画実施にあたり苦労した点

- ・一般ワークショップを十分に広報しきれなかった。どうしてもクリエイション参加者を集めることに気持ちが向かってしまったり、ワークショップの意義をいざクリエイションと並べて広報すると上手に伝えきれなかった。下見時にクリエイションの「お試し」と捉えては？との意見をいただいていたのに、もっとそれに徹するべきだった。
- ・全館・全施設の使用、通常の各施設・設備の用途と異なる使い方をすることについて、施設職員の理解が得づらいたらうと想定した。日ごろ利用の仕方について制限を設けている立場であるにも関わらず（例えば壁への貼物を、場所により貼付道具を使い分ける等、多くの決めごとがある）、それを外すことで利用者への説明がつかなくなる、という懸念である。特殊な全館利用の形であることが理由にはなると考えていたところ、結果的にはそうした声はなかった。
- ・各々のパフォーマンスがいつでもどのように行われるか、安全上注意が必要なほどこか、観客をどう誘導すればよいのか直前まで見えず、当日パンフレットの作成や人員配置に不安が残った。細かすぎるかも、と躊躇する気持ちを振り切り何度も東野さんに確認することに申し訳ない気持ちがあったが、快く対応してくださったことがうれしかった。

●事業の成果と課題

- ・集客：11月にクリエイションが始まった段階では、販売チケット枚数が10枚にも満たない状況であった。その後出演者の協力もあり、最終的には105名の入場者となった。ありがたき成果を得たものの、事前広報に十分な注力ができていなかったのは事実である。また、市民参加型事業に見られる傾向として、出演者からのロコミタイミングが遅れがちなどところがある。内容を理解しきれず案内しづらいからと予想されるので、今後留意したい。
- ・施設の使い方：普段と全く違った空間づくりに来場者からも出演者からも好評価を得た。貴重な実績とするとともに、今後自主事業・貸館事業で同様の案件があった際に、できるかぎり積極的に応対し、よりよい提案ができるホールでありたい。

●今後の事業展開や展望

ダン活3つのプログラムをひととおり終え、さまざまな方々から「ダンス向きのホール」とのお言葉をいただいた。それは3年間という時を費やした、その積み重ねがあったからとらえている。

3つに分かれたプログラムの中で、市民参加による作品創作のBプロを最終目標と考え、前年のAプロは準備の一部とらえて取り組んできた。そのことが大きく功を奏し、経験や蓄積を活かすことができた。

前述のとおり、回遊型公演は当施設にとってハードルが高かったが、せつかくの「ダン活」で守りに入ってはもったいない、しかも最終年、最終目標のこの公演で殻を破らなくては・・・!との決死の思いで臨んだ。挑戦の機会を与えていただいたことに感謝し、今後は自分たちの力で現代ダンスのフィールドに踏み込んでいかねばと考えている。

●この地域のダン活の特徴

ひとつの世界を出現させる。アーティストも市民もホールの職員も参加して、「劇場を別な世界に塗り替える」そんな試みが行われたのが、くにたち市民芸術小ホールによるダン活 B プログラムだ。

国立市は、面積 8.15 km²で都内では 2 番目、全国では 4 番目に小さな市だ。東京都で初めて文教地区に指定され、大学や高等学校など教育施設も多い。くにたち市民芸術小ホールは、そうした教育機関が多く立ち並ぶ国立駅側と、谷保天満宮などがある昔ながらの国立（旧谷保村）側の谷保駅の間に位置する。ダン活としては 3 年目となり、その集大成として実施された。公演内容は、東野祥子さんの回遊型のダンス公演に着目し、施設全部を使った市民参加公演とした。参加する市民を「collective メンバー」とし、ともに作品を作り上げる仲間として公募した。今回のダン活には市民参加としてのコンセプトのほかに、ホール職員みんなであたらしいことに取り組むことや、これまでにはない施設の使い方を含めた「殻」をやぶるという狙いもあった。市民のみならず、関係者にとっても大きな挑戦の機会になるという、なんともアトラしい取り組みが特徴となった。

東野祥子さんによるダン活は 2 年目となる。A プログラムを経ての B プログラムということもあって、前年度のワークショップやアウトリーチの参加者も参加。新規参加者を含めた幅広い世代の市民ら 13 名が参加した。事務所や楽屋を除くほぼ全ての施設を美術空間として、各所でパフォーマンスが行われた。通常の舞台上でのダンス作品づくりとは異なるつくり方に、作品の中身を含めた安全管理の対応についても直前まで調整が行われた。はじめてのことばかりで不安なことも多々あったかと思うが、柔軟な対応に挑んでくれた施設スタッフや、経験豊富な ANTIBODIES collective のメンバーのサポートがあって、限られた時間のなかでも充実した作品として立ち上がった。本番は約 100 名の観客が回遊し、観覧した。当初、集客には苦戦もあったが、最終的には多くの方が来場し、施設内の回遊型という点でも適切な人数となった。今回のダン活では、市民のポテンシャルを引き出すほか、ホールとしてもこれまでにない多くの挑戦を行うダン活となったのではないかと思う。

●課題とこれからに向けて

公立文化施設で作品づくりを行うことは招聘公演と比べ何倍も大変な作業となる。その一方でホール職員のスキルやチームワークを向上させ、なにより舞台芸術に関する理解を深める機会にもなる。こうしたスキルや理解の向上は、主催する事業のみならず貸館事業の対応にも色濃く現れ、日常的な市民サービスの向上も期待される。ダン活 3 年間の取り組みを「次へ」活かすことができるかどうか肝であり、新しい挑戦のはじまりなのだと思う。

また、くにたち市民芸術小ホールは首都圏のホールだ。しかしながら、まだ都内にいる数多くのアーティストにとってはよく訪れるような場所とは言い難い。立地も悪くなく、施設としての自由度も高い。アプローチによっては、新たにダンサーやアーティストが集うことができるポテンシャルを感じる人も少なくないはずだ。こうした首都圏のホールならではの利点も活かしアーティストを招きながら、市民と繋げる取り組みにもぜひ挑戦していただければと思う。

Cプログラム

(公演プログラム)

スケジュール

福岡県北九州市／北九州芸術劇場

	下見	
	6/3 (月)	6/4 (火)
9:00		
10:00		打合せ
11:00		↓
12:00		昼食
13:00	集合	動画撮影
14:00	打合せ	↓
15:00	会場下見	打合せ
16:00	テクニカル 打合せ	↓
17:00	打合せ	↓
18:00	↓	
19:00	交流会	移動
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
9/27 (金)	9/28 (土)	9/29 (日)	9/30 (月)
	公演準備 (テクニカル)		
仕込み・調整	公募 WS	公演準備	フィードバック
↓	↓	ゲネプロ	↓
↓	↓	↓	↓
打合せ			
顔合わせ 作品づくり	作品づくり	最終チェック 開場	移動
↓	↓	公演	
↓	↓	アフタートーク	
↓	↓	バラシ	
↓	↓	↓	
↓	通し	↓	
↓		交流会	
↓	調整		
↓			

※ 26日：AM～舞台仕込、アーティストとの打合せ実施

公募型ワークショップ

幅広い世代に、コンテンポラリーダンスの存在を身近に感じてもらい、多様な価値観をもつアーティストと出会うことで、参加者自身の魅力を再発見してもらうことを目的として実施した。

北九州芸術劇場では、以前よりダンスワークショップを実施しているが、今回は、「ダンスを思考する」という新しい観点でアプローチすることに挑戦した。

小学生以上という制限のみで対象は絞り込まず募集。最終的に親子や姉妹や友だち同士、ダンサーやダンス未経験者など6～58才までの幅広い層の参加者22名が集まった。初めてワークショップに参加するという方も12名おり、「おどらない」という言葉に惹かれて応募したというご意見もあった。

「踊っている」「踊っていない」の境界線を探しながら自分の身体と向き合うことで、個の中にあるコンテンポラリーダンスの要素に気づき、他者と対話し、共有することを繰り返しながら進めていく内容で、北尾さんもお話されたように、みんなでワークショップを生み出しているような時間だった。

参加者からは、「おどらないワークショップだけど、楽しくておどってしまいました。また、わたるんとおどりたいです。」「身体に向き合い、身体の声聞くことに集中して・・・踊る、踊らないの境界線、おもしろい!」「多数ダンスのワークショップを受けていますが、今回はすべて初めて経験することばかりで、とても楽しかったです。明日の公演が楽しみです。」「ワークショップの最後の方は、自動的に体が動きだした瞬間があって、とても心地よい気分になりました。」「自分のからだが好きになりました。」などの感想をいただき、コンテンポラリーダンスの魅力と新しい可能性を感じるワークショップとなった。



公演

北尾亘ダンス公演『UMU - うむ -』



北尾さん初となる長編ソロ作品『UMU - うむ -』(世界初演)を上演した。

3つの“うむ”【産む、膿む、有無】をコンセプトに、北尾さんの躍動する身体と映像、照明、音楽が融合し、時に静かに、時に叫びのような激しさで、小劇場を圧倒的なエネルギーで包んだ60分だった。観客の創造性を刺激し、コンテンポラリーダンスの多様性を実感できる質の高いダンス作品を観客に届けることができた。

また、終演後、北尾さんと同世代でかつ、舞台芸術に関わり意欲的に活躍している当劇場と縁のある2名のゲストを迎えアフタートークを実施した。3人の和やかなトークを通じて、本作についてやダンス公演の楽しみ方などを語ってもらうことで、作品についての理解を深め、「北尾亘」というアーティスト自身の魅力も伝えることができた。

新作公演を上演するということで、個別研修時から劇場側の舞台監督も同席し、作品を共有しながら舞台作りを始め、本番期間中の小劇場入りしてから、当劇場のテクニカルスタッフと作品作りを行った。北尾さんとともに、短時間で上質の作品をつくりあげることができたのは、各セクションがこれまで培ってきた経験があったからこそだったのではないかと思う。

●来場者アンケートより(感想)

- ・小劇場で初めてダンス公演を観ました。心のままに体で表現するダンスをしてみたいと思いました。
- ・北尾さんの新作初演！北九州芸術劇場で見ることができて、よかったです。
- ・わたるん、かっこよかったよ。また来てね。
- ・頭・腕・足の概念が壊されました。自由自在に動く物体。美しかったです。圧倒されました。
- ・今まで観た中で一番おもしろいアフタートークでした。ダンスはもう言わずもがな!!この場にいられてよかったです。
- ・「ダンスって素晴らしいな」と素直に感動しました。
- ・人間ってこんな動き、表現ができるのー！って驚きと感動です。映像とのコラボもかっこ良かったです。
- ・「産む・膿む・有無」を私なりに感じられました。音楽・映像・照明もすごく楽しい。また観てみたいです。
- ・時間を忘れて、ダンスに魅入ってしまいました。映像とのコラボで世界が広がり、北尾さんの宇宙が見えました。アフタートークも興味深く、とてもおもしろかったです。今観た公演のことをご本人が生の声で語ってくれて、とても贅沢な気持ちになりました。

●この事業への応募動機

北九州芸術劇場では、これまでも年間を通じて数多くのダンス公演・ワークショップ・アウトリーチ事業の実施などダンスに触れる機会の創出に努めてきた。その中でコンテンポラリーダンスを楽しみ、親しみを感じてくれる方も年々増え、繋がりを深めてきた。さらに、北九州でのダンス文化が発展するために、より多くの方々と出会い、未来に向けた繋がりをつくりたいと思う。この事業を通して、アーティストと向き合い、時代のニーズに合わせた新しい取り組みに挑戦したいと考え応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

市民へ新しい価値観との出会いを提供し、ダンス文化の裾野を拡げ、劇場と市民との新たな繋がりをつくる。また、観客の心が動くような上質なダンス公演を上演することで、観客の育成も図ることをねらいとして企画した。コンテンポラリーダンスについて、「観る」「体験する」「語る」とプログラム全体を通して様々な角度から触れ、今までと違うアプローチでコンテンポラリーダンスに親しんでもらえるような工夫を行った。また、コンテンポラリーダンスを知らない若い層に向けても SNS や動画（プロモーション動画・インタビュー動画を制作）を中心に発信を積極的に行い、ダンスへの興味をもつきっかけを増やした。

●企画実施にあたり苦労した点

公演の集客については、チケット販売当初より大きな動きが見られず苦戦した。新作公演のため本番直前でプログラムの全貌が分からず、広報展開が難しかったが、通常の宣伝に加え、同時期に当劇場で行った主催事業などへ出向き直接案内を行ったり、県内でダンス部がある中・高等学校へ向けて優待も行ったが、公演当日に大会・稽古が重なっている学校も多く、あまり集客には結びつかなかった。

また、Cプログラムとしての枠を超えたボリュームとなったため、全体の進行やスタッフの手配、スケジュール調整などに苦労した。

●事業の成果と課題

今回の事業を通して、幅広い世代の人にダンスの魅力や楽しさを伝えるという点について、一定の成果を得ることができたと思う。初めてダンスに触れる方が飛び込みやすいように、ペア券の販売や SNS の特性を活かした動画の配信、分かりやすい広報など、新しい取り組みにも挑戦し、手応えを感じることができた。今後の事業にも活かしていきたいと思う。

公演の集客については、作品の素晴らしさを考えると、もっと多くの方に届けたかったと思う。新しいダンスファンを増やすための工夫の糸口が見えてきたので、さらに集客に繋げていくための道筋を考える必要があると感じた。

●今後の事業展開や展望

地域資源や地域の特性を活かしながら、北九州市ならではのダンス事業を継続的にを行い、ダンス事業の更なる盛り上がりや創出したいと思う。将来に向けて、地域の中でコンテンポラリーダンスが更に活性化するように、アーティストが持つ柔軟な発想や創造性を共有できる力を養えるような事業を展開していきたい。

●この地域のダン活の特徴

アーティスト：北尾亘（前々年度：田畑真希 [B プロ] / 次年度：藤田善宏 [A プロ]）

公演観客数：90 名

公募ワークショップ：22 名（7 才～ 50 代）

北九州芸術劇場は文化・芸術・情報発信・商業などの機能を持つ複合スペース「リバーウォーク北九州」の 6F に入る大・中・小の劇場空間を持つ劇場としては羨ましい環境を持ち、国内の主要演劇作品だけでなく国外作品の上演も多い、日本でも重要な位置を占める劇場である。若手の担当者が大変多く、企画・運営チーム、技術チーム、同じ財団の美術館チームが入り、横の連携が常に取れる配置となった広い事務所は活気が溢れている。

今回 C プログラムで上演した作品『UMU - うむ -』は、北尾氏が 2019 年 5 月に日本女子体育大学ダンス・プロデュース部の 24 名に振り付けた作品をソロ作品へトリ・クリエーションしたもの。構成、使用楽曲など作品の主となるものは変わらないとはいえ、出演者が一人になる為、新たな要素として映像を加えることになった。

公募ワークショップは公演前日に開催することになった。北九州芸術劇場は普段からワークショップ参加率が高く、常連も多いという。そこで劇場としてもアーティストとしても初めての試みを行うことになった。その名も「踊らないダンスワークショップ」。土曜日の午前中ということで親子参加も多く、幅広い年齢層の参加者に対して、「踊る」「踊らない」の定義の広さを実感し、より身体に対して集中することができる内容だった。北尾氏には今後もぜひ各地でこのテーマをさらに掘り下げ、開催を続けてほしいと思う。

リ・クリエーション作品の上演、新しいテーマのワークショップといったアーティストにとって大きな挑戦ができ実現できたのは、今回のダン活で関わる以前に北尾氏が劇場と別事業で仕事をしたというベースがあったこと、そして直接の担当者をはじめ、すべての関係者がこの作品の上演に向けて積極的に向き合ってくれたことにつける。普段から様々な作品の上演を行う劇場だからという理由以上の、アーティストへのリスペクトが強かったからこそ、と感じたダン活だった。

●課題とこれからに向けて

リ・クリエーションとはいえ、ほぼ新作と言ってよい内容となってしまった今回は、アーティスト作品のレポーター作品を上演する、という定義がゆらぎ、劇場担当者、技術者の関わり方が非常に難しい側面が多くなってしまった。

特に照明・音響・舞台の技術部分は、事前のやりとり、劇場入りしてからの少ない時間の中での仕込みに入念につきあっていたことが、素晴らしい作品を生み出すことに繋がった。しかし、C プログラムというダン活の枠で考えると、やはり程度を越えてしまったといわざるを得ない。

今回の担当者、山下氏はこのダン活を通して初めて行う劇場業務が多く、全体進行、技術チームとのやりとり等、かなり苦労されつつも、一つ一つを丁寧にこなしていた。特に自分が感じた素直な言葉をきちんと用意して、来場者やワークショップ参加者へ伝えていたことは、北九州芸術劇場と新たなダンスファンを生み出すことに繋がったと思う。

実施団体	公益財団法人西宮市文化振興財団
実施ホール	西宮市フレンテホール
実施期間	令和元年 10月31日(木)～11月3日(日)
アーティスト等	アーティスト：東野祥子 共演者：吉川千恵、カジワラトシオ テクニカルスタッフ等：倉持裕二
コーディネーター	小岩秀太郎

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 10月31日(木) 19:00～21:00、3歳以上(未就学児は保護者同伴)、500円(小学生以下無料)、12名、西宮市フレンテホール

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『DUGONG』
- 11月3日(日) 15:00開演(14:30開場)
- 東野祥子、ケンジルピエエン、吉川千恵、松木萌、菊池航、山本泰輔、ほか
- 一般2,000円、65歳以上および障害のある方1,800円、アミティ友の会会員1,600円、高校生以下1,500円
- 西宮市フレンテホール
- 66名



境界線を乗り越えて。
その場のその時を共有する。
未だ見ぬ世界に踏み込んでみる。

ANTIBODIES COLLECTIVE
DUGONG ジュゴン

座席に縛られない、自由回遊型パフォーマンス。
身体・言葉・美術・映像が交響する総合舞台芸術作品
DUGONGは決定された舞台から再演!

2019年11月3日(日・祝)
開演 15:00 開場 14:30
会場 西宮市フレンテホール(JR西宮駅南すぐフレンテ西宮5F)

チケット 一般2,000円 65歳以上・障がいのある方1,800円 アミティ友の会会員1,600円 高校生以下1,500円(税込)
※当日券900円増 中学生以上入場。 ※通常券は総合舞台芸術祭期間中のみ有効。

チケット取次
●窓口 西宮市民会館 / 0798-33-3111 フレンテホール / 0798-32-8660 フラホール / 0798-64-9485
●プレイガイド アイプラス eplus.jp (0667/777/7777) Confetti (0667/777/7777) 購入できるお申し込みはこちら。お申し込みは必ずお電話にてお願いいたします。

チケット販売：9月6日(金) 10:00～ @amity_time 公益財団法人 西宮市文化振興財団



演出/監督/出演 東野祥子
演出/音楽 カジワラトシオ
美術 倉持裕二
舞踏 haschim
監修 ケンジルピエエン
吉川千恵
松木萌
菊池航
山本泰輔
小川舞子
今村蓮花
三枝真希
橋本
新井海繪
菅澤実
加藤真央
川上善
高橋優子
原島
スタッフ ymhc
責任編集 井上蓮花
デザイン 関根日生子

ANTIBODIES COLLECTIVEのダンスワークショップと
一緒に「仕上げ」を体験できます!
あなたの身体でインスピレーションをください!

参加費 カー入場300円
※当日券はワークショップで利用できません。
※当日券は当日のみ参加が可能です。
※ 10歳未満の小学生は保護者同伴での参加が必須です。

東野祥子 ダンスワークショップ
ダンサー東野祥子のナビゲートで、覚悟にとらわれない自由な身体を
取り戻そう! 自分の持つ本来の身体感覚で、思いがけず美しい表現。
心から感じる身体感覚を大切にしよう!
ダンス経験、年齢、性別、関係なし。

日 時: 2019年10月31日(木) 19:00-21:00
場 所: 西宮市文化振興財団(西宮市市民会館5F) 西宮市市民会館5F
定 員: 20名(先着順) 定員超過の場合は抽選
参加費: 500円(6歳以下は無料)

申込方法
●申し込み 10/31東舞ワークショップ参加券を申し込み、
本文に氏名(ふりがな) 居住地 電話番号を明記の上、
写真のフリカまたはお申し込みください。お申し込みが中学生以下の
場合は、必ず保護者同意書(写真添付)を添付してご記入ください。
●申し込み 下記申込先へお申し込み。上記のフリカに添付して、
お申し込みください。お申し込みは10/27(日)まで。

ワークショップ×DUGONG公演×アフターパーティ、
全てが楽しめるセットチケット。
メニュー 無料前座全席20席、一般2,500円 高校生以下1,500円
演出・監修 上記の公演はワークショップの12名参加者限定。
●申し込み 会場
メニュー 前座全席×DUGONGセットチケット全席12名参加者限定。お申し込みください。
●申し込み 会場
10月31日 DUGONGセットチケット購入希望10名を先着順にてご申し込みください。

主催 (公財)西宮市文化振興財団
制作 西舞ワークショップ(制作委員:文化振興・文化振興財団)
共 演 (一財)東舞ワークショップ
協賛 西舞ワークショップ(制作委員:文化振興・文化振興財団)
お問い合わせ (公財)西宮市文化振興財団 0798-33-3111(本館)0798-64-9485(7777)

フレンテホール及び
フラホール
購入お申込先
メール bunkasin@msh.or.jp
電話 0798-33-3146(9時～17時)

スケジュール

兵庫県西宮市／西宮市フレンテホール

	下見	
	6/6 (木)	6/7 (金)
9:00		
10:00		集合・移動
11:00		FM収録
12:00		移動・昼食
13:00		↓
14:00		打合せ
15:00	集合 打合せ	高校WS (ダン活枠外) 打合せ
16:00	↓	↓
17:00	フレンテホール 打合せ	解散
18:00	↓	
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
10/31 (木)	11/1 (金)	11/2 (土)	11/3 (日)
	舞台仕込み	映像仕込み	場当たり
	↓	↓	↓
			ゲネプロ
	休憩	休憩	↓
	照明仕込み	場当たり テクリハ	各部署修正
	↓	↓	開場
			公演
集合 打合せ	↓		
休憩 WS準備	休憩	↓	片付け
準備	音響仕込み	ランスルー 修正	↓
公募WS	↓	↓	↓
↓	↓	↓	解散
搬入・撤収	撤収	撤収	

公募型ワークショップ

一昨年のダン活Bプログラムや昨年実施のクリエイションワークショップにて東野作品に参加頂いた方々のリピートを期して先着30名の枠で募集。参加費は500円に設定し、小学生以下のお子さんは無料。過去2回の東野さんとのワークショップには小さいお子様も多数参加していた事から、未就学児は保護者の方と一緒に参加してもらう条件をつけたが、結果としてリピート参加は未就学児1名にとどまった。

ワークショップ自体は一般参加者12名（うち子ども6名）に加え、本公演「DUGONG」に出演のダンサー8名を加えて実施した。

東野さんのダンスを使った自己紹介から始め、ウォーミングアップやストレッチ、2組に分かれての振付、ペアを組んでお互いのポーズを動かすワーク、言葉のイメージを動きにしてみる・・・etc。何度となく拝見している内容ではあるが受ける人が変わる度に新しい印象を受けるし、緊張気味の参加者の皆さんの自然な動きを、あっという間に引き出す様にはやはり感銘を受ける。

参加者の皆さんはダンスの初めての方が殆どの様子だったが、「DUGONG」出演ダンサーと共に創るワークは、本公演を御覧になられれば演者としての彼らとのギャップを肌で感じて貰えたかもしれず、相乗的に興味深い経験として提供出来たかもしれない。

また、初参加のある小学生男子が大変印象に残った。親御さんに訊くと、最近になってヒップホップを始めたので、今はいろいろ経験させたいとのことだった。

コンテンポラリーダンスはある程度の年齢からでないと当人が自覚的に取り組めないジャンルなのかもしれないが、他者の目を意識せざるを得ない舞台芸術の環境の中で産まれる自主性や創造性も、幼年期から育まれるべき感性なのではないだろうかと感じた次第である。



公演

Antibodies Collective 公演『DUGONG』



ホールの舞台のみならずホワイエや楽屋通路等、フロア全域を舞台空間とし、ダンスと音楽、美術と映像が交錯する総合舞台芸術をお客様が自由に歩きながら鑑賞する「自由回遊型パフォーマンス」を上演。出演は東野さん率いる ANTIBODIES COLLECTIVE のメンバー、そして昨年にダン活とは別枠で実施したクリエイションワークショップの参加者より数名が、西宮公演限定のキャストとして出演。

広報としては市内のカフェなどに置かれる事を念頭に発行している西宮市文化振興財団のフリーペーパーに特集記事を組み、東野さん本人のインタビューなどを掲載した。また、下見の日をもちを利用して地元のFM局の番組に東野さんと担当者2名で出演し、本公演およびワークショップについてのPRを行った。さらにダン活枠外のプレ企画として、地元の高校のダンス部へのアウトリーチワークショップを実施。ダン活実施当初より標榜しているユース世代へのアプローチを試みた。

公演作品は、ホワイエに集合した観客の皆様をホールの真ん中に設置した巨大なバルーンの中に入れ込むところから始まる。ホール各所にプロジェクターで投影されたタイマーがゼロになるまで、観客の皆様は自由に歩き回りながら同時多発的に起こるパフォーマンスを楽しむことが出来る。舞台芸術の作品でありながらテーマパークのアトラクションの様でもあり、ご来場の大人のお客様は言わずもがな、小さなお子様の好奇心も多分に刺激していた模様である。

●来場者アンケートより（感想）

- ・回遊型というのが新鮮で良かった。
- ・演者との距離が近く、舞台装置も面白かった。
- ・演者と観る人の区別が無くなるのが楽しかったです。
- ・おもしろいと思いました。よくわからなかったけど…。
- ・もう一回観たい。理解できるまで観たい。

●この事業への応募動機

Bプログラム、Aプログラムと2年間ダン活を継続し、昨年は別枠で予算を組み、東野さんによるクリエイションワークショップも行った。それによって新たな人、新たな場所との出会いという面で、当財団としては一定の成果を得る事ができた。ここで繋がる事のできた人々との関係を更に深め、発展させるべく今回のCプログラムの応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

一昨年のダン活Bプログラム、昨年のクリエイションワークショップと、過去2回の東野さんの作品に参加頂いた皆さんの同窓会の場となる様なイベントを目指し、作品を深く楽しんで頂くためのアフタートークや、ダンサーとの打ち上げに参加できるアフターパーティーの実施を試みた。また、西宮市が誇る観光キャラクター「みやたん」にも出演して頂き、こうしたアートにあまり馴染みが無いであろう方々への周知と導入を期した。

●企画実施にあたり苦労した点

ホール全体を表現空間として行う「自由回遊型パフォーマンス」の作品ということで、下見の舞台打ち合わせで東野さんからイメージを現地スタッフへ伝えて貰い、その後は図面を拝見しながら、仕込み直前にもう一度現地スタッフとの打ち合わせをするものの、主催者側の私やフレンテホールの担当者も含めて、何がどこでどのように行われるのかのイメージが殆ど出来なかったのが、舞台美術の設置後に空間の全体像が見えた時「ああ、なるほどこれか」と思わず唸った。ホワイエはまだしも、よもや給湯室まで利用して舞台作品が作られようとは、このカンパニーの面々を除いて誰も思いつくまい。私たちの予想もつかない事象に対応していくのは大きなエネルギーが必要だったが、アーティストである彼らでしか成し得ないものをご来場のお客様にベストな形でご提供する事、これは公共ホールの役割としては非常に価値のある事なのではないだろうかと個人的には感じさせられた。

●事業の成果と課題

一昨年のBプログラムから継続した成果として捉えると、特定の参加者に於いては、大きな出会いの場を提供出来た点が上がる。2年前のワークショップ初日ではやや恥ずかしそうにされていた70代の男性は本作品ではANTIBODIES COLLECTIVEのダンサーとなり、元々習われていた社交ダンスに加え、新たにタップダンスを習得して出演されていた。

また、昨年実施のクリエイションワークショップに参加した20代女性は、それまで全くダンス経験がなかったそうだが、これがきっかけで創作の現場に出入りする様になり、この公演が始まる頃にはいつの間にか東野さんのカンパニーのメンバーとなってしまった。

そうした個々の人生に影響を及ぼす様な出会いを媒介できた一方で、主たる目的として掲げてきたリピーターの獲得という点では、数字としてほとんど成果が出なかった。この公演の集客においても過去の参加者にどれだけご来場頂けるかという点を重視していたが、反応に乏しかった。夏場にワークショップを実施した高校ダンス部も作品に興味をもって頂くには至らなかった様で、部員の方々をモニターオーディエンスとして起用することを目論んだ関連企画についても、最終的に見直しせざるを得なかった。伝える事の難しさを痛感した。

●今後の事業展開や展望

クリエイション、特に子供をターゲットに含めたワークショップの実施ではある程度の参加者が見込めるが、リピーターを創るとなると話は難しいという事がよくわかった。もしかしたら事業内容云々ではなく私共の財団のブランド力の問題も存在するのかもしれない。それでも前述したようにこちらの狙いが強く届いた人々も少ないながらも存在するので、そうした方々に対してのフォローは続けていきたいと思う。

●この地域のダン活の特徴

兵庫県西宮市は、大阪と神戸の間に位置する都市で、甲子園球場や10以上の大学、短大を擁し、また阪急電鉄沿線には財界人、文化人、プロ野球選手などの邸宅が建ち並ぶ近畿有数の高級住宅街である。そのため文化的水準や市のブランド力も高い。

企画者の西宮市文化振興財団は、西宮市民会館（アミティホール）を指定管理しており、文化芸術活動の企画実施を通して「文教住宅都市・西宮」の発展を目指している。

財団の担当である田北・田口両氏を中心に、今回のCプログラムのアーティストである東野祥子氏によるBプログラム、そしてAプログラム（アーティスト：セレノグラフィカ）と2年間のダン活経験後、ホール独自でクリエーションワークショップも前年度に実施してきた。同じ近畿圏である京都を拠点とする東野氏と持続的な関係性をつくることで、ダンスを通じた新たな市民や場所との出会いの創出を目的としたものだろう。実際、今回のCプログラムを「同窓会」と位置づけ、過去3年間で培った人脈と関係性、ダンス作品への深い理解を根付かせるための試みを実施、アフタートークの開催、ダンサーとの打ち上げに参加できるアフターパーティーの実施などである。

実施場所は財団が管理するアミティホールではなく、西宮駅直近のショッピングセンターの最上階にある「フレンテホール」である。交通の利便性に長けたホールであり、また独特な円型のつくりは、東野氏の創作意欲をかきたてたようで、アクティグエリア・鑑賞エリアはホールだけでなく、ロビーや楽屋、パントリーなどフロア全てを舞台空間とし、出演者・鑑賞者が自由に動き回る「回遊型」に挑戦した。非常に高度なテクニカルが必要とされ、美術、音楽、映像、照明、ダンサー、そして鑑賞者が一体となった、総合的で壮大な作品となった。

●課題とこれからに向けて

西宮市文化振興財団は数年にわたり、東野氏、東野作品と向き合い、ダンスに興味を持つリピーターの獲得のため一貫して段階的にダン活を活用した。結果として、「観客」としてのリピーターや、当初目論見の「若者」を観客とすることはほとんど成果を上げることができなかったように思う。それはひとえに広報不足と、「コンテンポラリーダンス」なるものが都市型市民にとって芸術の域を出ない特定の愛好者のものであり、子どもや障害者の健全な心身育成、社会包摂といった一般社会における効用まで伝えきれなかった感はある。とはいえ、継続性から生まれた大きな成果もある。それは特定の東野ファンが付き、実際に過去のワークショップ参加者が本公演のキャストとして出演、そのうち一人はカンパニーメンバーになるなど人生をも変える出会いを提供している。

特殊事例であるが、今回の会場のフレンテホールは財団の持ち物ではないため、ホール側との意思の疎通、意識・目的の共有がうまくいっていなかったように思える場面が多かった。時間や場所の制約、進め方など齟齬が出ていたが、最低限の事業目的の共有はもちろんのこと、貸し出し側の担当者もダンスの意義や楽しさを知る必要性があり、場合によってはワークショップ参加などを促すことも検討したい。

担当の田北氏・田口氏のダンス、そして東野氏への想いは相当強いものであったことは、3年間の継続的な関わりからも見て取れる。東野氏の作品のみならず、その人柄も把握しながら、互いに密な関係性を持って話し合いを重ねてきているし、アウトリーチ先の選定やチラシデザインなども共有できていたようだ。しかし地域創造、コーディネーターへの共有が漏れることが多々あった。継続はマンネリ化することもあり、第三者的視点を忘れないようにし、また関係のできた人や団体とのネットワークは遠慮せず、また大切に活用いただければと思う。

最後にこれまた偶然に偶然が重なったのだが、担当の田北氏の3年間の集大成であったはずの本番当日に奥様出産の兆候が出、無事翌日にお子様がお生まれしたこと、まことにおめでとうございました。

実施団体	川根本町
実施ホール	川根本町文化会館
実施期間	令和元年 12月5日(木)～12月8日(日)
アーティスト等	アーティスト：田村一行 共演者：小田直哉、藤本 梓 テクニカルスタッフ等：阿蘇尊
コーディネーター	中西麻友

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 12月7日(土) 16:00～18:00、どなたでも、無料、20名、ホール舞台上

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

■『彼方を語る人』

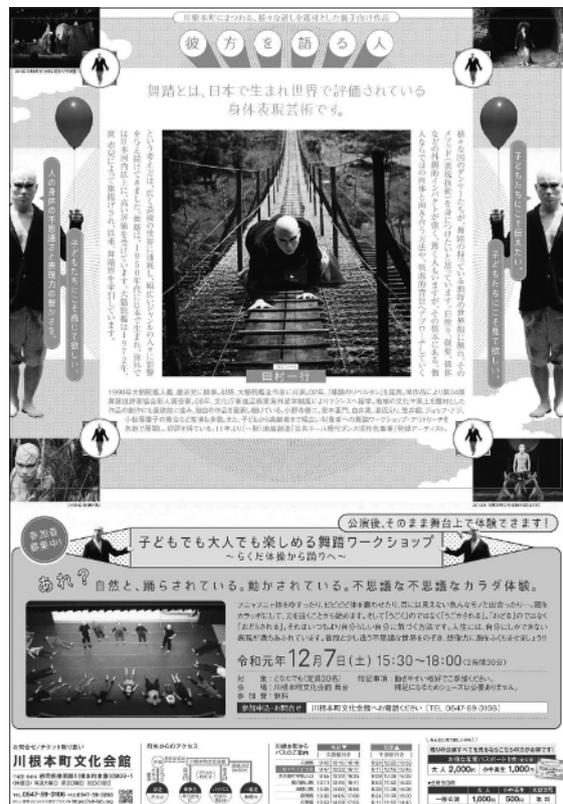
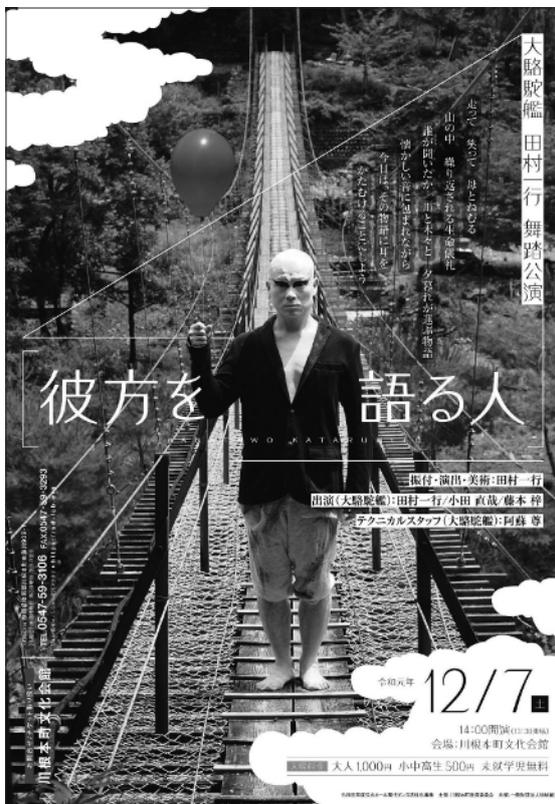
■ 12月7日(土) 14:00 開演(13:30 開場)

■ 田村一行、小田直哉、藤本梓

■ 大人1,000円、小中高生500円、未就学児無料

■ 川根本町文化会館 ホール

■ 52名



スケジュール

静岡県榛原郡川根本町／川根本町文化会館

	下見	
	7/11 (木)	7/12 (金)
9:00		準備・メイク
10:00		宣材撮影① つり橋
11:00		宣材撮影② トンネル
12:00		町内視察 昼食
13:00	昼食・顔合せ	トロッコ列車 ミーティング
14:00	ホール下見 打合せ	↓
15:00	↓	SL 列車帰途
16:00	町内視察	
17:00	↓	
18:00	スタッフ交流会	
19:00	赤石太鼓 稽古見学	
20:00	町民交流会	
21:00		
22:00		

実施期間			
12/5 (木)	12/6 (金)	12/7 (土)	12/8 (日)
搬入・舞台準備	準備・アップ	準備・アップ	
↓	明かり作り	通し稽古	移動
↓	場当たり	直し	
リノリウム敷き	↓	昼食 最終チェック	
昼食	昼食	開場準備 開場	
顔合せ 舞台仕込み	場当たり	公演	
↓	↓	アフタートーク 送り出し	
場位置決め	テクリハ	公募 WS	
明かりと 音きっかけ	↓	↓	
↓	ソロ稽古	撤収	
夕食	夕食	フィードバック	
明かり作り	ゲネプロ	交流会	
↓	ダメ出し・直し		
退館	退館		

公募型ワークショップ

『子どもでも大人でも楽しめる舞踏ワークショップ ～らくだ体操から踊りへ～』

公演のテーマが「親子で楽しめる舞台作品」であったため、ワークショップ（以下WS）タイトルは『子どもでも大人でも楽しめる舞踏ワークショップ ～らくだ体操から踊りへ～』とした。本館は交通の便が悪い環境や地域性から、平日夜間の開催では参加者が集まりにくい。このため、下見時の協議で日程など総合的に鑑み、公募型WSは公演終了後に実施することとした。本館としては初めての試みである。考えられるメリットは、参加者にとっては一度の来館で公演とWSができること、ホールにとっては公演を見終わった客の飛び入り参加が期待できることなどあるが、公演+WSと長時間にわたることによるアーティストへの負担と参加者の疲労や、事前WSを開くことによるロコミなどの集客は期待できなくなるデメリットも考えられた。一方で、本館では旧ダン活事業で過去3か年、田村一行による舞踏WSを実施しており、舞踏がある程度浸透しているのではないかという思いもあった。結果は、定員30名に対し、事前申込11名（当日キャンセル1名）、当日参加10名で参加者は計20名。居住地別は町内6名：町外14名で、親子参加は2組あった。

WS前半は、筋肉は引っ張るのではなく引っ張られる感覚を意識することなど、舞踏を学ぶ上で重要なポイントの説明をし、水風船になって脱力の基礎を学ぶなど舞踏独特の入念なストレッチから始まった。小休止を挟み、後半はいよいよ舞踏の振付へと入り、舞踏のいくつかの様式（獣、キリスト、巨人、花火など）を参加者に伝授。一行さんは「テクニックにこだわらず、どれだけ感じて想像してやってみるかが大事だ」と説き、参加者がチャレンジしやすい雰囲気づくりを心がけていた。最後にいくつかの型を繋げたダンスを体験しWSを結んだ。

参加者からは、「公演の感動をもったまま舞踏を演者から直接学ぶことにより深い感動体験ができた」という声が聞かれた。終始穏やかなムードながら真剣に取り組むほどよい緊張感を創り出す、舞踏WSは参加者にとって代え難い体験となった。



公演

大駱駝艦 田村一行 舞踏公演『彼方を語る人』



本館では4度目の田村一行舞踏公演だが、初めてのレパトリー作品となった。(過去3回はいずれも地元和太鼓グループとコラボ)。アーティストとホール双方の希望もあって、レパトリー作品のダンスを軸にししながら、川根本町ならではのオリジナル要素を盛り込んだ舞台構成となった。

コンセプトは「親子で楽しめる舞台作品」。本町に伝わる複数の民話(天狗の足跡、あくたればばあ、お仙ぎつね、かさじぞう、恋の代 など)をもとにした物語仕立てとなっている。何よりも、過去の田村一行公演を知る者を驚かせたのはセリフの多さで、ある時は演者が物語の登場人物となり会話をし、また違う場面では、演者は民話の語り部として物語を朗読するなど、子どもや初めての観客にも受け入れやすいものになった。

かくして舞台は、鍛え抜かれた身体芸術、独特の世界観と時空を超えた演出、そして舞踏と民話を融合した見事な構成で、素晴らしい芸術作品となった。観る者のそれぞれの記憶や感動を呼び起こし、早くも再演を願う声の方々に上がっている。間違いなく、この作品は川根本町の財産となった。

●来場者アンケートより(感想)

- ・あっけにとられて(あぜんとして)拍手も出来なかった。肉体の動きとしての舞踏が素晴らしかった。人間の頭のフォルムの表現が素晴らしかった!! 舞台装置、照明が度肝を抜かれすごかった。半ズボンの中学生みたいな人物は何者なんだ? 是非また見せてください!
- ・川根らしいテーマ、舞踏、音楽、台詞も新しかった。身体能力と表現力に感激しました。
- ・魂の声、叫びのような人間がもっている目には見えないものを見せてもらえたような感じです。川根本町の民話をベースにしているという事なのでどこか懐かしさも感じる事が出来ました。
- ・おもしろかった。いろんな表現、展開で目が離せなかったです。緊張感とゆるみ感が伝わって来て、一緒に体が動かされてしまいました。すごい集中力! 再演お願いします!
- ・とにかく不思議な世界に引き込まれた感じで終わった後は少し涙が出てきました。こんなに心を打たれたのは初めてです。ありがとうございました。

●この事業への応募動機

本館は2012年度に旧ダン活事業を活用したのを皮切りに、ダンス、音楽、演劇と8年間でワークショップ参加者は述べ1000人以上にのぼる。しかし、本町に“根付いた”とはまだまだ言えず、継続的な事業展開を図り、現代ダンスが地域文化となっていくことを目指したいと考えている。また、小さな町の直営施設である本館は、職員が2名しかおらず、しかもスキル不足の行政職員で、数年ごとに異動で変わる状況である。A・B・Cの3年間事業を通じ、地域創造の助けを借り、文化芸術事業と地域の在り方・事業の進め方を学ぶとともに、アーティストや他館との連携を深め、今後も事業を継続できる素地を作りたかった。

●事業のねらいと企画のポイント

- ①オリジナル作品の創作と発信。中山間地域にあって上質なオリジナル作品を鑑賞できることは町民にとっては本町に住むことへの誇りにつながる。
- ②地域資源の魅力について、地元の美しい風景映像とダンスを絡めた公演プログラムを通じて本町本来の魅力の発見や再認識を促し、一過性に留まらない話題の輪を広げる。
- ③豊かな人材（町民）の育成。作品を鑑賞することやダンス公演に参加し、ワークショップを受ける町民はより強くアーティストの感性に触れ、豊かな人材が育成される。
- ④これまでに舞台芸術に触れてきた町内経験者を新たな観劇層に加えていけるよう、継続的な事業展開を図っていく。

●企画実施にあたり苦労した点

Cプログラムはアーティストのレパトリー作品であることから、A・Bに比べ広報に注力でき、これまでに加えた新たな広報（集客）に取り組もうと模索した。その一環として、公演前から会館ロビーで「田村一行舞踏パネル企画展」を開催した。舞踏についての説明や、本町でのこれまでの田村一行公演の足跡、今回公演の企画内容と構成のもとになった民話の本などを展示。下見時に撮影した宣材写真を実物大まで引き延ばすなどインスタ映えも意識した。貸館などで訪れた来館者が立ち止まって見るなど効果はあったように思われるが、展示スペースの先約があったため公演前1週間しか展示できなかった。もちろん当日の観客（大駱駝艦のファン）には好評であった。

田村一行さんの本町での公演は4回目であり、公募型ワークショップ参加者について勝手に楽観視していたが、事前申込が思いのほか伸びなかった。個別勧誘と公演終了後の飛び入り参加で最終的に20名になったが、これまで事業を重ねてきた中で培ってきたファン層＝アーティストの力に助けられた。広報計画は早め早めに考え実行しなければならないと痛感した。

●事業の成果と課題

公演終了直後から再演を望む声が多数上がった。この作品はまぎれもなく川根本町の財産となった。振り返れば、事業を通じてアーティストに助けられればなしであった。レパトリー作品に何か本町ならではのアレンジを加えたいとお話をいただいても会館（行政側）にこれといった明確なビジョンがない。結局、一行さんから「町にまつわる民話がありますか？」と逆に提案していただいた。下見時にチラシ用写真撮影をするのはいかがかと提案をいただいたのもアーティスト側からだった。町内で撮影した写真を使ったチラシは「どこの吊橋か？」という問い合わせが複数寄せられるなど関心を引いた。

最も大きな課題は集客である。今回もお客様から「こんなに素晴らしい公演なのに観客が少なくてもったいない」、「会館はもっと広報をしなければダメ」などの意見をいただいた。一行さんとの協働制作は4回目。これまでの町民との交流で盤石な部分は確かにある一方で、過去の公演に来場し、感動体験をしているはずの層の再来館が思いのほか伸びないことは広報面で反省しなければならない。過去の事業を通じてつながった各所のコミュニティをもっと生かしながら、今後も引き続き会館に関心が向くような様々な工夫を施していく必要がある。

●今後の事業展開や展望

本館は2011年度からコンテンポラリーダンスによる地域活性化の取組みを行っている。旧ダン活事業＋ダン活支援事業では田村一行さんと3年間、新ダン活事業ではA（東野祥子さん）→B（中村蓉さん）→C（田村一行さん）の順に3年間実施した。また、ダン活とは別事業で、セレノグラフィカさんを招き、町内全小学4年生参加のダンスワークショップと市民参加型ダンス公演を4年間継続して実施した。2012年から今回のダン活まで、地域交流プログラム＋公募ワークショップ＋市民参加型公演に参加した人数は延べ660人を超える。町の人口は6,649人（2020年1月）だから1割に届くほどだ。事業効果は特に小学生で大きく見られ、教員から「子どもが変わった」など高い評価を得ている。その他の参加者も一様に感銘を受け、公演来場者にも感動を与えている。しかしながら、公募ワークショップは知人をお願いするなど参加者は同じような顔ぶれになりがちであり、観客動員は近年下降している。学校での取組みは、教育指針が変わるなど学校側も忙しくなり現在休止している。ダンスを芸術体験の核の一つにしていけるように、事業を継続し、何らかの形で本事業の成果を生かさなければならない。そして、町民主導のものにしていきたい。

これまでの助成を受け、本館で事業継続できる素地はできたと考えている。「継続は力なり」。事業継続しながら、これまでの事業検証をし、今一度、ホールとして、町としての展望、事業展開の方法を考えたい。

●この地域のダン活の特徴

川根本町は、過去にダン活を実施したことがある他、自主事業でも幅広い舞台芸術の企画を展開している。アーティストの田村さんも複数回川根を訪れており、町内の学校アウトリーチや、地域の「赤石太鼓保存会」の皆さんを助演に迎えた公演を実施するなど、ホールとアーティスト、地域との関係性が既にある程度築かれているうえでのCプロ実施となった。

演目は、ホール関係者からの「過去の公演を見た観客を裏切り、アーティスト自身が今やりたいことに挑戦して欲しい」という想いを受けて検討した。田村さんは以前『裸の王様』をモチーフにした作品をつくっていたこともあり、川根本町にまつわる昔話などをテーマに、子どもも大人も楽しめる作品を上演することとなった。下見では、資料館を訪れ、宣材撮影のために町内を巡りながら、作品をつくるための情報収集を行い、これまでとは異なる広報のイメージも練っていった。

公募ワークショップは、新たな試みとして終演後の舞台上での実施とした。限られた日程の中で、公演前に時間を取るの難しいということもあったが、作品を観た後に、実際に自分の身体で舞踏の世界を体験することで、作品や舞踏への理解と親しみを深める機会になるよう検討した。

そうして迎えた公演は、川根を訪れた少年が夢の中で様々な昔話を巡るような構成で、舞踏のさらなる可能性を感じさせる作品となっていた。キツネや天狗の可笑しみのある話や、ある夫婦の仲睦まじいけれど悲しい恋の話など、幾多の層をなす人間や生き物の悲喜交々が、時に台詞も交えながら、舞踏手たちの身体を通して軽妙かつ重厚に描き出されていった。上演中に、演者に思わず声をかける観客や、子どもたちが身を乗り出して舞台を見つめる姿も見られ、文字通り、子どもも大人も楽しめる新しい舞踏作品であった。

終演後のアフタートークでは、観客の半数くらいが初めて舞踏を見たという反応だった。田村さんが語られた「子ども向けと言っても、大人にも分からないことがある」「踊る、表現する、ではなく踊らされている」などの言葉を通して、作品の背景にある想いや舞踏に対する考えを観客と共有でき、鑑賞体験を深める良い時間になったと思う。

その流れを経た公募ワークショップは、観客の半数くらいが参加してくれていた。作品を観た直後なので、田村さんと共通認識を持った状態で始められたように感じた。集客の際には、ワークショップの時間を長めに設定したことや、そのことにより遠方からの観客が帰りの時間の都合で参加しづらいなど苦戦もしたそうだが、結果的には、参加者の満足度も高い充実した時間になったと言えるのではないだろうか。

●課題とこれからに向けて

今回は、ホールとアーティスト、町の人々のつながりを強く感じたCプロだった。川根本町とアーティストのこれまでの関係が無ければ生まれなかったであろう、新しい舞踏作品が生まれ出したこと。また、それを生み出すための、ホールに携わる人々の理解や協力が得られる関係があったので、ぜひ今後もその関係性やこれまでの経験を活かした事業を町の人々のために継続して展開して欲しい。

公演日に、ホールが一番近い小学校の学習発表会が重なり子どもたちが見に来られなかったことは残念だったが、その一方で、その学習発表会を見た方によると、ホールが続けてきたアウトリーチの成果が子どもたちの表現力につながっているように感じたという声も聞かれた。また、SNSの利用や町民への直接の声かけ、ロビーでのパネル展示など広報面でもいろいろな工夫がなされていた。フィードバックでは、SNSを見ない層へのアプローチや、過去事業参加者への働きかけ、学校との連携の方法などに改善の余地があることが挙がっていたので、今後に生かされることと思う。

短期間で測ることが難しい文化芸術の価値や評価を、しかるべき方法で共有し町民の理解を得ながら事業を継続することには困難もあるだろうが、着実に人々の中に残っていく経験があり、文化芸術にしかできない可能性や価値がある。そのことを、ホール運営に携わる人たちの中でしっかり共通認識として持ちながら、川根本町から今後も豊かな舞台芸術が発信されていこう、町の一ファンとしても心から応援している。

実施団体	上田市
実施ホール	サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター
実施期間	令和2年1月30日(木)～2月2日(日)
アーティスト等	アーティスト：北尾亘 共演者：中村蓉 テクニカルスタッフ等：中瀬俊介
コーディネーター	宮久保真紀

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 1月30日(木) 18:30～20:30、中学生以上、無料、16名、大スタジオ

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『あなたの足跡しか踏めない。』(デュオ作品)、『UMU-うむ-』(ソロ作品)
- 2月2日(日) 14:00開演(13:30開場)
- 北尾亘、中村蓉
- 一般2,000円、U-25 1,000円
- サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター 大スタジオ
- 65名



2人の男女の間に存在する見えない「距離」と重なり合う「足跡」の痕跡。命の涯み声から立ち現れる「個」の身体が内包する「無限の可能性」。今、この時代に浮遊する数多の想いをトレースしたこの2作品は、きっと、「誰かの声なきこゑ」――

足り、揺らぎ、傷、愛い――

舞付舞・ダンスサー・舞付として幅広く活躍する北尾亘。その身体からは、責任を背負いきるの足元を照らす力強いメッセージとも読める。そして自分への関心がけにも感じられる愛いエネルギー。水鏡なま。『UMU-うむ-』。その揺らぎの境界にふれた時、きっと新しいダンスとの出会いが待っている。

7部 チョロ作品 『あなたの足跡しか踏めない。』
出演：北尾亘 中村蓉 中瀬俊介(テクニカルスタッフ)

7部 足跡演後 トークショー

2部 北尾亘ソロ作品 『UMU-うむ-』
出演：北尾亘 中瀬俊介(テクニカルスタッフ)

TICKET INFORMATION 2020.02.02 2P.M.

チケット情報 2020年1月30日(木) 10:00～

料金(全席指定) 一般2,000円
U-25 1,000円(中学生以上限定)
小学生以下は観覧不可。U-25は当日現金でのみ受付。
チケットは1枚1,000円(税込)で販売。
U-25は1,000円(税込)で販売。
小学生以下は観覧不可。
チケットは1枚1,000円(税込)で販売。
U-25は1,000円(税込)で販売。
小学生以下は観覧不可。

北尾亘 HIROYUKI KITANO
1974年 兵庫県生まれ。舞付舞・ダンスサー・舞付として幅広く活躍する。その身体からは、責任を背負いきるの足元を照らす力強いメッセージとも読める。そして自分への関心がけにも感じられる愛いエネルギー。水鏡なま。『UMU-うむ-』。その揺らぎの境界にふれた時、きっと新しいダンスとの出会いが待っている。

中村蓉 YO NAKAMURA
1982年 東京都生まれ。舞付舞・ダンスサー・舞付として幅広く活躍する。その身体からは、責任を背負いきるの足元を照らす力強いメッセージとも読める。そして自分への関心がけにも感じられる愛いエネルギー。水鏡なま。『UMU-うむ-』。その揺らぎの境界にふれた時、きっと新しいダンスとの出会いが待っている。

2020.02.02 SUN.
2P.M. 14:00開演
13:30開場
サントミュージゼ
(上田市交流文化芸術センター) 大スタジオ

お問い合わせ
0267-220000 上田市交流文化芸術センター
https://www.santomuseum.jp/

北尾亘ダンス公演 舞付舞・ダンスサー・舞付

DOUBLE BILL

2020.02.02 SUN.
2P.M. 14:00開演
13:30開場
サントミュージゼ
(上田市交流文化芸術センター) 大スタジオ

スケジュール

長野県上田市／サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター

	下見	
	9/11 (水)	9/12 (木)
9:00		
10:00		取材
11:00		↓
12:00	上田着	↓
13:00	会場下見 打合せ	
14:00	↓	打合せ
15:00		↓
16:00		上田発
17:00	↓	
18:00	交流会	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
1/30 (木)	1/31 (金)	2/1 (土)	2/2 (日)
			劇場入り
	劇場入り	劇場入り	
	ソロ稽古	ソロ稽古	場当り
上田着	↓	通し	↓
公演打合せ	デュオ稽古	デュオ稽古	プリセット 開場
↓	↓	↓	公演
		通し	↓
WS 打合せ	↓	↓	バラシ
	↓	ゲネプロ	振り返り
公募 WS		↓	
↓	音収録	直し	
	退館	退館	
WS 振り返り			上田発
退館			

公募型ワークショップ

大スタジオを会場に、中学生以上を対象としたダンスWSを実施。北尾亘さんと、本公演にてデュオ作品で共演される中村蓉さんがアシスタントに付き、お二人による贅沢な二時間のWS。平日の夜という集まり難い日程ではあったが、16名（申込みは19名）の方にご参加いただき、じっくりと自分の身体と向き合う時間を堪能した。当館は本事業で、毎回異なるアーティストを招聘することで、市民の方や地域に対し、ダンスの多様性や異なる魅力を体感してもらうことも目的としている。また、アーティストとの出会いも期待しているので、お二人にWSを実施していただいたことは、当館の今後のダンス事業においても良い影響を期待できる。

今回の参加者は、これまでに当館WS（ダンス・演劇含む）に参加したことがある方、全く初めての方と半々であった。参加地域は、半数が市内、半数は上田圏域地域を含む県内6市町村からの参加であった。

「コンテンポラリーダンスに興味があった」、「テレビのバラエティー番組で見て、どういものなのか体験してみたいと思った」「友人にサントミュージアのダンスは楽しいよと誘われた」など、多少の時間をかけても遠方から足を運んで下さった方、たまたまWS当日に館へ立ち寄った方が興味を持って参加されたなど、参加動機も様々であった。

ワーク前半は、参加者同士のコミュニケーションや、じっくりと身体を動かしたり自分の身体に意識を向ける時間を取った。北尾さんからは、「身体に意識を向けることもダンスだと思う」と投げかけがある。参加者はゆっくりと自分の身体の動きを感じようとしていた。後半は、日常生活の動きを自分なりの動きのイメージで振付に転化していく。最後に、参加者から出された1つのお題に対して、北尾さんが振りを付け、元の2人組が分かれて2チームを構成し、自分の動きをたっぷりと味わいながら踊る。別チームでもあるがペアでもあり、前後半のチームが連動して振付けられたダンスをペアへ引き継いでいく。参加者の集中力、全体の空気に引き込まれた。



公演

北尾亘 ダンス公演『ダブル・ビル』



今回の公演は、『ダブル・ビル』と冠したが、名のとおり2本立て公演となった。北尾亘さんから作品のご提案をいくつかいただく中で、デュオ作品、ソロ作品を同時に実施することとなり、それぞれ毛色や特色の違うダンス公演を一度に味わえる機会となった。デュオ作品『あなたの足跡しか踏めない。』は、同じく登録アーティストの中村蓉さんと2018年に公演した作品で、ダンススタイルの異なる2人が創る、どちらのスタイルでもない作品が魅力的であった。舞台道具は、劇場スタッフ含めみんなで制作した。ソロ作品『UMU-うむ-』は、普段は主宰するBaobabでは群舞が中心で活動される北尾亘さんの、ソロで感じられる北尾さんの一挙手一投足や表現する世界をじっくり堪能することができる作品であった。北尾さんのダンスと音楽をより際立たせる映像は、Baobabから中瀬俊介さんが参加し、当日のオペも実施していただいた。

会場の大スタジオは、通常は平場で、客席はスチールデッキを組んだ仮設客席であるため、舞台と客席も近く、より臨場感のある舞台を鑑賞することが出来る。スタジオ2階の回廊も使用し、立体的な演出も実施した。

公演の周知については、下見時から概ねの作品構成を伺い、PV用コメント及びダンスシーン等取材を実施。WSチラシの作成や公演チラシの作成を早期に実施し、各方面へ配布。地元ダンススクール等へも直に紹介を実施した。また、SNSなど利用し広く公演情報の提供を計画的に行った。

●来場者アンケートより（感想）

- ・コンテンポラリーダンスは純文学のようなものかと思っていたけど、演劇もストリートダンスともクラブ music とも地続きで、映像とともに日常から生みだされる表現なんだなーと心がふるえた。(40代女性)
- ・初めてでしたが、楽しかったです。(60代女性)
- ・素晴らしく内容が良かった。(70代男性)
- ・デュオ作品は演劇をみているようで、じんわりとしたりほっこりしたり良かったです。ソロ作品は、楽しくてやさしい気持ちになりました。北尾さんの作品は、ユーモアがあって楽しいです。(50代女性)
- ・また会いたいです！！(10代女性)
- ・二人のダンス、体は言葉より多くを語ると思えた。ダンスいいよね、大好き。私も踊りたい。何でも良いから体で表現したい。(70代女性)
- ・大満足です。久々のダンス公演最高でした。遠方ですが、またダンスの公演があれば観に来たいです。(30代女性)
- ・息をするのを忘れてしまうほど、素敵な作品でした。(20代女性)
- ・なぜか目で追ってしまう。音、光、ダンスの一体感、感動しました。(20代男性)

●この事業への応募動機

上田市では、施設の基本理念である『育成』と『交流』並びに劇場での『創造と発信』をキーワードにした事業「アーティスト・イン・レジデンス事業」として、これまでにセレノグラフィカ、鈴木ユキオ氏、田畑真希氏を招聘し事業に取り組んできた。さらに、本年度は上田市のシティプロモーション映像への出演や、市立大学の授業の講師として中村蓉氏を招聘し市民や学生と共にWSや作品制作を行った。これらの事業を通じて、ワークショップや市民参加型公演への新規参加者や継続参加者が増加していることなど、ダンスに触れる機運の高まりを感じる。また表現者の育成に一定の成果が得られてきた。ついては、この活動を更に発展・継続していくと共に、鑑賞者としての側面も充実したいと考え、本年度はCプログラムによる作品の紹介と、新たなダンサーと一緒に活動を展開していきたいと考え応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

当館のダンス事業においては、2014年の開館以降、自主事業の創造公演やワークショップ等の実施、またダンス事業での市民参加公演やワークショップ等を継続してきたことにより、上田市や上田圏域におけるダンスの状況も変化しつつある。また、開館から5年余が経過し、これまでのダンス事業への取組を経て、さらに新しいアーティストとの出会いにより、新たなコンテンポラリーダンスの魅力、また地方ではまだまだ観られる機会が限られてしまう一流の公演を鑑賞するという「鑑賞者」の育成も目指したところである。上田市では、バレエ・ヒップホップのダンス教室が盛んで、数も多く存在するが、それらジャンルの若者が、多様な身体表現を知る機会として、北尾亘さんによるCプログラムはとて魅力的な事業になるだろうと期待した。

●企画実施にあたり苦労した点

Cプログラムのレパトリー公演であったが、結果として1つのクリエイションを行ったかのような非常に素晴らしい作品をお客様へ提供することができた。それゆえ、公演の内容は非常に密度が濃く、公演前後の過密日程の中で、アーティストの様々な負担や事前の情報共有（テクニカル面含め）の部分、テクニカルスタッフの配置など、やや手数が多く必要などところも見られた。作品のクオリティーを維持し、再現するにはやや苦慮する点も散見され、Cプログラムの4日間の枠で実施するには、双方やや難しい面も感じた。

●事業の成果と課題

WSについては、参加者の半数は、これまでサントミュージゼでのWS（ダンス・演劇含む）への参加経験があり、サントミュージゼと継続的に関わりをもつ方であり、事業の継続による成果が見られた。また、当館事業へ今回初めて参加される方が半数を占めていることについては、徐々にではあるがコンテンポラリーダンスが県内でも認知され、興味の高まりや期待感を感じられる。さらに、これを実現したいという方々の活動の場として、また県内におけるダンス事情を背景に、当館の立地面や事業内容等が、重要な拠点として認識され、位置づけされ始めていることも感じられた。爆発的な変化は難しいところだが、これらをさらに周知発展させていければと考える。

●今後の事業展開や展望

上田市においては、文化事業に対して「自らする」>「鑑賞する」の立場を分けて活動する方、または比重分けが強い傾向が感じられる中で、今回の北尾さんの公演では、WSに参加し、北尾さんというアーティストと市民が出会い、知り、公演を観たいと結びつき、友人を誘い公演を鑑賞し、公演後には、市民参加公演などの開催を望む声も聞かれた。今後、相互からの結びつきが強くなり、自身の活動だけではなく、「観る」活動も一層発展して行くよう、さまざまな事業を通じて刺激していければと考える。

公演の実施を含め今回の4日間を通じ、劇場とアーティストの結びつき、アーティストと地域の結びつき、劇場と地域の結びつきが相互にバランスよく行ったときは、相互にとって充実した事業が展開できると感じる。サントミュージゼが、市民の方の生活の一部を成す場として位置づくような活動を構築したいと考える。

●この地域のダン活の特徴

アーティスト：北尾亘（前々年度：鈴木ユキオ [B プロ] / 前年度：田畑真希 [A プロ]）

公演観客数：65 名

公募ワークショップ：16 名（17 才～ 56 才）

東京駅から北陸新幹線で 1 時間半に位置する長野県上田市に在るサントミュージゼは 2019 年でちょうど開館 5 周年を迎えた劇場だ。千曲川が隣接し、広々した敷地の中央のサークル状の芝生広場を囲むような形状の建物内に大ホール、小ホール、大スタジオなどの劇場空間と、市立美術館、ギャラリースペースや市民向けスペースなどが併設されている。回廊スペースにはフリースペースもあり、高校生、大学生と思われる年代が勉学に励んでいる光景を度々見かけた。

サントミュージゼはダン活 3 年目の最終年で 今年度は偶然であるが、コーディネーターの私が北尾亘氏の C プログラムを担当することが重なったことと、時期的な条件も合い、もう一つの北尾氏の C プロ実施劇場である北九州芸術劇場と同じく 2019 年 5 月に日本女子体育大学ダンス・プロデュース部の 24 名に振り付けた作品をソロ作品へトリ・クリエーションした『UMU -うむ-』の上演を実施することになった。さらに 2019 年度にサントミュージゼの別枠のプロジェクトで関わっていた中村蓉氏と北尾氏が 2018 年に発表したデュオ作品『あなたの足跡しか踏めない』をプログラムに加え、ダブル・ビル上演とし、一人のアーティストの違うタイプの作品を一度に味合うことができる大変贅沢な内容となった。

今回の公演では 2 作品の間にトークをはさみ、北尾、中村の両氏のみで進行。当初、劇場担当者でないにしても（例えばゲストをたてるなど）進行役無しで、アーティストだけでトークを行うことは、2 作品共に出演する北尾氏の負担や、時間配分等、様々な要因を考えても大変不安だった。しかし、事前に綿密な準備ができたことと、ダン活アーティストでもある中村氏が共演者であったこともあり、観客の満足度は客席でも強く感じることができた。

劇場入りの夜に実施した公募ワークショップは、これまでのサントミュージゼでのワークショップ参加者が半数に加え、当日ふらりと劇場に立ち寄った方がいるなど、モチベーションが高く、応用力のある方々ばかりが参加。北尾氏も一つ一つのワークショップの内容に集中してできたという。

開館わずか 5 年目で、良い関係性の来場者が増えてきていることは劇場にとって大きな強みだ。コンテンポラリーダンスの事業自体を増やすことは簡単なことではないが、年に 1 回ペースでも継続してもらいたい。来年度は劇場自主企画で北尾氏との新たなプロジェクトがあるということで、今年度の成果が繋がるにちがいない。

●課題とこれからに向けて

コンテンポラリーダンス作品は、初演から年数が経っていると新しい要素が加わったり、変更点が出てくるのが度々ある。現状のダン活 C プログラムにおいては、完全な再演というよりはリ・クリエーション作品の上演が多くなるためアーティストと地元技術スタッフの意思疎通が重要である。

今回のように、新作に近いリ・クリエーション作品と、一度しか上演していない作品の再演は、時間が限られているダン活事業で実施するには、かなりハードルの高いものだった。北九州と同じく、サントミュージゼ公演が成功したのも劇場担当者と技術チームが一丸となって、この事業に取り組んでくれた結果だといえる。

ダン活事業を越えて、縁のできたアーティストとプロジェクトを継続できる素地のあるサントミュージゼだからこそ、これからのダンス事業にも注目していきたい。

実施団体	特定非営利活動法人コミュニティアートセンタープラッツ
実施ホール	豊岡市民プラザ
実施期間	令和2年1月31日(金)～2月3日(月)
アーティスト等	アーティスト：田村一行 共演者：小田直哉、藤本梓 テクニカルスタッフ等：伊藤おらん
コーディネーター	神前沙織

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

①1月31日(金)19:00～21:30、中学生以上、無料、21名、ホール

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

■『ノキシタノマロウド』

■2月2日(日)15:00開演(14:30開場)

■田村一行、小田直哉、藤本梓

■一般2,500円、2作品共通券4,000円、高校生以下無料(要整理券)

■豊岡市民プラザ ほっとステージ

■72名



スケジュール

兵庫県豊岡市／豊岡市民プラザ

	下見	
	7/3 (水)	7/4 (木)
9:00		写真撮影
10:00	豊岡着	↓
11:00	打合せ	↓
12:00	↓	↓
13:00	昼食	昼食
14:00	撮影場所下見	地域資源視察
15:00	↓	↓
16:00	↓	↓
17:00	打合せ	帰京
18:00		
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
1/31 (金)	2/1 (土)	2/2 (日)	2/3 (月)
照明フォーカス	照明作業		
仮説客席設営	↓	稽古	帰京
↓	↓	↓	
↓	昼食	↓	
昼食 音響打合せ	場当たり	休憩	
集合・顔合わせ	↓	開場	
場位置確認	↓	公演	
舞台稽古	↓	↓	
↓	テクニカル リハーサル	終演・バラシ	
休憩	休憩	↓	
公募 WS	場当たり	↓	
↓	ゲネプロ	交流会	
↓	↓		

公募型ワークショップ

豊岡市民プラザでは、舞踏の自由な身体表現は市民の表現力・創造力を伸ばす支柱となると考え、2017年度から継続して「市民参加型舞踏公演」事業を実施してきた。ダン活最終年となる今年度は、大駱駝艦と公募市民が共に二週間のクリエイションと公演に取り組むホール独自の「市民参加クリエイション公演」と、その1週間後にダン活の「Cプログラム（アーティスト公演）」を上演するという事業形態を設定した。

今回のCプログラムでは、舞踏という芸術をさらに地域に根付かせるため、一般の方を対象とした公募ワークショップを設定した。前年度までの取り組みと異なる点は、対象年齢を拡げて中学生の方も参加可能にした点である。ワークショップの参加者は市民参加公演に出演する方々が大勢を占めたが、「昨年の現代ダンスワークショップが楽しかったから」「市民参加公演に参加はできないけれど、舞踏には興味がある」といった方々など計21名の方が参加。大駱駝艦の舞踏で用いられる「振鑄」「宙体」「鑄型」という舞踏の動きを、身体を震わせたり、形を固定したまま動いてみたりするなど、実際に動きながら体験した。自分が動くのではなく、周りの事象によって身体が動かされる不思議な感覚が、舞踏により親しめるきっかけとなったようで、参加者からは「舞踏の“動かされる”という感覚はスツと染み込むというか、理解しやすいように感じました。早すぎても気付かない、遅すぎると体験できない、本当にいい時期に舞踏と出会えた」「自分が大きく、自由になった気がする。自分の本当の姿って何だろう、どう動かされるのだろう、わくわくした」と声が寄せられた。

また、参加者のご家族である小学生のお子様も、楽しそうな大人たちの様子を見て途中から急遽加わるなど、年齢を問わず伝わる舞踏の奥深さを改めて実感できたワークショップとなった。



公演

大駱駝艦・田村一行舞踏公演 アーティスト公演『ノキシタノマロウド』



Cプログラムのアーティスト公演『ノキシタノマロウド』では、市民プラザが積み重ねてきた三年間の市民参加クリエイション作品の流れを汲みつつ、舞踏のもつ新たな表現を地域へ届けたいという企画意図からスタートした。市民参加作品は地域に伝わる伝説や気候、そこに暮らす人々からインスピレーションを得て創作されるが、今回のアーティスト公演は「地域の昔話」が取り入れられ、ダンサーによる語りやセリフなど演劇的要素も織り交ぜられ、初めて舞踏を見る方にも親しみやすい作品となった。

一週前に市民参加公演を上演した背景から、アーティストと出演市民の間に強い絆が築かれており、彼らがCプログラムを実施する上で、チケット販売や宣伝、また公演スタッフとしても積極的に協力するなど、心強いサポーターとなってくれた。

今回の公演では広域の宣伝を意識し、京都・大阪、近畿圏対象に折込代行業者への委託や、海外の方も手に入れやすいチケット販売システムを館で初めて採用した。県外からこの公演のために豊岡に駆け付けてくださった方も多く、市民プラザでの通常の自主事業の客層とは違う観客にお越しいただけた。市内向けの宣伝では、市民プラザの入っている施設ビルの壁面に長尺幕を初めて掲示。インパクトのある舞踏のビル幕は市民の目を引き付け、公演の存在を強くアピールできた。

●来場者アンケートより（感想）

- ・天狗の舞のシーンがとてよかかったです！不思議な世界…ずっと観ていたかったです。地域のことも盛り込まれており、クスッと笑える場面があり、とても楽しかったです！！
- ・舞踏とは何なのかよくわからないけれど、よくわからなさで常人離れした動きで頭の中をぐちゃぐちゃにされる感じが楽しかったです。
- ・舞台公演をはじめたので、世界観に驚いた。セリフが少ないのに、体の動きだけでここまで表現できるのはすごいと思った。世界観にいつのまにか入り込んでいた。
- ・めちゃくちゃよかったです！もう1回見たい！ぜひ見たい！型にはまらずこちらの体も勝手に動きだすようなダンスだった。そして曲がすべてのシーンに合っていてとてもよかった。うたた寝から目覚めたときの妙な心寂しさがすごく実感できた。（昼寝から目覚めたときってどうしてあんなに物哀しいのだろう）ストーリーがすごくよかった！
- ・想像していたものとは全く違いました。楽しくて悲しくて心がキュンとなるような夢物語でした。コケティッシュで哀愁に満ちていて、昔パントマイムを見たときのような心地よさでした。

●この事業への応募動機

2017年度のダン活Bプログラムで実施した、「地域資源からインスピレーションを得て舞台化、市民と大駱駝艦メンバーが共演する」という田村氏の手法は、まだ現代ダンスに触れる機会が少なかった但馬にとって舞踏の世界への扉を開くエポックメイキングな事業となった。地域に芽生えた舞踏への興味・関心を広げ市民の文化創造力を高めていくには、継続した事業の展開が極めて重要であると考え、参加型の舞踏公演を続けてきた。ダン活3年目の今年、アーティストのみによるCプログラムで、今まで積み重ねてきたものに繋がるような作品を上演することで、身体表現の極地ともいえる舞踏の世界観を広く地域へ届けたいと考え、応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

今回の企画のポイントは市民参加クリエイション作品とCプログラムを連続で上演した点。「地方都市に暮らし、優れたアーティストと共に芸術性の高い作品を創造することは地域文化の礎となる」という思いから継続している豊岡発のオリジナル市民参加舞踏公演だが、Cプログラムのアーティスト単独の公演へと繋げていくことで、市民の中に舞踏ファンや、先進的な舞台芸術のリテラシーをもつ表現者を育てていくことをねらいとした。

●企画実施にあたり苦労した点

2週連続公演ということもあり来場者が分散することが予見されたので、市内への呼びかけに加え、全国にいる舞踏ファンを獲得するための新たなアプローチが必要になった。新しい試みとして折込代行業者にチラシ配布を依頼。京都で開催されていた国際的なアートフェスティバルで配布を3週間実施した。また、大阪での演劇公演での折込や、インバウンドで来日している外国人の方もチケット購入がしやすい販売サイトを利用するなど新しい広報手段を模索した。

もう一つ苦労した点は、作品を創り上げていく時間が限られていた事。Cプログラムではあるが、今回の『ノキシタノマロウド』はこれまで私たちが三年間積み重ねてきたオリジナル舞踏公演の流れを汲んで、「エピソード：ゼロ」とも言える特別な作品を創作していただくことができた。市民参加クリエイション公演後、Cプログラム事業開始までに仕込みや舞台セットなどある程度は準備したが、それでもかなりタイトなスケジュールになってしまった。

●事業の成果と課題

新しい広報手段によって、市外、県外からもこの舞踏公演のために豊岡市へお越しいただいた。Cプログラム以外でも波及があり、市民参加公演への県外からの参加者が集まるなど、舞踏を通じた地域の文化創造が新たな広がりをみせた。また、チケット販売の呼びかけや公演スタッフなど市民がサポーターとして積極的に関わってくださるほどの関係性を築くことができた。

反面、今回実施した公募ワークショップに参加していただいた方はリピーターの方が多く、ご新規の方、若い世代の方の参加は少数となってしまう、新しい人材や将来の観客との出会いはまだまだ発展途上といえる。一度事業に参加していただいた方の満足度は高いので、「最初の一步」を意識した呼びかけ、ワークショップを考える必要がある。

●今後の事業展開や展望

市民参加型の現代ダンス事業は継続実施をしていきたいと考えている。また、市民参加作品3作品と、今回のCプログラムで生まれた1作品は、地域の文化資源から生まれた大切な作品として何らかの形で再構成・再演へと繋げ、豊岡での舞台表現活動が目に見える形で、劇場から外へ発信していきたい。

●この地域のダン活の特徴

豊岡市民プラザでは、ダン活3年目でCプログラムを実施した。これまでも長きにわたり様々なダンス事業を行っているほか市民劇団を運営しており、経験値の高いホールである。

3年前のダン活でBプロを始めて以降、毎年、市民参加の舞踏作品をアーティストの田村一行さんに委嘱されており、今年度もダン活Cプロの一週間前に田村さんによる市民参加作品を上演してから、Cプロで田村さんの舞踏作品を上演するという、2本立てのプログラムを企画された。

市民参加作品のため2017年から3年間、豊岡に通う事となった田村さんは、地元に残る神話をモチーフに、年に1回市民参加作品を創作し、3部作が仕上がった。Cプロはその最後の年の、3部作の後に上演する自身のカンパニーのみの作品になるため、田村さんにとっても3年間の集大成となる作品を準備された。

Cプロでの上演作品は、そのような経緯で、豊岡のために創作された新作となった。

私が移動日に劇場に着くと、既に舞台・音響・照明仕込みとアーティストとの打ち合わせが終わっており、残りはシーンごとの明かり合わせとダンサーを入れてのリハーサルのみであったが、新作の発表を前に最後までシーンの作り替えも試みられていた。そうしたテクニカルの受け入れ体制が整っており、アーティストとのコミュニケーションが取れている中で、思う存分ホールでテクニカルリハーサルを試せる、アーティストにとっては素晴らしい環境であった。

テクニカルは全員がホールのスタッフで、舞台監督を館長さんが務めるという、珍しい体制である。若手の育成にも力を入れておられて、今回は30代前半の中堅スタッフが、照明・音響・制作を担当していた。みなさんとは、2014年の城崎国際アートセンターの開館記念事業でJCDNがコーディネートしたコミュニティダンスのプロジェクトでご一緒した方たちで、そのころから5年と時を経てお互いの成長を感じる嬉しい時間でもあった。

舞台美術の建て込みがあり、客席も手作りのため、バラシの量がかなり多かったが、市民参加の方々やファクトリー生（プラザのオリジナル劇団）がほぼ最後まで手伝ってくれた。そうした参加者との舞台つきあいをしているところも、プラザらしい。

田村さんとプラザの事業は当初は3年で一区切りと考えておられたが、館長ふくむホールスタッフの思いとしては、令和2年度も引き続き田村さんと何かできないかということで、打ち上げで相談がなされた。ホールがアーティストと深く付き合い、モノづくりの原点を参加者もスタッフも全員が経験しながら、芸術を知りダンスを知る。豊岡市民プラザはそうした創造的な現場であることを、私自身が再認識する機会になった。

●課題とこれからに向けて

豊岡市には今後新しい劇場や大学が創設され、城崎国際アートセンターとの連動により、ますます世界の注目を集める市になっていくと思う。そうした中で、豊岡市民プラザがあえて日本初のオリジナルダンスと言われる舞踏を扱うのは、興味深い。積極的に多言語対応を行うなど、国際化に対応すると新たな観客が生まれ、その観客が地域に何かもたらしてくれるかもしれない。

一方で、豊岡駅前の商店街を歩くと、シャッターの多さに気づく。そもそも歩いている人がとても少ない。プラザのある建物は大きな商業施設で、その中には人はいるのだが・・・。若い事業担当やテクニカルスタッフが力をつけてきた今、この商店街を活性化するアイデアを出しあい実験してみてもどうか。地域とのかかわりを多方向から持つ事が、更なるホールと地域の成長につながると思う。

実施団体	公益財団法人徳島県文化振興財団
実施ホール	あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）
実施期間	令和2年2月26日（水）～2月29日（土） ※新型コロナウイルス（COVID-19）の感染が拡大している状況を受け事業中止
アーティスト等	アーティスト：セレノグラフィカ（隅地茉歩＋阿比留修一） 共演者：大村太一郎 テクニカルスタッフ等：岩村原太
コーディネーター	中西麻友

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、会場）

① 2月26日（水）18:00～19:30、どなたでも、無料、あわぎんホール 小ホール

■公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場）

- 『たとへ火の中、水の中』 - 壺坂観音霊体験記より -
- 2月29日（土）15:00 開演（14:30 開場）
- セレノグラフィカ（隅地茉歩＋阿比留修一）、鶴澤友輔（義太夫）、大村太一郎（コントラバス）
- 一般1,000円、学生（大学生以下）500円
- あわぎんホール 1階ホール

コンテンポラリーダンス × 義太夫 × コントラバス
セレノグラフィカ × 鶴澤友輔 × 大村太一郎

壺坂観音霊体験記より
たとへ火の中、水の中へ

共鳴し合う三つの力

2月29日（土）
14:30 15:00
あわぎんホール 1階ホール
[入場料] 一般1,000円 学生500円

コンテンポラリーダンス × 義太夫 × コントラバス
三者が織りなす壺坂観音霊体験記をモチーフにした
新作ダンス公演「たとへ火の中、水の中」

令和2年2月29日（土）
14:30 15:00
あわぎんホール 1階ホール
[入場料] 一般1,000円 学生500円

セレノグラフィカ
鶴澤友輔
大村太一郎

子ども大人も楽しめるコンテンポラリーワークショップ！
三味線・コントラバスの生演奏に合わせて楽しく踊ろう！

阿波銀行

スケジュール

徳島県徳島市／あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）

	下見	
	8/19 (月)	8/20 (火)
9:00		
10:00		打合せ
11:00		↓
12:00		
13:00		作品づくり
14:00	集合・打合せ	↓
15:00	↓	↓
16:00		
17:00	↓	↓
18:00	交流会	移動
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
2/26 (水)	2/27 (木)	2/28 (金)	2/29 (土)
※新型コロナウイルス（COVID-19）の感染が拡大している状況を受け事業中止			

スケジュール

	下見	
	7/3 (水)	7/4 (木)
9:00		
10:00		打合せ
11:00		↓
12:00		
13:00	集合	取材
14:00	会場下見 打合せ	地域資源視察
15:00	↓	↓
16:00	↓	移動
17:00	インリーチ	
18:00	↓	
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
3/4 (水)	3/5 (木)	3/6 (金)	3/7 (土)
※新型コロナウイルス (COVID-19) の感染が拡大している状況を受け事業中止			

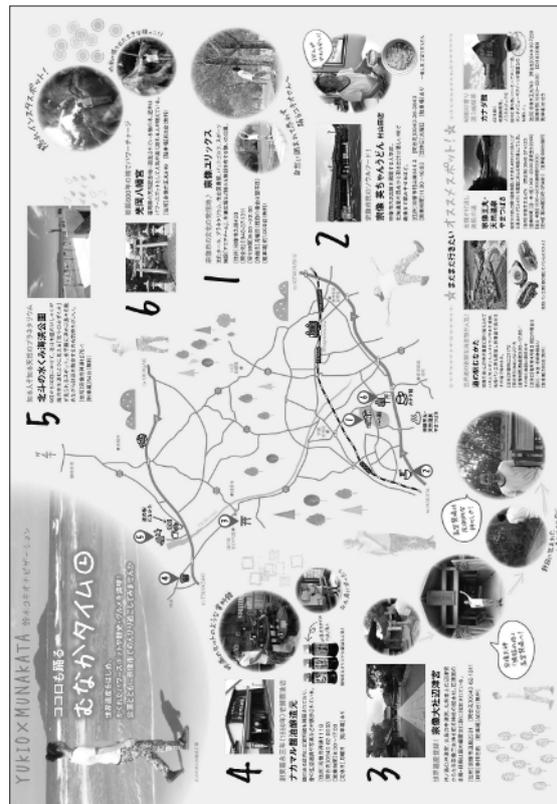
実施団体	公益財団法人宗像ユリックス
実施ホール	宗像ユリックス
実施期間	令和2年3月19日(木)～3月22日(日) ※新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が拡大している状況を受け事業中止
アーティスト等	アーティスト：鈴木ユキオ 共演者：安次嶺奈緒、赤木はるか テクニカルスタッフ等：齊藤梅生
コーディネーター	坂田雄平

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、会場)

① 3月20日(金) 13:00～15:00、高校生以上、500円(公演チケット付き1,000円)、宗像ユリックス リハーサル室

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場)

- 『IMAGINE』
- 3月21日(土) 18:45開演(18:15開場)
- 鈴木ユキオ、安次嶺奈緒、赤木はるか、田端春花
- 1,000円
- 宗像ユリックス 風の丘(屋外)



スケジュール

福岡県宗像市／宗像ユリックス

	下見	
	10/7 (月)	10/8 (火)
9:00		
10:00		撮影
11:00		↓
12:00		昼食
13:00	集合	撮影
14:00	昼食・撮影	↓
15:00	会場下見 打合せ	テクニカル 打合せ
16:00	↓	↓
17:00	撮影	移動
18:00		
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
3/19 (木)	3/20 (金)	3/21 (土)	3/22 (日)
※新型コロナウイルス (COVID-19) の感染が拡大して いる状況を受け事業中止			

事業資料

当日パンフレット (Bプログラム)

半田市福祉文化会館 雁宿ホール

A3 二つ折り 両面 (4色)

.....

Dancers

-タバマ企画-

田畑真希
カサヤマリコ
中村理

-市民ダンサーズ-

荒木梨花 荒木梨心
磯谷晴華 藤原良恵
村原有紀 堀城野信子
坂野高子 佐藤英恵
杉山 恋 竹内真理
竹倉慶子 田中大輝
千塚芳基 中條藍由香里
野田千帆 野田夏帆
野田涼帆 松原咲夜
吉澤伸博

Instrumental

-セントラル愛知交響楽団-

Violin 丹沢絵美
Violin 石橋玲子
Viola 小中能会真
Cello 堀田祐司

Piano 朽名恭子

Technical

株式会社ビーアンドビー

Special Thanks

HNひまわり

.....

本日は、お越しいただきありがとうございました。
令和元年8月11日

市民参加型コンテンポラリーダンス公演

ハンダ大楽奏



8月11日(日)14時開演

会場：半田市福祉文化会館 (雁宿ホール) 講堂

◆主催 半田市教育委員会 ◆共催 一般財団法人地域創造

Program

Dance：田畑真希、カサヤマリコ、中村理、市民ダンサーズ

Mozart モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジーク長調K.525

第1楽章 アレグロ
-ピアノ演奏-

第2楽章 ロマンツェ
-ピアノ演奏-

第3楽章 メヌエットとトリオ
第4楽章 ロンド
Sette ティ：ジムノペディ 第1番

Dance：田畑真希、カサヤマリコ、中村理

Beethoven ベートーヴェン：大フーガ変ロ長調Op.133

Message

振付/演出 田畑真希

本日はご来場いただきましてありがとうございます。
この作品は、8月6日から半田市に滞在して、セントラル愛知交響楽団の方々とピアニストのゆきさんの演奏を軸に作品を創りました。

弦楽四重奏とピアノの生演奏、そして半田市員の皆と22名の身体で奏でる時間。「身体」と「音楽」が持つエネルギーが、想像の心に宿る風景となり、観る人それぞれの心に様々な物語が生まれる事を願います。

舞台作品やライブの最も大切な主人公は、お客様です。登場人物の一人として、共に体験していただくと幸いです。

令和元年8月11日
田畑 真希

セントラル愛知交響楽団 音楽主幹 山本雅士

ダンスとクラシック音楽の新しい出会い。

一般の方には、クラシック音楽を含めた芸術芸術に昔からの決まり事や、多く制約に縛られていると思われがちです。

しかし、伝統芸術で現代でも残っている作品はその時代には受け入れられず失敗作のレッテルを貼られた作品が数多くあります。常識に縛られず新しい試みの積み重ねの中から名曲が生まれてきたのです。

今回の、市民参加型コンテンポラリーダンス公演「ハンダ大楽奏」は、今回の新しい時代に繋がる新しい試みだと私は思います。是非、不思議な旅を一緒にしてください。

Violin 丹沢絵美 Violin 石橋玲子 Viola 小中能会真 Cello 堀田祐司 Piano 朽名恭子



田畑真希 Profile



タバマ企画主宰。清洲女までがムッシュに、ユーモアを散りばめながら丁寧に観客をおく作風には定評があり、国内外で積極的に活動中。7カ国23都市にて作品を上演し好評を得る。近年は様々な世代を対象としたワークショップを展開し、性別、年齢、国籍などの差を越えて、誰もが楽しみながら出来る身体表現の促進を目指す。

公演ホー1.現代ダンス芸術家発表 中村 香のコンテンポラリーダンス舞台 2本立て公演

中村 香による「舞伴物語」や「ダンスの小説」が語る先声よ！お楽しみにお

長洲絵巻/嫁入り唄

ながすえまき よめいりうた

2019 10/6 開演 15:00 (開演 14:30)
ながす未来館 文化ホール

【本日の公演プログラム】

第一部 ～嫁入り唄(よめいりうた)～
長洲町に古くから伝わる「奥州嫁入り唄」を中村香さん風に新しくアレンジし披露します。

●長洲嫁入り唄とは？
「嫁入り唄」は家族制度のひずみや生活苦を反映した庶民の歌として、江戸中期から歌い継がれてきたといわれています。特に長洲地方では昭和10年頃まで新婚の時、産後の女人・一人がここの嫁入り唄を歌い、下子や不慮したてながら家の門口から花嫁を嫁まして見送るという風習が残っていました。いつの間にか「長洲嫁入り唄」と呼ばれるようになりました。

●現在はこの嫁入り唄を復興させようと、長洲町文化協会の中で保存会を設立し、文化祭や町行事での披露を行っています。

●中村香さんのダンスの小説。
今回の公演振付などの制作経緯。etc...

第二部 ～長洲絵巻(ながすえまき)～
「長洲町よ愛ほしほし」という、知る人ぞ知る長洲町の有名な名所、また、長洲町誕生の縁など多岐にわたる歴史や由に合わせ、瀬谷の出演者の皆さんとともに今までの公演実績、実はこの公演、9月8日～8日と10月2日～5日までの7日間の練習の中で、みんなのアイデアを出し合って作り上げたとってもお洒落なものです！

●これまた面白い新しいそれぞれの表現のカタチをぜひご覧ください。

Special Thanks!

・吉賀 さゆり	・藤本 陽乃	・宇田 穂希
・高宮 翔太	・中野 希希	・藤野 雅香
・高合 悠菜	・若田 悠花	・藤田 真大
・宮川 遥奈	・若田 七愛	・藤崎 悠哉
・野宮 聖十	・若田 伊織	原研
・中井 希希	・若田 悠花	
・古賀 美白	公演にご参加くださった 皆さまの皆さん 本当にありがとうございます！	

中村 香
Yo Nakamura

【主催】ながす未来館(長洲町文化協会) 協賛 長洲町文化協会 協賛 長洲町文化協会

ご来場ありがとうございました！

長洲のタフな根性を持つ強さに気がされてつくられた、**「嫁入り唄」**

練習にはげんだ7日間、「面白い」「イイネ」と思った長洲の奥州唄メンバーの言葉を絵巻のように止まることなく詰め込んだ「長洲絵巻」どちらも楽しんでください！！

中村 香

とても短い期間でみんな集まり積極的に取り組んでいて目を進めるとに内容が充実していた様に感じます。長洲の魅力がたっぷり詰まったパワフルな個性溢れるダンスをどうぞお楽しみ下さい！！

久保田 舞

ワークショップ参加メンバーの皆さんと一緒に一つの作品を創り上げました。短い練習期間でしたが、一人一人が全カマスを楽しんで、一生懸命頑張ってくれました。最後にお楽しみください。

田花 逢

当日パンフレット (Cプログラム)

北九州芸術劇場

B4 二つ折り 両面 (4色)

北尾亘 今後のスケジュール

【旅行・出演】
・フェスティバル/トーキョー2019「移動式視覚音楽」
パフォーマンスデザイン/セノ藤 (舞台美術コレクティブ)
2019年10月5日(土)~6日(日)
第1部「あそび」12:00~14:00 第2部「あそび」15:00~17:00
第2部「あそび」15:00~17:00 トラウマ劇場
<https://www.festival-tokyo.jp/program/school/>

【旅行・出演】
・東京2020オリンピック・パラリンピック公益文化イベント
東京オリンピック 富士 Pavilion 2019 参加「UMU-うむ-」
出演・構成・制作・演出:北尾亘 (Baobab)
2019年10月13日(日)19:00~21:00 国立競技場 アジアシアター・最上
<https://mashinakaart.jp/index.html>

【演出・旅行・出演】
・東京2020オリンピック・パラリンピック公益文化イベント
東京オリンピック 富士 Pavilion 2019 参加「UMU-うむ-」
2019年11月3日(日)15:00~18:00 国立競技場 アジアシアター・最上
<http://olympicart.jp>

【総合ディレクター】
・日本舞踊シアター主催「舞舞舞ダンスリライヴ」
2019年11月15日(金)~17日(日) 舞舞舞シアター
https://www.misashiro-culture.jp/_files/wordpress/2019/08/15/misashiro.html

【旅行・構成・演出・出演】
・Baobab第12回公演「ファンタジー・コンクリート・ジャンプ」
2019年12月5日(木)~8日(日) 18:00 舞舞舞シアター・大スタジオ
<http://09-baobab-08.hoop.jp>

【旅行・構成・演出・出演】
・北尾亘ダンス公演「ダブル」
「UMU-うむ-」『あなたの足跡しを眺めない』(出演:北尾亘・中野節)
2020年2月2日(日) 18:00 舞舞舞シアター (芸術家上田市)
<https://www.sartomya.com>



北尾亘ダンス公演

『UMU - うむ -』

2019年9月29日(日)

北九州芸術劇場 小劇場

北九州芸術劇場
DDW
DANCE DANCE WORKS

..... STAFF

制作・構成・演出: 北尾亘 (Baobab)

監修: 中野節 (Sakaki)

演劇: 藤原純子*

音響: 志保田*

舞台監督: 山本博太郎*

音楽: トモタニコ (SADHOC)

(*)北九州芸術劇場スタッフ

主催: (公財) 北九州芸術文化振興財団

共催: 北九州、(一財) 北九州建設
協力: 舞舞舞 (Baobab), ASU CHANG

本日はご来場いただきありがとうございます。
念願だった北九州芸術劇場での公演を迎えられてとても嬉しいです。

本日でいただく「UMU-うむ-」は、
もともと2019年5月に「日本女子体育大学ダンスプロデュース研究部」企画公演にて、
同名タイトルで24名のダンサーたちとクリエーションを行い、産声をあげた作品です。
【確証のない不確かな未来への思い、不安定な存在の有無、何かを突破してはじめて辿り着く感覚】。
そんなコトを探しながら「それぞれの身体の声」に耳を傾けていました。

3つの「うむ」[音む・構む・有無]を内包している。
変わらず引き継いだこのコンセプトを基に、今度は「自身の身体の声」に耳を傾ける。

新たなソロ作品へと歩みを進める事にしたのは、「生まれた作品を育む必要がある」と感じたからです。
世界が目まぐるしい速度で回転する中で、なにかの存在を守り抜く事はとても大変ですが、
とても大事なコトだと思っています。この時代にとって必要な事でもあると。
自身としては初となる装幀ソロ。
タイトルに於いて「新たに生み落とす『新作』」と、厚ぶこにしました。
1人のダンサーの肉身に起こるうねりが輪廻転生にまでも繋がれることを期待して、

さて、この先の楽しみ方は皆さま次第です！
買の力は抜いて思う存分自由に観ただけなら幸いです。
可笑しかったら笑ってもらっても良いし、すこやかな顔に観られても大丈夫です。
劇場空間に無限の可能性と自由が広がりますことを願っています！
最後に、この作品に関わっていただいたすべてのの方々（今日お話しいただいたお客様も含め）に、
心から感謝申し上げます。

北尾亘 (Baobab)

北尾亘ダンス公演 『UMU - うむ -』

2019年9月29日(日) 15:00 開演

出演: 北尾亘 (Baobab)

△▽△ アフタートーク出演者 ▽△▽

北尾亘 (Baobab)

椎木 樹人 (万能グローブ ガラバコスダイナモス)

鄭 慶一 (桜光本町商店街アイアンシアター)

.....



北尾亘 Wataru KITAO

1987年兵庫県生まれ、Baobab主宰、舞舞舞・ダンサー・俳優。
幼少より舞台芸術に関わり、2009年「Baobab」を立ち上げ、全作品の制作・構成・
演出を担う。舞舞舞公演のほか、「KYOTO EXPERIMENT 2013」など国内外のフェスティ
バルに参加。4ヶ国20都市以上で舞台に立つ。演劇作品「CM-TVドラマ」に多数振
付の経験。アクトリーやNSを全国で実施。横浜ダンスコレクションコンペ1 ベス
トダンサー賞等、受賞多数。尚美学園大学、桜光本町商店街芸術振興会。

A4 二つ折り 両面 (1色)

～ ANTIBODIES Collective ～

DUGONG

演出・振付・出演 / 東野祥子
 演出・音楽 / カジワラトシオ
 美術 / 倉持裕二
 映像 / hashim
 出演 / ケンジルピエン

ANTIBODIES Collective

DUGONG

2019.11.03 SUN
 Frente hall Nishinomiya
 15:00 START 14:30 OPEN

吉川千恵
 松本萌
 菊池航
 山本泰輔
 小川摩季子
 今村達紀
 いはらみく
 三枝真希
 明希
 新井海緒
 一圓徳夫
 加藤昌宏
 川上真
 桑原優子

主催 / 公益財団法人西宮市文化振興財団
 西宮市フレンテホール (指定管理者: 日本管財・文化律議・HA2B 共同体)
 共催 / 一般財団法人地域創造、西宮市

入退場自由・回遊型

- ・観客は自由に入退場できます。
- ・作品はタイムコードによって進行しております。
- ・場内は自由にご鑑賞いただけます。会場は場所がございします。ご自身の鑑賞のやりとりに合わせてください。万一ご鑑賞が中止した場合は責任は負いかねます。ご了承ください。
- ・ご鑑賞の遅くなった方は遠慮なく受付にお声がけください。
- ・大きな声は禁断です。お静観ください。

【お断り】

- ・場内禁煙
- ・携帯撮影、録音のプログラム等、音の出る機器は持ち込まないでください。
- ・鑑賞の遅りや遅れは、足をかける等の行為は危険です。ご注意ください。

【写真および動画の撮影】

撮影していただけます

<ご注意>

他のお客様および出演者への配慮を固くお願い申し上げます

- × フラッシュ、三脚の使用
- × 長時間にわたる動画撮影

<SNS、ブログ等への投稿>

ぜひ感想や写真を発信してください。
 #antibodiescollective

客用エレベーター
 事務室
 男女トイレ
 通路
 階段

A: 50:53
 B: 59:01 / 11:55
 C: 54:58
 D: 45:31
 E: 47:00 / 24:11
 F: 45:09 / 32:38

“回遊型の演出は、観る人にも聴く人にも、改めて観るや聴くという作業を要求するような、それぞれの体験への働きに訴えるような、極めて「体験的」で「作業的」な創造性の地平である。舞台空間における自分の視点や立場というものを自発的に見つけ判断することを促進されるのである” (作品ノートより)

ANTIBODIES Collective 次回公演
 Creative Independence Performance Series 2
 2019/11/9,10 京都大学 西館講堂

A4 二つ折り 両面 (4色)

なんと!

本日終演後の舞台上
舞踏を体験できます

子どもでも大人でも楽しめる舞踏ワークショップ
～らくだ体操から踊りへ～

本日 15:30 ~ 18:00

対象 : どなたでも (定員 30名)
会場 : 舞台上
参加費 : 無料
特記事項 : 動きやすい格好でご参加ください
裸足になるためシューズはいりません

お近くのスタッフまで気軽にお声がけください



大駱駝艦 田村一行 舞踏公演

彼方を語る人

令和元年 12月7日(土) 14時開演
川根本町文化会館



●デザインの魂
足元は、デザイナーを育成するために、デザイナーのTibaud イメージをもとに、数回試作を重ね撮影し、その中のベストショットを選び、デザイナーが自らに表現世界を画いていきます。白い演劇は、様々なジャンプで追加されています。

ごあいさつ

本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございます。
川根本町文化会館では2013年より三度、赤石太鼓保存会の皆様と作品を制作してまいりました。以来、その美しい景色と共に、川根は私の心の中にもあり続けています。
本作は、川根にまつわる様々な話を題材とし、それを「親子で見て楽しめる作品」として制作しました。知ることのできたたくさんのお話は、いたる所から川根の匂いや呼吸を感じられる、興味深いものばかりでした。自分にとって、また新しい川根の魅力をいただいた気分です。本日は、その雄大な世界に包まれながら、舞台上立つ所存です。
最後となりましたが、本公演は多くの方のお力によって実現しました。この場をお借りしてお礼申し上げます。最後までごゆっくりとお楽しみください。

田村一行

振付・演出・出演：田村一行 (大駱駝艦)

1998年大駱駝艦に入艦。舞踏家・俳優である藤赤兎に師事。02年より自らの振付・演出作品の創作を開始。緻密な振付で構成する作品には、新たな舞踏の可能性があると注目されている。
08年文化庁新進芸術家海外留学制度により、フランスを拠点に活躍する振付家、ジョセフ・ナジの元へ留学。小野寺修二、宮本亜門、白井晃、渡辺えりとの舞台など客演も多数。舞踏の特性を活かしたワークショップは、子供から高齢者、学生、各分野のアーティストまで幅広く好評を得ている。

出演：藤本梓 (大駱駝艦)

2007年入艦。以降、大駱駝艦全作品に出演。
主な外部出演作品に『やわらかなかぐら』(杉原邦生演出)、映画『検察側の罪人』(原田真人監督)などがある。

出演：小田直哉 (大駱駝艦)

2008年入艦。以降、大駱駝艦全作品に出演。
主な外部出演作品に『金閣寺』(宮本亜門演出)、『鑑賞者』、『竹取』(小野寺修二演出)、『神なき国の騎士』(野村萬葉演出)、ジェフ・ミルズMV『PLANETS』などがある。

振付・演出・美術：田村一行
テクニカルスタッフ：阿蘇尊 (大駱駝艦) 技術補助：渡部泉介
音響：山田裕子 照明：徳部佳紀、大塚光 舞台監督：菅沼新太
制作補助：新船洋子 (大駱駝艦/キャメルアーツ株式会社)、関田全 (一般財団法人地域創造、中西麻友 (NPO法人 芸術家と子どもたち)
フライヤー写真撮影：服部了士
制作：川根本町文化会館、株式会社シーアイセンター
プロデューサー：甲賀雅章
令和元年度公共ホール現代ダンス活性化事業
主催：川根本町教育委員会 共催：一般財団法人地域創造

彼方を語る人 場面表題

- ① 旅のはじまり
- ② 道をさがす人
- ③ 神隠し
- ④ 物語の中へ
- ⑤ 天狗の足跡
- ⑥ 川島と柏木
- ⑦ あくたればあとお仙ぎつね
- ⑧ かさじぞう
- ⑨ 恋の代
- ⑩ 語り継がれる物語
- ⑪ 彼方を語る人

田村一行と川根本町文化会館

助演に「赤石太鼓保存会」(川根本町)の皆さまをお迎えしこれまで三回、オリジナルの舞踏公演を積み重ねてきました



2013年1月27日
『はざま』



2014年3月23日
『どっ』



2016年2月28日
『狩人と冬の鬼』

サントミュージゼ上田市交流文化芸術センター

B4 二つ折り 両面 (1色)



主催 上田市(上田市交流文化芸術センター)/上田市教育委員会 共催(一財)地域創造

北尾 亘 ダンス公演

DOUBLE BILL

ダブル・ビル
振付・構成・演出:北尾亘(Baobab)

あはたの足跡しを踏むたしを
振付 出演:北尾亘 中村 音

LMU-331-
出演:北尾亘

2020.02.02 SUN.
2P.M. 開演
サントミュージゼ
(上田市交流文化芸術センター)
大スタジオ

ARTIST MESSAGE

本日はご来場いただきありがとうございます。
お初にお目に掛かります、北尾亘です。この上田の地、素敵なサントミュージゼの空間で踊らせていただける事、そして立ち会いいただけました事を光栄に思います。

“今、この時代の中で踊る意味”をいつも探しています。
「ダンスは決して特別なことではなく、誰しもの中にもある(或いは、眠っている)」と感じながら、
作り手の眼で世界を眺め、社会を、人々の痛みを眺め、ダンサーの身体感覚で呼吸して、色んな空気を取り込む、その全てを作品に直し、書きながら書きながら披露する、ある意味で振付の代弁者でありたいと願っていますし、それくらいに日常の中にはダンスの種も眠っているのだと信じています。

今回お届けするのは、この2020年にこそ相応しいと感じる2作品です。人と人との間に存在する【埋まらない距離】。現代にとっては当たり前とも正常とも言えてしまえそうなそれを、“今だからこそ”埋めようともがいてある、そのもがきはやがて、叫びとなり、最初に立ち返り【直声】となって、身体から空間を共振させて、やがて折りに変わり落ちてゆく。

言葉だけでは言い表わせそうにもないのですが、私にも角にも上田の地とサントミュージゼの温みを想像しながら選んだこの2作品が、皆さんにとって美りある出会いと時間となる事を願っております。最後までごゆっくりとお楽しみください。

北尾 亘



PROFILE

北尾 亘 WATARU KITAO
1987年 兵庫県生まれ。演出家・ダンサー・俳優・Baobab主宰。幼少期舞合舞に携わり、クラシックバレエからストリートダンスまで多様なジャンルの経験。2010年ダンスカンパニー「Baobab」を創設。全作品の振付・構成・演出を行う。これまでに舞台公演10回、劇場公演1回、海外のフェスティバルに多数参加。毎年ダンスフェスティバル「DANCE SCUMM」を主催、個人として、演劇「トラマ・CM」映画に多数振付のほか、全国で9回、プロミュージカルを振付、ダンサー俳優として、兵庫県立コンドルズ・中興義演法(神崎大学)に在籍。山本孝(山本孝)家の作品に出演。小田20都市以上で舞台に立つ。俳優4人のドキュメンタリー映画「ネットは人がメンバール」など、活動の場は多岐にわたる。
横浜ダンスコレクション2018 コンペティション1ベストダンサー賞(2018)、第10回エニエル舞台新人賞(2014)、トヨタコロオグラフィアワード2012オーディエンス賞(2012)受賞。兵庫県舞台芸術家奨励料、尾花緑子芸術文化奨励料 非常勤講師
Official HP: <http://old.baobab-bb.bo.jp/index.html>

中村 音 YO NAKAMURA
舞臺舞 長岡市出身。早稲田大学在学中にコンテンポラリーダンスを始め、2016年より自身の作品を作り続け、ルー・ニーア・シビル舞臺舞、東京文化芸術祭市立舞臺などで公演する中、国内外で賞賛されている。舞臺の登場人物になりきって踊る「歌謡舞スウィッチ」と題したワークショップを各地で展開中。二陸金オベラ「シューベルト・オペラ」などの舞台や、コンコルドsumika(MAGIC)・Cocoro No Republic(Dream Beach Sunset)のミュージックビデオの振付を担当。アグリカルティーン(Hello Kitty)や、感心るみ(美談にコンパイル)のミュージックビデオなども出演。
ダンスコンテストNEXTREAM21審査員特別賞(2012年)、第1回セッションベスト賞(2012年)、横浜ダンスコレクション大賞最優秀・シビル舞臺舞賞(2013年)、トキコエノルンダンスフェスティバル大賞賞(2014年)、舞臺エニエル舞台新人賞(2016年)
Official HP: <https://yo-nin.wishto.com/yo-nakamura/>

ダブル・ビル
1部:スタジオ作品 あはたの足跡しを踏むたしを
振付 出演:北尾亘 中村 音 中村 音(三浦あまみ(ココ))
舞臺:舞臺舞(2019年12月19日・20日・21日)

1部終演後:スタジオ公演
2部:北尾亘作品 LMU-331-
出演:北尾亘 中村 音(中村 音(Baobab))
舞臺:舞臺舞(2019年12月)

A3 二つ折り 両面 (4色)

2019年度大駱駝艦・田村一行舞踏公演記録

● 市民参加クリエイション公演『リュウグウノツカイ』 2020年1月16日～26日



大駱駝艦 次郎公演
日時 3月2日(月)～8日(日)
場所 大駱駝艦・香中天 (注:本館大駱駝艦専用棟)
大駱駝艦 舞踏公演 『まどろ』

豊岡市民プラザ 次郎自主事業
日時 3月27日(金)19:30
28日(土)14:00
場所 豊岡市民プラザ ほっとステージ
劇団「演劇FACTORY」『WAR EVE 1925 - 戦争最後 -』

写真提供 igaki photo studio

ノキシタノマロウド

大駱駝艦・田村一行舞踏公演 アーティスト公演

流れつく 名も知らぬ物語
生れたばかりの客人が 昔話を語りだす
泣いて 笑って 誰かを愛し死んでいく...
流離譚の先を生きる人 その旨のために踊るのだ

演出 田村一行
主演 大駱駝艦・田村一行
小田直哉
藤本梓
伊藤おらん

2020年2月2日(日)
15時開演 (14時30分開場)
豊岡市民プラザ ほっとステージ

主催 豊岡市民プラザ/NPO法人フリップ
共催 一般財団法人 地域創造
協力 NPO法人アーツセンター事業

2019

TEL: 090-422-0071 E-MAIL: info@igaki-photo.com

ごあいさつ

本日はご来場限り、誠にありがとうございます。

地方都市に暮らし、愛したアーティストと共に芸術性の高い作品を創造することは、地域文化の礎となる一歩なだけに、企画した「大駱駝艦舞踏公演」も三年目になりました。

今年は、大駱駝艦と公善市長が共にクリエイション・公演に取り組み「市民参加クリエイション公演」と、大駱駝艦メンバーのみで上演する「アーティスト公演」を二選連続で上演する特別な企画となりました。各地からこの企画に参加・観劇のために豊岡へお集まりいただき、舞踏を通じて地域文化創造の可能性と深まりを感じさせる稀有な機会となりました。どうぞ最後までお楽しみください。

最後になりましたが、田村様、大駱駝艦の皆様をはじめ、一般財団法人地域創造の皆様、この公演に足を運んでいただいた観客の皆様、誠に申し上げます。

豊岡市民プラザ

本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

先週に引き継ぎ、作品を上演させていただきましたこと、この上なく光栄に存じます。「ノキシタノマロウド」は、大駱駝艦舞踏団手立の名による作品です。これまで豊岡で上演させていただいてきた舞台とは、少し異なるモノとなりました。幅広い層の方々に楽しんでいただければ幸いです。

舞台は昨年、2017年にはじめて観客を語り、様々な体験をさせていただきました。以来、豊岡はその景色の人と共に、私の心の中にも残っています。知ることでできた話には、どれもこの場所ならではの切実な想いがこめられて、大変に興味深いものでした。本作は、その縁々な話や体験を題材とし、時を超えてそこに存在した自分自身を見つめる所からの創作を始めました。この素晴らしい素晴らしい瞬間を噛みしめながら、本日は舞台に立つ予定です。

最後となりましたが、本公演は多くの方の協力によって実現しました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

大駱駝艦 田村一行

出演



田村一行
(大駱駝艦)



小田直哉
(大駱駝艦)



藤本梓
(大駱駝艦)

1. 旅のはじまり
2. 道をさがす人
3. 神隠し
4. 物語の中へ
5. 語り部
6. 天狗の足跡
7. 竹野の海へ
8. 沢庵の作り方
9. 祈る人
10. リュウグウノツカイ
11. 語り継がれる物語
12. 物語の先を生きる人

場面表題

テクニカルスタッフ

伊藤おらん
(大駱駝艦)

舞台監督: 岩崎 礼二
音 響: 野村 聡子
経 理: 藤原 美穂
舞 台: 小林 勇博
衣 装: 川口 安実
鳴 謝: 中村 由希
劇 作: 居相 伊美
企画制作: NPO法人フリップ

1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

2 対象団体

- (1) 地方公共団体
- (2) 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- (3) 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益財団法人等（(2)を除く）のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

3 実施団体の決定

地域創造は、上記団体から提出された事業申込書等をもとに審査し、実施団体を決定の上、当該団体に対して速やかに通知する。

決定に当たっては、下記4の各プログラムを継続して実施する団体及び当該事業を実施したことがない団体を優先するが、過去に当該事業を実施した団体であっても、市町村合併の有無、公共ホールの管理者の変更、当該事業についてのスタッフの習熟度等の事情を考慮して、予算の範囲内で決定する。

4 事業内容

実施団体は、以下のいずれかのプログラムを実施する。

なお、実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョン（※）に基づいて選択することとし、事業実施の翌年度以降に他のプログラムを継続して実施することができるものとする。

※ビジョンとは、別記様式1-2の「事業実施後の事業展開・ビジョン等」のことをいう。

(1) Aプログラム（地域交流プログラム）

原則として、連続する4日間の事業日程で、学校や福祉施設等でのアウトリーチと公募型のワークショップを4～5回実施する。ただし、アウトリーチは3回、公募型ワークショップは1回実施する。

なお、原則として、事業の実施に向けて、コーディネーター等による現地における個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、地域創造が決定する。

(2) Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）

全9日間の事業日程を連続する4日間及び連続する5日間などの2回に分けて、市民参加作品を創作し1回上演する。公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募型ワークショップを1回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による現地における個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

(3) Cプログラム（公演プログラム）

原則として、連続する4日間の事業日程でコンテンポラリーダンスの公演（レパートリー作品）を1回上演する。

公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募型ワークショップを1回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

5 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。下記以外の経費及び実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した経費については、実施団体の負担とする。

(1) 登録アーティスト等派遣経費

① Aプログラム

登録アーティスト及びアシスタント（ソロの場合は1名まで）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

② Bプログラム

登録アーティスト及びクリエーションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

③ Cプログラム

登録アーティスト及び共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

※テクニカルスタッフ等は、公演準備のサポート役として必要と判断されるテクニカルスタッフ、演出助手、制作者及びその他地域創造が認めた者で、個別研修（現地下見）及び実施時に派遣する。

(2) 公演負担金

Bプログラム及びCプログラムについては、実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、別紙2対象経費の2/3以内で、50万円を上限に実施団体に対して負担する。

6 事業実施に対する支援

(1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施団体を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修会を開催する。

なお、参加に係る旅費等は実施団体の負担とする。

(2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施団体に実践的なノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るために、企画制作の経験が豊富なコーディネーターをアドバイザーとして派遣する。

コーディネーターの派遣は、原則として、個別研修（現地下見）及び実施時に行う。

7 提出書類等

(1) 事業申込書 …別記様式1-1、1-2、1-3（1-3はBプログラム及びCプログラムのみ）

平成31年度に本事業の実施を希望する対象団体は、「事業申込みにあたっての留意事項」を参照のうえ、必要書類を添えて、平成30年6月1日（金）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。

なお、2(2)及び(3)に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること（別記様式1-4）。

- (2) 事業実施計画案 …別記様式2-1、2-2
全体研修会の終了後、地域創造の指定する日までに当該書類を提出すること。
- (3) 事業実施計画書 …別記様式3-1、3-2、3-3（3-3はBプログラム及びCプログラムのみ）
事業実施2か月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。
- (4) 事業実績報告書 …別記様式4-1、4-2、4-3（4-3はBプログラム及びCプログラムのみ）
事業終了後30日以内に、事業実施にあたり制作したチラシ、パンフレット等を添えて当該書類を提出すること。
ただし、平成32年3月16日（月）以降に事業が終了する場合にあつては、平成32年4月16日（木）までに提出すること。
- (5) 公演負担金請求書 …別記様式4-4（Bプログラム及びCプログラムのみ）
該当する経費がある場合は、事業終了後30日以内に、別途指定する関係書類を添えて当該書類を提出すること。
ただし、平成32年3月16日（土）以降に事業が終了する場合にあつては、平成32年4月16日（木）までに提出すること。
- (6) 変更承認申請書 …別記様式5-1、5-2
実施団体の決定通知を受けた後に申請内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。
なお、変更内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

8 その他

- (1) 共催に関する表示
実施団体は、事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。
【表示例】 共催：一般財団法人地域創造、共催：（一財）地域創造
- (2) 損害賠償の免責
事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。
- (3) 関係書類の提出
地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。
- (4) 情報提供
地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施団体は協力するものとする。
- (5) その他
事務手続き及びスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。
また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と実施団体が協議して決定する。

登録アーティスト

平成 31 年度 登録アーティスト（計8組）

北尾亘、鈴木ユキオ、田畑真希、田村一行、長井江里奈、中村蓉、東野祥子、
セレノグラフィカ（隅地菜歩＋阿比留修一）

参考

事業の流れ・手続き等

●平成 30 年度（事業実施前年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4月～6月上旬	申込み受付 申込書締切：6月1日（金）	事業申込書
7月上旬	事業内定通知	
7月30日 ～8月1日	全体研修会（アーティストプレゼンテーション）の開催 開催場所：東京芸術劇場	
8月中旬	事業実施計画書の提出	事業実施計画書
9月下旬	派遣アーティスト、担当コーディネーターの決定・通知	

●平成 31 年度（事業実施年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4月上旬	事業決定通知	
4月～	個別研修（現地見）の実施	
事業実施 2か月前	・事業内容の確定、事業実施計画書の提出 ・主催団体、派遣アーティスト、地域創造の三者で契約の締結	事業実施計画書
事業終了後 30日以内	・実績報告 ・負担金の請求	事業実績報告書 公演負担金請求書 (Bプログラム及びCプログラムのみ)

公演負担金対象経費（対象経費の 2/3 以内で上限 50 万円）

※ Bプログラム及びCプログラムのみ対象

1 対象経費

文芸費	現地舞台監督料、現地における照明・音響プラン料、調律料、著作権使用料など
設営・舞台費	現地舞台仕込等人件費、現地照明・音響等オペレーター人件費、照明・音響等機材費、舞台設営費、リノリウム借上料、市民参加作品に関わる経費（衣裳費、舞台美術費、メイク費、小道具費、運搬費など）など
会場費	会場借上料
謝金・旅費・通信費	地元出演者等謝金、会場整理等賃金、地元出演者等交通費・宿泊費・日当費、通信費など
宣伝・印刷費	広告宣伝費、チラシ・ポスター・プログラム・チケット製作費、チケット販売手数料など
記録費	録画費、写真費、記録映像作成費ほか
消耗品費	事業に係る消耗品費
保険料	ワークショップ参加者等保険料ほか

※対象経費としての判断が困難な項目等は、関係者間で協議し決定する。

2 対象外経費

- ① 事業実施団体以外の者が支出した経費
- ② 事業実施団体及び申請者が請求者となっている経費（例：利用料金（地方自治法第 244 条の 2 第 8 項の規定によるもの）を収受する指定管理者が自ら当該施設を使用して事業を実施した場合に、自身に支払う形となる利用料金等）
- ③ 地域創造負担を超えるアシスタント・共演者等に係る経費
- ④ 打ち上げ費、その他飲食関係費（ケータリングを含む）
- ⑤ 手土産代、記念品代、出演者等への花束代等物品による謝礼費用
- ⑥ 事務局経常費（事務所維持費、職員給与等）
- ⑦ 登録アーティスト等の現地移動にかかる交通費
- ⑧ その他、対象経費として適当でないと地域創造が判断したもの

コーディネータープロフィール

(2020年4月現在)

●大澤苑美（八戸市新美術館建設推進室 主事兼学芸員）

1983年名古屋市生まれ。東京藝術大学大学院修了。2004～2006年取手アートプロジェクト（茨城県取手市）運営スタッフ。2008年から（一財）地域創造に勤務し「公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）」を担当。2011年4月より現職。コンテンポラリーダンスを軸に、地域の資源や人を巻き込んで行う「南郷アートプロジェクト」、八戸の工場とアートを組み合わせて魅力の発信をする「八戸工場大学」などのアートプロジェクトの企画運営を担当するほか、八戸市新美術館準備など八戸市の文化行政に携わる。

●小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

1977年岩手県一関市生まれ。小学校から郷土芸能「鹿（シシ）踊」を始める。関東の大学で外国語文化を学び、台湾での留学を経て、自らとそれを形作る文化について考えるようになる。帰国後、郷土芸能のネットワーク組織（公社）全日本郷土芸能協会に入職、芸能の魅力発信や支援、コーディネートに携わる。また、東京鹿踊ならびに縦糸横糸合同会社を組織し、風土とその暮らしの中で受け継がれてきた地域文化（芸能、祭り、技、食など）の継承と発展、関わり方の入口をデザインする企画提案を行っている。（公社）全日本郷土芸能協会理事（東京都）、縦糸横糸合同会社代表（宮城県仙台市）、東京鹿踊代表、行山流舞川鹿子躍保存会員（岩手県一関市）。

●神前沙織（NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（JCDN）チーフ・コーディネーター、プランナー）

2005年よりJCDNにて「踊りに行くぜ！！」等のプロダクション・マネージャーを担当。2009年以降は、子供から大人まであらゆる人を対象とした「コミュニティダンス」の普及に携わり、多数の市民参加公演をコーディネートする。他に、教育機関や高齢者／児童福祉施設、地域のお祭りなどでのダンスプログラムの企画・コーディネートなど。現在の主なプロジェクトは「こちかぜキッズダンス」「コミュニティダンス・ファンリテーター養成スクール」「創造的なダンスを用いた、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト」「コンテンポラリーダンス・プラットフォームを活用した振付家育成事業」「三陸国際芸術祭」など。

●坂田雄平（NPO法人いわてアートサポートセンター プロデューサー）

宮古市民文化会館プロデューサー・岩手県文化芸術コーディネーター（沿岸地域担当）を務めるほか、reto.incにて地域とアートを繋げるプロジェクトデザイナーとして活動。2003年より桜美林大学舞台芸術研究所チーフとして附属劇場を立ち上げ。2007年より財団法人地域創造にて演劇事業や調査研究事業に携わる。2012年より北九州芸術劇場にて演劇・ダンス事業のほか、フェスティバル事業や領域横断型プロジェクトを担当。2017年より現職。

●中富勝裕（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

2006年より横浜赤レンガ倉庫1号館にて、国際的なダンスフェスティバル「横浜ダンスコレクション」を始め、海外との共同制作や数々のダンス公演を担当。アーティストの育成、発信や活動場所拡充のため、国内外の劇場やフェスティバル等のネットワーク構築、連携に力を入れている。また舞台芸術の新たな観客創造を目指し、地域・企業と劇場をつなぐ事業を手がけている。Seoul Choreography Contest 審査員（2010年韓国）、WIFI Body Festival New Choreographers Competition 審査員（2014年フィリピン）も務めた。

●中西麻友（NPO法人芸術家と子どもたち 事務局長）

1980年大阪生まれ。成安造形大学デザイン科写真クラス卒業。2006～2008年大阪市内の小学校に教諭として勤務。その後1年半のイギリス留学を経て、2011年3月より「NPO法人芸術家と子どもたち」に勤務。ワークショップ・コーディネーターとして、学校（特別支援学級含む）や幼稚園、保育園、児童養護施設、障害児入所施設等での事業を担当。

●宮久保真紀（Dance New Air チーフプロデューサー）

1997年～2015年、スパイラル / (株)ワコールアートセンターに勤務。パフォーマンスアーツを担当する他、スパイラル内外の展覧会やイベント企画に携わる。2年に一度、東京・青山を中心に開催している国際ダンスフェスティバル「Dance New Air」には前身のダンスビエンナーレトーキョー 2004から参加。劇場空間だけでなく、屋外スペースや映画館、ブックセンターなど様々な場所を舞台にダンスを通して新たな可能性を提案している。2015年8月より（一社）ダンス・ニッポン・アソシエイツ代表理事。

令和元年度公共ホール現代ダンス活性化事業報告書

発行／一般財団法人地域創造

〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階

Tel.03-5573-4055、4077 Fax.03-5573-4060

発行日／令和2（2020）年6月